

昭和四十四年三月刊

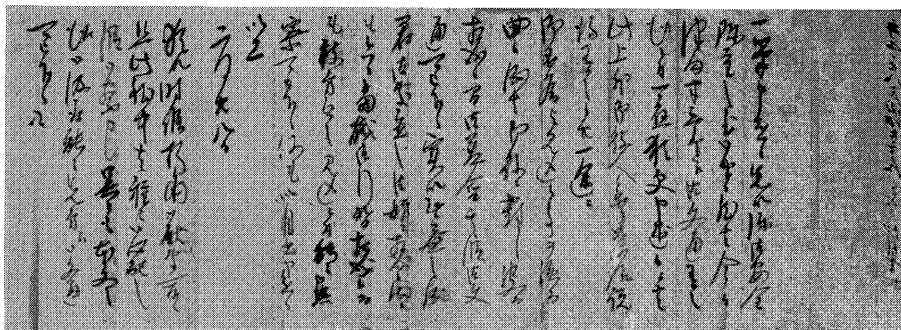
史料館所藏史料目錄

第十五集

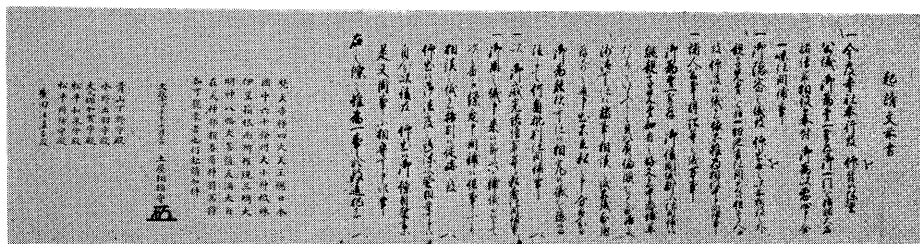
史料館

史料館所藏史料目錄

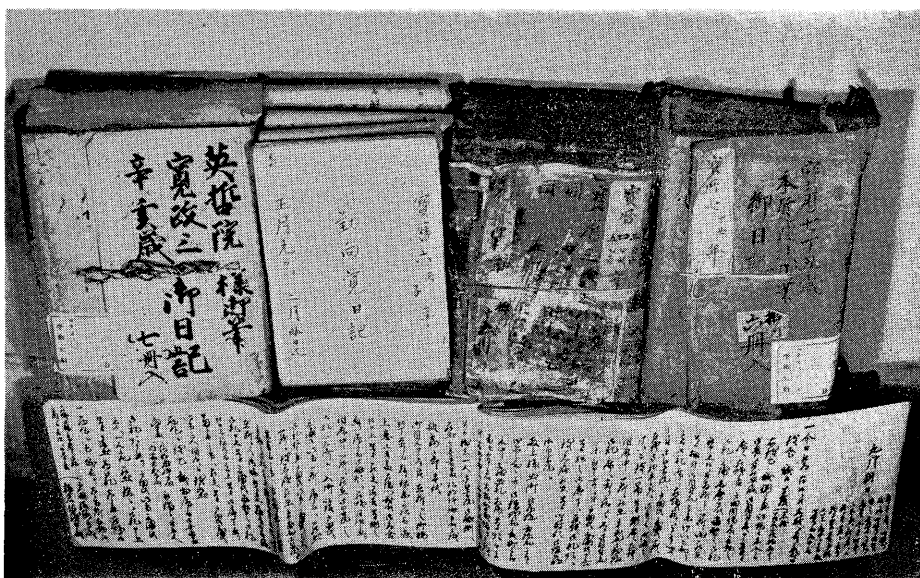
第十五集



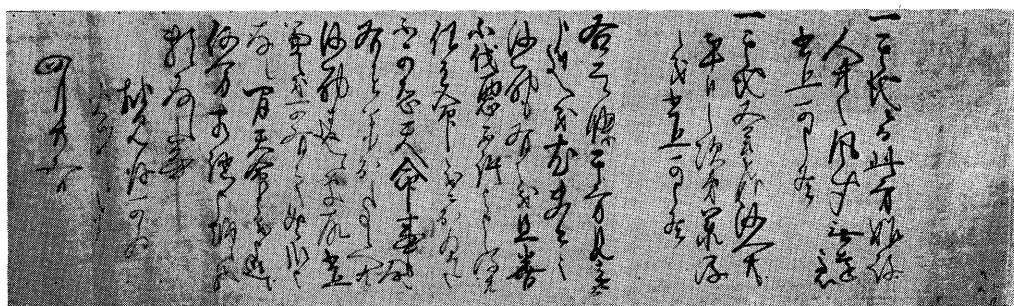
大坂城代土屋寅直書状控 戸田伊豆守宛
安政五年 〔土屋家文書 1779〕



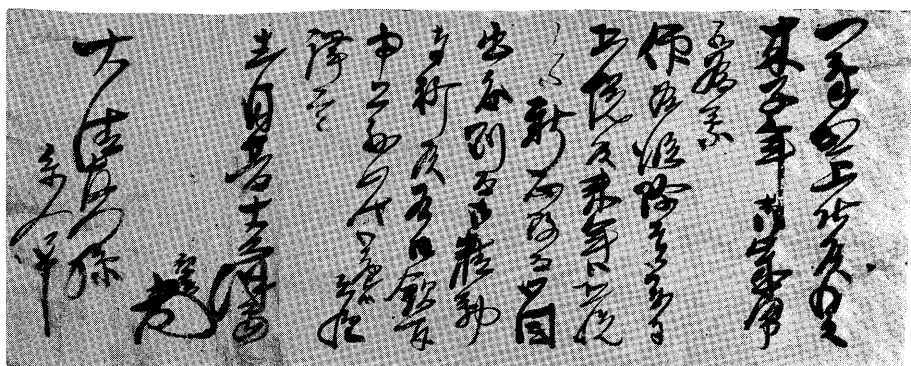
土屋彦直寺社奉行御役誓詞 文政11年
〔土屋家文書 778〕



土屋家当主日記 〔土屋家文書〕



土屋泰直書状 大久保親脩宛 寛政元年
〔大久保家文書 1〕



大久保要書状 大久保清左衛門宛
〔大久保家文書 97〕



西丸大 置帳写 〔福井家文書 2〕

凡 例

- 一 本目録は『史料館所蔵史料目録』第十五集として、「常陸国土屋家文書」、「土屋家大久保家文書」および「秋元家福井家文書」の三篇を収めた。
- 一 史料は利用上の便宜を考慮して、その内容・体裁等に応じ、暫定的な大・中・小の項目を立てて分類配列した。大項目は一〇ポイントゴチック活字、中項目は九ポイントゴチック活字、小項目は九ポイント活字で示している。また必要に応じて〇印で細項目を示した。但し、内容が多岐にわたり他の項目中にも掲げることを妥当と考えたものは*印を付して重出した。項目の下に↓印は、関連項目を参照しやすくするために示したものである。
- 一 史料の記載欄はほぼ、(一)表題 (二)「」内内容摘記 (三)作成者 (四)宛名 (五)作成年月日 (六)形態 (七)数量 (八)整理番号の順である。但し、史料「老中返札」の「」内は、土屋家差出書状の内容を示した。いちいち「」への返書」とする煩を避けたためである。「」内年月日は記載内容期間を示す。但し、日記については、原則として記載範囲年月日にはいちいち「」を付けなかった。
- 一 表題(史料名称)は原則として原表題を採ったが、適宜改変を加えたものも多い。詳細は巻末解題を参照されたい。原表題の無いものおよび原表題を改変したものは仮りに命名して掲げ、(一)を付して前者と区別した。なお、変体・異体・略字等は、い・ろを除き原則として正字に改めた。
- 一 作成者または宛名は、表題から推知しうるもの、項目によって判明するものは適宜省略した。官名・所属名なども、必要に応じて付した。史料「御附札」の作成者名のないものは、原則として老中である。煩を避けるために省略したものである。
- 一 写・控・案紙等の区別は、適宜、原表題のあるものはその下に八ポイント活字で、仮表題のときは(一)に表題に続けて示した。
- 一 作成年代は、年月日・干支もできるかぎり採り、簿冊等で数年にわたるものは、始年―終年を示した。(一)内は推定年代、△▽は作成年代と区別するために筆写者名・筆写年代を示す場合にのみ用いた。
- 一 史料の形態は、簿冊類では半(半紙判)、美(美濃判)、美大(美濃大判)、半半(半紙半截判)、横長半(半紙横長判)、横半半(半紙横長判半

截)、横長美(美濃横長判)、横美半(美濃横長判半截)などの略称によって原書の大きさの大概を示すにとどめ、一紙書附類は通をもって数量を示し紙形の大小・寸法は省略した。継文書であることをとくに示す必要のあるときは、継一通のごとく示した。また絵図・折本類は縦横の寸法を、卷子本は縦の寸法をセンチメートル単位で示した。

一 数量の上部に示した板は木版物、刊は公刊活字印刷物、印はとくに公刊を目的としない活字印刷物である。

一 最下欄の数字は、各史料の整理番号を示す。照会・閲覧・引用の場合に利用されたい。「土屋家文書」および「大久保家文書」の史料で整理番号の上にDとあるのは、当館の収納番号36Dの略称である。小番号のあるものは、表題欄に1、2等の算用数字で順序を示し、下欄には整理番号を重複表示しなかった。

一 卷末に簡単な解題を付した。

目次

口 繪
凡 例

頁

常陸国土浦土屋家文書目錄……………一

目次……………二

目錄……………五

土屋家中大久保家文書目錄……………九

目次……………八

目錄……………八

秋元家中福井家文書目錄……………九

目次……………九

目錄……………九

常陸国土浦土屋家文書目錄解題……………一〇三

土屋家中大久保家文書目錄解題……………一〇四

秋元家中福井家文書目錄解題……………一〇三

常陸国
土浦
土屋家文書目録

常陸国 土浦 土屋家文書目録目次

領知	五	明治後官職	一七	参勤交替	三
朱印状・領知目録	五	寅直、挙直、正直	二七	参府、滞府、御暇、仮養子、御供連、在着御礼・献上、通行図	三
朱印状・領知目録、御朱印渡・頂戴御礼	六	吉凶	三〇	勤番	四
鄉村高帳・鄉村仮名付帳	六	婚姻、病氣、服忌・服穢、葬儀	三〇	御門番、火之番、町番、立固、日光勤番、御法事奉行、朝鮮人来聘御用	四
領知引替	六	熱海湯治	三三	田中城請取	四
版籍奉還・廃藩置県	六	日記	三三	御手伝普請	四
繪図	七	篤直、泰直、英直、彦直、寅直、挙直	三三	川々普請、江戸城普請	四
国図、土浦、泉州領	七	武術・学芸	三三	国役金	四
城郭	七	兵術、猪狩図、史誌・伝記、漢籍、国語	三三	御祝言上・献上	四
普請・堀浚、城郭図	七	国文学、詩文・絵画、仏書、遊芸、書籍目録	三三	定式御祝儀、時献上臨時献上共、即位、將軍宣下・叙任、勅使下向、御能、御名改・御婚儀、御移徙、御台様叙礼、御台様御着帯・御安産、御誕生等、御養君被仰出、大納言様御元服・御官位、大納言様御移徙・御婚儀、姫君様御婚礼、改元祝、天下一統祝、快氣祝・具足祝、御成祝、御参詣祝、日光御鏡御頂戴、老中就任	四
屋敷	八	土屋邸御成一件	三三	拝領御礼	五
屋敷、屋敷図	八	明治後家政	三三	將軍宣下、御鷹之雁、御料理	五
土屋家	九	家政一般、家扶日誌、地所・家屋売買、樹芸社・三ッ輪店、寄附・献納	三三		
家系	九	目録・入記	三六		
系図、系譜、同族系譜、諸家系譜	九	勤役	三六		
元服	二	御代替	三六		
相統	二	誓詞、献上	三六		
初御目見、家督相統・隠居、養子	二	出仕	三六		
官位	三	御足袋・御杖願、出仕日	三六		
叙任、授爵、正直授勲	三				
印譜・名書	一七				

見舞……………	三	転任、勤役中書類	
將軍家不例、城内出火、地震		落政……………	六
悔……………	五	藩政……………	六
禁裏、將軍家、老中・大名死去		藩法、藩財政、維新後藩制改革、戸口、	
香奠献上……………	五	寺社、領内見分、巡見図	
維新後勤役……………	五	勘定所伺……………	三
御用召状……………	五	公事方、勝手方	
御役儀……………	五	家中……………	五
奏者番……………	三	席順、諸士年譜・分限帳、知行・禄制	
補任、勤仕中書類、御鷹野、諸大名御礼、		雑……………	七
御葬儀・御法事、増上寺上使、日光御名		〔参考〕……………	七
代、勤方例書、絵図			
寺社奉行……………	五		
補任、評定所関係書類、寺社制			
大坂城代……………	五		
転任、勤役中書類、勤方例書、外国事情			
異国船渡来一件・海防、大坂湾開港・警			
備一件、大坂湾・川口絵図			
大坂城代以後公用人記録……………	五		
弘化年間、嘉永六年、安政元年、安政二			
年、安政四年、安政五年、万延元年、文			
久二年、文久三年、元治元年、慶応元年			
明治元年 四年、城代勤方例書、異国船			
渡来・風聞、その他			
京都所司代……………	六		

常陸 浦土屋家文書目錄

(文書記号 29D)

領知

朱印狀・領知目錄 〔「目錄・入記」〕

朱印狀・領知目錄

敵有院様御朱印写一	土屋但馬守(數直)宛	二通	七五
寛文四年四月五日			
敵有院様御朱印写二	土屋但馬守(數直)宛	二通	七五
寛文九年八月三日			
常憲院様御朱印写一	土屋相摸守(政直)宛	二通	七五
貞享元年一月一日			
常憲院様御朱印写二	土屋侍従(政直)宛	三通	七五
元禄七年五月二五日			
常憲院様御朱印写三	土屋(政直)宛 元禄一二年一月二五日	二通	七五
文昭院様御判物写	土浦侍従(政直)宛 正徳二年四月一日	二通	七五
有徳院様御判物写一	土浦侍従(政直)宛	二通	七五
享保二年八月一日			
有徳院様御朱印写二	土屋左京亮(陳直)宛	二通	七五
享保五年二月一日			
惇信院様御朱印写一	土屋左門(篤直)宛	二通	七五
延享三年一月一日			
惇信院様御朱印写二	土屋能登守(篤直)宛	二通	七五
寛延四年三月一日			

浚明院様御朱印写	土屋能登守(篤直)宛	二通	七五
宝曆二年一月二二日			
文恭院様御朱印写	土屋能登守(泰直)宛	二通	七五
天明八年三月五日			
領知目錄写	老中青山大膳亮幸完・松平右京亮輝和 土屋能登守(泰直)宛 天明八年三月五日	一通	七五
慎徳院様御朱印写	土屋采女正(寅直)宛	二通	七五
天保一〇年三月五日			
温恭院様御朱印写	土屋采女正(寅直)宛	二通	七五
安政二年三月五日			
昭徳院様御朱印写	土屋采女正(寅直)宛	二通	七五
安政七年三月五日			
御朱印渡・頂戴御礼			
老中返札	政直宛 子年九月二六日(天和元力)	一通	八六
老中返札	政直宛 九月二八日(天和元力)	一通	八六
老中御書附	篤直宛(延享三年)二〇月一〇日	一通	一六元
老中返札	篤直宛 一〇月二八日	一通	一六元
老中御書附	泰直宛 天明元年一〇月二二日・天明八年三月四日	二通	一六元
老中御書附	寅直宛 天保一〇年三月四日	一通	一五三
老中返札	寅直宛 安政二年四月四日	一通	一五三
御代々御拝領御知行割御領知目錄写	全	一冊	三三
〔寛文四年・天保一〇年〕			

美

御代替御朱印取調一件 御用懸り関三郎兵衛・山崎右膳 天保八年一〇月

横長半 一冊 五九

御朱印二冊目 御用懸り関三郎兵衛・山崎右膳 天保九年一月

半 一冊 六〇

御朱印三冊目 御用懸り関三郎兵衛・山崎右膳 天保九年三月

半 一冊 五〇

○ (御朱印写上包紙)

郷村高帳・郷村仮名付帳

一四枚 五三

常陸国下総国和泉国美作国近江国之内領知郷村高辻帳 土屋能登守 井上遠江守宛 寛延元年閏一〇月

美大 一冊 五九

和泉国日根郡美作国吉野郡近江国伊香郡之内郷村高帳 土屋能登守家来山村郷助 宝曆二二年八月

美 一冊 五九

天明度常陸国下総国和泉国美作国近江国之内領知郷村高辻帳 土屋能登守 松平和泉守・青山大膳亮宛 天明七年

美 一冊 六〇

常陸国新治郡信太郡下総国相馬郡和泉国日根郡筑波郡茨城郡 郡美作国勝北郡陸奥国岩瀬郡出羽国村山郡之内郷村高帳 土屋相摸守家来本間安兵衛 勘定所宛 天保四年十一月

美 一冊 六二

常陸国下総国和泉国美作国陸奥国出羽国之内郷村高辻帳 土屋相摸守 天保九年閏四月七日

美 一冊 六三

常陸国下総国和泉国美作国陸奥国出羽国之内郷村高辻帳控 土屋相摸守 天保九年閏四月七日

美 一冊 六三

温知録県令之郡 弘化三年四月
美作国御領分郡村仮名附帳 中村大助 享和三年三月

美半 一冊 六二
半 一冊 六七

領知引替

老中返札 「土浦城地請取御札」 政直宛 (貞享四年) 一一月二六日

一通 八七

(和泉近江美作国之内御領分高替陸奥出羽国之内ニ而御引替被仰付御書附) 松平越中守 土屋主税宛 寛政二年十一月

一通 九四

(奥羽替地被仰付ニ付田米取斗方同書御附札) 鳥井丹波守 土屋英直宛 寛政二年二月二七日

一通 一七七

(奥州領分境江榜示杭建度ニ付同書御附札) 勘定奉行根岸肥前守 土屋家家来宛 寛政三年四月

一通 九七

(上ヶ知残り高代知拝領高内訳御尋ニ付勘定所御書付) 土屋家留守居宛 寛政三年八月

一通 九五

○ *老中御書附 「領地差上願出ニ付養子願可申出」 左門宛 文化七年二月一五日

一通 一七六

版籍奉還・廢藩置県

(版籍奉還ニ付行政官御達書) 土屋相摸守宛 明治二年六月一九日

一通 六六

(任土浦藩知事太政官御達書) 土屋相摸守宛 明治二年六月一九日

一通 六元

常陸国 下総国 和泉国 美作国 磐城国 岩城国 羽前国 之内支配所戸籍

人別書 土浦藩 明治二年一月

半 一冊 六六

常陸国 和泉国之内穢多非人戸籍人別書
美作国 磐城国之内穢多非人戸籍人別書

半 一冊 六九

土浦藩 明治二年一月

常陸国 新治郡 河内郡之内郷村高帳
信太郡

美 一冊 六五

土浦藩 明治三年

從來支配地惣高并現米惣高五カ年平均取調
〔元治元年 明治元年〕 土浦藩 明治三年一月

美 一冊 六四

〔免土浦藩知事太政官達書〕 土屋拳直宛
明治四年七月

一通 六〇

〔廃藩ニ付太政官御達書写〕 東京府宛 明治四年七月

七通 八三

東京府達書 土屋拳直宛 明治四年七月

一通 四四

繪 図

国 図

常陸国絵図

90×121 一冊 一〇三

○

甲陽地図

109×100 一冊 二一三

土浦 領内図共

土浦御郭内外屋敷之図
町家之図

91×89 一冊 一〇五

土浦之図

132×185 一冊 一〇五

〔土浦東郊絵図〕

123×240 一冊 一〇七

岩間御領分村々魚絵図 〔巡見日程張紙アリ〕
天明八年

180×116 一冊 一〇四

岩間領絵図

182×105 一冊 一〇五

岩間領絵図

150×102 一冊 一〇六

谷原御領分之図并鬼怒川・小貝川

165×86 一冊 一〇四

○

土浦御城ヨリ東西江道法之図

54×64 一冊 一〇一

泉州領

泉州南日根郡御領分之図 〔小島村庄屋善右衛門指出〕 寛政元年写

89×120 一冊 一〇九

和泉国御旧領之絵図 副共 〔新在家村大庄屋西村新兵衛差出〕 寛政元年

73×32 一冊 一〇〇

泉州御領分絵図

192×197 一冊 一〇七

〔和泉国御領分之図〕

200×201 一冊 一〇八

泉州御領分谷川村古湊之図

134×92 一冊 一〇六

泉州紀州境之絵図 副共 〔小島村庄屋善右衛門差出〕 享保一六年入寛政元年写

47×82 一冊 一〇三

泉州日根郡山中新田村絵図 〔裁許国〕
元禄三年一月

141×174 一冊 一〇四

城 郭

普請・堀浚

老中書狀 〔田中城修復・堀埋立〕 土屋政直宛 天和三年八月三日	一通	六三	土浦御城之図	153×127	一鋪	10五
老中奉書 〔土浦城修復〕 土屋政直宛 元禄五年四月二五日	一通	六三	輝虎公惣繩之図 宮田十郎左衛門景興 宝曆一一年	108×116	一鋪	10二
老中奉書 〔土浦城修復〕 土屋政直宛 元禄九年三月二六日	一通	六二	屋敷			
老中奉書 〔土浦城修復〕 土屋政直宛 元禄一七年正月晦日	一通	六四	屋敷			
老中奉書 〔土浦城堀浚〕 土屋政直宛 享保元年七月二九日	一通	六三	老中返札 〔屋敷替御札〕 政直宛 卯（貞享四） 年二月二七日		一通	八三
老中奉書 〔土浦城修復・堀浚〕 土屋陳直宛 享保七年一〇年・同一七年	五通	六二	老中返札 〔拝領屋敷受取届〕 政直宛 貞享四年三月二二日		一通	八九
老中奉書 〔土浦城堀浚〕 土屋篤直宛 明和四年二月二九日	一通	四六	*老中返札 〔修復金拝借御札〕 寅直宛 安政三年八月六日		一通	一五三
*〔居城水害ニ付滞府仕度願書御附札〕 土屋泰直宛 天明六年八月二三日	一通	一五三	*老中返札 〔拝借金返納延期御札〕 寅直宛 正月二二日		一通	一五九
〔土浦城大手堀及屋根修復ニ付伺書御附札并ニ扣絵図〕 享和三年五月	一通	九二	*老中返札 〔類焼普請金拝借御札〕 寅直宛 四月二三日		一通	一五一
〔土浦三橋掛直ニ付伺書御附札〕 老中安藤対馬守 土屋英直宛 享和二年	一通	九九	江戸地震ニ付届書写 〔諸大名家〆〕 卯（安政元） 年一〇月二日	美半	一冊	九〇
〔土浦三橋掛直付伺書御附札〕 老中青山下野守 土屋彦直宛 文化一五年三月八日	一通	六七	〔宮華族士族邸宅地所取調ニ付京都府御達書写并届書扣〕 土浦藩 明治三年	半	仮一冊	九七〇
城郭図			〔地誌編修御用ニ付旧藩邸取調書控〕 口達・雛形共 明治一二年五月	半	一綴 D	二二〇
立田郭之図	49×59	一鋪	屋敷図	半		
土浦御城御館絵図	75×107	一鋪	辰之口御屋敷絵図	294×143	一鋪	10六
〔土浦御城絵図〕	95×93	一鋪	本所御屋敷御庭絵図	56×74	一鋪	10六

(本所御屋敷并御庭絵図)

55×121

一鋪 1094

系図 [英直迄]

32

一卷 531

土屋家御系図并大和守様御甲冑御着初覚書
弘化四年八月五日 土浦藩五十嵐盛恭写

美

一冊 533

土屋家

家系

系図

土屋家御系図 [彦直迄・支流外]

(系図) [政直迄]

美

一冊 535

系図 [利直—寛直]

美

一冊 536

系図 [政直—英直] 主税

美

一冊 537

系図 [忠直—寅直] 采女正 (弘化三年九月)

美

一冊 538

系図 [忠直—寅直] 采女正

美

一冊 539

(御系図) [忠直—寅直]

美

一冊 540

系図 [利直—拳直]

美

一冊 541

土屋家系図 [公深—拳直] 明治六年八月一
八日

美

一冊 542

御系図 [寛直—拳直]

美

一冊 543

御系図 [寛直—寅直]

美

一冊 544

御系図 [寛直—拳直]

美

一冊 545

系図 [彦直—拳直] 采女正

美

三冊 546

系譜

土屋氏系図写 [葛原親王—市左衛門勝英]

18×14

一冊 533

(系譜) 前欠 [詮範—陳直]

32

二卷 531

御系譜写 [冒次—彦直]

美

一冊 535

初代数直御系譜 采女正

美

一冊 537

初代数直系譜 采女正

美

一冊 538

系譜 [数直—寅直] 采女正 弘化三年九月

美

一冊 539

二代目政直系譜 二 采女正

美

一冊 540

七代目英直迄系譜 [政直—英直] 英直 寛政二年二月

美

一冊 541

系譜 土屋采女正 弘化三年九月

美

一冊 542

二代目政直系譜 七代目英直迄系譜 采女正

美

一冊 543

御系譜 三 土屋采女正 弘化三年九月

美

一冊 544

御系譜 三 [寛直—寅直] 采女正 弘化三年九月

美

一冊 545

系譜書拔 [元禄七年將軍御成一件]

美

一冊 546

御系譜下調 [文久二年 慶応元年] (慶応元年)

美

一冊 547

土屋氏系図並系譜 [利直—寅直] 弘化三年
九月

美

一冊 548

御家譜 [文化五年—文久二年]

美

一冊 549

御家譜 [文化五年—慶応元年]

美 二冊 五五
五七

寅直君御家譜 [慶応元年七月一日—同二年一月一六日]

美 一冊 五六

寅直君御家譜 [明治三年三月一五日—同三年閏一〇月一四日]

横長美 一冊 五元

御家譜 五冊之内 [「支流」享保二〇年]

美 一冊 五〇

系譜 [「数直—寅直」采女正 弘化三年九月]

美 一冊 五〇

系譜 [「嘉永元年以降」采女正 元治元年九月]

美 一冊 五五

系譜 [「嘉永元年以降」采女正 元治元年二月]

美 二冊 五五
五七

*土屋家略系譜并御両敬御統見出

18×9 一帖 五五

御家譜調草稿 [「拳直・親族」(明治九年九)

半 一冊 D 〇元

拳直公御年譜下調 [「嘉永五年—明治二五年」]

半 一冊 五三

(土屋拳直身上記事) 明治三年四月三〇日調

美 一冊 D 二六

(駿州楞嚴院旧記写) 安政二年六月

半 一冊 一六元

(久留利円光寺・浅草海禅寺由緒并土浦城記下書)

美 一綴 一九七

同 族

(親族書下書)

半 一冊 一六元

(土屋拳直親族書) 土屋拳直留守心得立花種恭岩倉具視宛 明治九年六月三〇日

美 一冊 D 二〇

彦直親族取調書 土屋家家扶 宮内省圖書寮宛

半 一冊 五五

明治二九年一月

老中返札 [同姓甲斐守御小姓組番頭被仰付御礼] 相摸守政直宛 卯(貞享四)年六月二七日

一通 八五

老中返札 [内藤能登守相統御礼] 相摸守(政直)宛 一二月二日

一通 八五

老中返札 [土屋好直中奥小姓被仰付御礼] 但馬守(陳直)宛 (享保五年) 八月

一通 九三

若年寄返札 [好直役成御礼] 但馬守宛

一通 一九元

側衆返札 [好直役成御礼] 但馬守宛

一通 一九〇

老中返札 [同姓土佐守官位御礼] 但馬守宛 (享保八年) 一二月二五日

一通 九四

老中返札 [恒之丞領知拝領御礼] 相摸守(彦直)宛 文政一〇年一〇月二一日

一通 一五八

○

(弟七三郎成長ニ付松平主殿頭御届書写) (宝曆九年七月)

一通 九三

松平主殿守統書 七月

一通 九七

(御離縁之御届書手続ニ付松平主殿守申上御覚) 大岡五郎右衛門・大平甚五右衛門 六月

一通 D 六

諸 家 系 譜

後佐竹氏系譜 下 宮本球仲笏編

美 一冊 五五

近代諸土伝略 浅羽昌儀 元禄一四年一月
△寛政四年字野久恒写△

美 一冊 三九
一三六

新校大系図 京都辻本清左衛門・同勘兵衛板 明暦二年

美 三〇冊 三九
一三六

*土屋家略系譜御両敬御統見出

18×9 一帖 五五

（袖留度伺書御附札） 天明三年一〇月一九日	主殿頭 土屋健次郎宛
（袖留度伺書御附札） 一二月一八日	土屋治三郎宛 文化九年
（前髪執伺書御附札） 天明二年・文化一〇年	土屋健次郎・相摸守宛

初御目見

左京様初而御目見之節献上物被遣物并御返礼
覚帳 奥田与惣左衛門・波多野忠右衛門 宝永二
年四月

美

（田沼主殿頭家来口上書）〔私宅召〕土屋
健次郎留守居宛（天明三年）一〇月二三日

老中御書附〔登城召〕土屋健次郎（泰直）宛
（天明三年）一〇月一四日

(獻上物ニ付土屋健次郎伺書御附札)
(天明三年)十一月二日

老中御書附〔登城召〕（寛直宛） 文化七年

老中御書附〔若殿登城召〕文化八年八月一四日

初御目見御礼献上御太刀等折紙（裏書済）
相摸守（彦直）宛 文化八年八月・九月

老中御書附〔多仁丸登城召〕相摸守（彦直）宛
天保七年六月一七日

家督相統・隱居

老中御書附〔御礼登城召〕 相摸守（政直）宛
享保四年五月二七日

老中御書附〔登城家來召連願一件〕但馬守
(陳直)宛(享保四年)六月五日

老中御書附〔御礼登城召〕但馬守〔陳直〕宛
 (享保四年) 六月八日

老中御書附〔隱居御札登城召〕
宛（享保四年六月九日）
相摸守（政直）

老中御書附〔御礼登城召〕能登守〔篤直〕宛
享保一九年三月一四日

（家督相統ニ付諸献上物之儀伺書御附札）
能登守（泰直）宛 安永五年

1. (家督後八朔御祝儀献上之儀ニ付伺書御附札) 九月一八日

2. (家督後重陽御祝儀献上之儀ニ付伺書御附札) 九月一八日

3. (家督後栗獻上之儀ニ付伺書御附札)
九月一八日

4. (家督後心觀院様御法事献上之儀ニ付
伺書御附札) 九月一八日

5. (年頭御祝儀献上之儀ニ付伺書御附札)
二月二十五日

（家督相統ニ付諸献上物之儀伺書御附札）
健次郎宛 安永六年九月一八日

1. (家督御礼献上物伺書御附札)

2. (年中献上物伺書御附札)

3. (年中御宮御靈前江献上物伺書御附札)

御相統御礼献上御太刀馬代折紙目錄 裏書済

(英直)宛 寛政二年七月二八日

一通 一六二

(家督相統ニ付献上物之儀伺書控并例書書拔) 主税 寛政二年七月一八日

二〇元

1. (御目通家来名前書付)

一通

2. (御目通家来献上物伺書控)

一通

3. (天明三年家督御礼之節御目通家来献上物例書)

一通

4. 年中献上物之覚

一通

5. 年中御靈前江献上物之覚

一通

6. (筭後レ献上伺書控)

一通

7. (鮮鯛後レ献上伺書控)

一通

8. (家督相統之御礼申上候節公方様御台様江献上伺書控)

一通

9. (安永六年養父能登守家督御礼之節公方江様献上物例書控)

一通

10. (寛政元年四月十五日松平周防守家督御礼之節御台様江献上物例書写)

一通

11. (蓮光院様江年中差上物ニ付伺書控)

一通

12. (家督相統御礼申上候節蓮光院様江差上物伺書控)

一通

13. (寛政元年松平周防守家督御礼之節蓮光院様江差上物例書写)

一通

(家督相統ニ付諸献上物之儀伺書御附礼) 主税宛 寛政二年七月一八日

一七〇四

1. (家督相統之御礼申上候節献上物伺書御附礼)

一通

2. (家督相統之御礼申上候節蓮光院様江差上物伺書御附礼)

一通

3. (家督相統之御礼申上候節家来二人差上物伺書御附礼)

一通

4. (家督相統之御礼申上候節贈物伺書御附礼)

一通

5. (年中献上物伺書御附礼)

一通

6. (年中御宮御靈前江献上物伺書御附礼)

一通

7. (蓮光院江年中差上物伺書御附礼)

一通

8. (家督御礼之節筭鯛後レ献上物伺書御附礼)

二通

老女御奉文 (相統御礼) 寛政二年八月一八日

一通 一四四

老中御書附 (家督登城召) 保三郎 (寛直) 宛 享和三年一〇月三日

一通 一四九

老中御書附 (御礼登城召) 保三郎 (寛直) 宛 享和三年一〇月一四日

一通 一四九

西丸家督之御礼献上御太刀馬代折紙 裏書済 寛直宛 享和三年一〇月

一通 一六五

(家督後年頭之御祝儀献上物伺書御附礼) 保三郎宛 享和三年一二月一五日

一通 一八三

老中御書附 (家督登城召) 治三郎 (彦直) 宛 文化八年一二月二日

一通 一六九

老中御書附 別紙共 (御礼登城召) 相模守 (彦直) 宛 文化八年一二月二九日

二通 一五八

西丸家督御礼御目見之節家来献上御太刀折紙 裏書済 家来磯矢助右衛門・河口藤左衛門宛 文化八年一二月一日

二通 一六七

老女御奉文 (御礼献上) 相模守 (彦直) 宛 文化八年一二月

二通 一五七

西丸家督御札献上御太刀折紙 裏書濟 相摸守(彦直)宛 文化九年一月二日

土屋彦直書狀 控(太刀献上伺) 日光執当宛 文化一〇年四月二日

老中御書附(隠居登城召) 相摸守(彦直)宛 (天保九年) 二月六日

老中御書附(隠居御札登城召) 相摸守(彦直)宛 (天保九年) 二月一四日

老中御書附(御札登城召) 采女正宛 (天保九年) 二月一四日

(隠居并家督御札ニ付献上目録) 裏書濟 天保九年二月一五日

1. 殿様三御所様御献上御目録

2. 大殿様三御所様御献上御目録

3. 御年寄公方様右大將様江献上目録
西川頼母貞儼・磯矢伊織宋寧

日光奉行小嶋安芸守(正苗)書狀(御宮献上)土屋相摸守(彦直)宛(天保一〇年)四月一五日

小嶋安芸守返書狀(献上御札) 土屋相摸守宛(天保一〇年)四月一八日

(日光御宮献上之節名代大村市之允勤書)(天保一〇年)四月一五日

(日光御靈屋献上之節名代大村市之允勤書)(天保一〇年)四月一八日

兩御丸御老女衆御奉文(家督献上) 采女正宛 天保一〇年

一枚 二六八

一通 九七五

一通 二六五

一通 二六七

一通 二六六

六〇七

三枚

三枚

四枚

一通 二七五

一通 二七五

一通 二七五

一通 二七五

二通 九七

御隠居御家督一件帳 慶応四年五月

(家督相統命令書) 宮内大臣 土屋正直宛 明治二五年一月二六日

養子

*老中御書附(領地差上願出ニ付養子願可申出) 左門宛 文化七年二月一五日

(養子願之節要用書類覽)

官位

叙任

土屋大和守 叙從五位下後水尾天皇口宣案 源定直 寛永元年二月二八日

源政直(叙從五位下)後西天皇口宣案 万治元年二月二八日

源政直任能登守靈元天皇宣旨 万治元年二月二七日

源数直叙正五位下靈元天皇口宣案 寛文五年二月二七日

源数直任侍從靈元天皇口宣案 寛文一〇年二月二九日

源数直任侍從靈元天皇宣旨 寛文一〇年二月二九日

源政直(叙從四位下)從靈元天皇口宣案 貞享二年一〇月六日

源政直任侍從靈元天皇宣旨 貞享二年一〇月六日

源政直任侍從靈元天皇宣旨 貞享二年一〇月六日

半

一冊 D 四

一通 一八四

一通 二七六

一通 D 三

一通 二六六

六〇七

一通 二六五

二通 二六六

一通 二七五

一通 二七五

一通 二七五

一通 二七五

一通 二七五

二通 九七

一通 九七

(上卿職事名事書付)〔政直〕(貞享二年カ)	源英直任但馬守光格天皇宣旨	寬政二年一月二七日	一通	七三
源啓直叙從五位下東山天皇口宣案	寶永六年三月七日	二通	七五	
(上卿職事名事書付)〔啓直〕(寶永六年カ)	源啓直任左京亮東山天皇宣旨	一通	七四	
源篤直叙從五位下桃園天皇口宣案	延享四年二月一九日	二通	七六	
(上卿職事名事書付)〔篤直〕(延享四年カ)	源篤直任能登守桃園天皇宣旨	一通	七八	
源壽直叙從五位下後桃園天皇口宣案	安永五年二月一六日	二通	七九	
(上卿職事名事書付)〔壽直〕(安永五年カ)	源壽直任相摸守後桃園天皇宣旨	一通	八〇	
源泰直叙從五位下光格天皇口宣案	天明三年二月一八日	一通	八一	
(上卿職事名事書付)〔泰直〕(天明三年カ)	源泰直任能登守光格天皇宣旨	一通	八二	
源英直叙從五位下光格天皇口宣案	寬政二年二月一七日	二通	八三	

源英直任但馬守光格天皇宣旨	寬政二年一月二七日	一通	八四		
源英直叙從五位下位記	寬政二年二月二七日	一通	八五		
(上卿職事名事書付)〔英直〕(寬政二年カ)	源彥直叙從五位下諸大夫成御官物銀之注文御用掛屋平間某	武田大膳大夫内西川・師田・坂本太郎一宛	天保八年一〇月	一通	八六
源寅直叙從四位下孝明天皇口宣案	嘉永三年九月一日	一通	八七		
源寅直叙從四位下孝明天皇口宣案	嘉永三年九月一日	一通	八八		
源寅直叙從四位下孝明天皇口宣案	嘉永三年九月一日	一通	八九		
源寅直叙從四位下孝明天皇口宣案	嘉永三年九月一日	一通	九〇		

源寅直叙從四位下位記 嘉永三年九月一日

一通 八六

源寅直叙從四位下位記写 嘉永三年九月一日

一通 一六九

(上卿職事名事書付) (寅直) (嘉永三年カ)

一通 一六九

土屋采女正源寅直朝臣從四位下成御官物目錄 三条・城坊前兩大納言家 西村六太夫宛 嘉永三年九月一日

一通 八六

土屋寅直叙正四位位記 明治一八年四月二〇日

一通 八六

(進級ニ付太政官達書) 從四位寅直宛 明治一八年四月二〇日

一通 一三七

(土屋寅直叙正四位位記并太政官達書写) 明治一八年四月二〇日

一通 一三七

土屋寅直叙從三位位記 写共 明治二四年六月一六日

一通 一三七

(進級ニ付宮内省達書) 從三位寅直宛 明治二八年一月二十九日

一通 一三五

(進級ニ付爵位局長進達書) 寅直宛 明治二八年一月二十九日

一通 一三五

土屋寅直叙正三位位記 明治二八年一月二十九日

一通 一三五

(進級ニ付宮内省達書) 孝直宛 明治二〇年二月二十六日

一通 一三三

土屋孝直叙正五位位記 明治二〇年二月二十六日

一通 一三三

土屋孝直叙從四位位記 明治二五年七月五日

一通 一三三

(進級ニ付宮内省達書) 孝直宛 明治二五年一〇月二十五日

一通 一三四

(進級ニ付爵位局長伝達書) 孝直宛 明治二五年一〇月二十五日

一通 一三六

土屋孝直叙正四位位記 明治二五年一〇月二十五日

一通 一三五

(進級ニ付爵位局主事書付) 孝直宛 明治二五年一〇月二十九日

一通 一三七

土屋正直叙正八位位記 明治三三年三月三〇日

一通 一八五

土屋正直叙從五位位記 明治三四年二月二八日

一通 一八五

土屋正直叙正五位位記 明治三九年三月一〇日

一通 一八七

土屋正直叙從四位位記 明治四五年三月二〇日

一通 一八七

從四位宣下位記伝達書 宗秩寮總裁 正直宛 明治四五年三月二〇日

一通 一八七

土屋正直叙從三位位記 昭和二年四月一五日

一通 一八〇

(土屋正直特旨進級ニ付宮内省達書) 昭和六年一月九日

一通 一八五

土屋正直叙正三位位記 昭和六年一月九日

一通 一八三

老中御書附 (登城召) 相摸守 (政直) 宛 貞享二年一〇月五日・六日

一通 一八四

老中返札 (官位口宣御札) 相摸守宛 (貞享二年カ) 二月一〇日

一通 一八五

老中御書附 (登城召) 健次郎宛 天明三年二月一七日

一通 一八七

老中返札 (官位御札) 能登守 (泰直) 宛 天明三年二月三日・二七日

一通 一八五

老中御書附 (登城召) 主税宛 寛政二年二月二六日

一通 一八五

老中御書附〔御札登城召〕 但馬守（英直）宛 寛政二年一月晦日	一通 一四六	勲四等旭日小授章勲記 仮記共 大正一三年一月二一日	二通 一八〇
官位御札献上物伺書御附札 但馬守宛 寛政二年二月二十九日	一通 一六九	勲三等瑞宝章勲記 大正一五年九月二五日	一通 一八二
官位御札献上太刀馬代目録 裏書濟 但馬守宛 寛政二年二月一日	一通 一六三	勲三等旭日授章勲記 仮記共 昭和三年二月二八日	二通 一八三
老中御書附〔登城召〕 治三郎宛 文化九年二月一五日	一通 一六九		
官位御札献上物伺書御附札 相摸守（彦直）宛 文化九年二月一八日	一通 一八〇	Le diplôme de Officier de l'Ordre de Léopold. octobre 8, 1910.	一通 一六九
老中御書附〔御札登城召〕 相摸守宛 文化九年二月二二日	一通 一六〇	La lettre de Notification de Officier de l'Ordre de Léopold. novembre 5, 1910.	一通 一六九
官位御札献上御太刀目録 裏書濟 彦直宛 文化九年二月二二日	一通 一六九	Le diplôme de la Décoration de chevalier de l'Ordre National de la Légion d'honneur. decembre 30, 1912.	一通 一六三
授爵記 〔拳直〕 明治一七年七月八日	一通 一八五	The Statutes of the Royal Victorian Order. 25×20 Oct. 30, 1918.	一冊 一六四
宮内卿進達書 拳直宛 明治一七年八月一日	一通 一四九	The diploma of Commander of Our Royal Victorian Order. May 9, 1921.	一通 一八五
正直授勲		オランジュナッソー第三等勲章勲記 一九二一年六月一日	一通 一八三
大日本帝国外国勲章佩用免許証 賞勲局總裁土屋正直宛 明治四三年二月一〇年九月	八通 一八五	Le diplôme de Commandeur de l'Ordre de Léopold II. juillet 1, 1921.	一通 一八〇
大札記念章之証 大正四年・昭和三年	二通 一三三	オランジュナッソー第三等勲章叙勲通知書 一九二二年七月二二日	一通 一八三
勲六等单光旭章勲記 領票記入心得共 大正四年二月一日	二通 一六七	Le diplôme de la Décoration d'Officier de l'Ordre National de la Legion d'honneur. juillet 8, 1921.	一通 一八四
勲五等瑞宝章勲記 大正五年一月三日	一通 一八八	La lettre de Notification la Croix de Co-mmandeur de l'Ordre de Léopold II. août 11, 1921.	一通 一八三
勲五等雙光旭日章勲記 領票記入心得書共 大正八年五月七日	二通 一八九		

The Letter of Notification, Commander of the Royal Victorian Order. Aug. 12, 1921.

サン・モリツヨ・ラザロ第三等勲章勲記
一九二二年二月二二日

WET, tot instelling der Orde Van Oranje-Nassau. 4 den April 1892.

21×14

土屋正直東京帝国大学文科大学卒業証書
明治三十九年七月一〇日

一通 一六六

印譜・名書

(土屋保三郎改名願書御附札) 文化六年二月二十五日

一通 一五〇

御先代様御印譜 [陳直・英直・泰直等]
(藩主御居判)

20×14

一冊 五七
一枚 一六三

明治後官職

寅 直

(大講義拜命書類) 明治五年一〇月二四・二五日

八三

1. 東京府出頭命令書
2. 補大講義辭令 教部省
3. 命西部勤辭令 西部管長
4. 補大講義辭令請書 三田葆宛
5. (教導職諸役人名前書)

一通
一通
一通
一通
一綴

6. (諸家名刺綴)

大教院達書 [新治出張] 松山・平山両権少教正
土屋権少教正宛 (明治六年) 二月一二日

一綴
一通 一八元

(神奈川県下并足柄県下村々説教日程覚)
寺山泊瀬雄 明治六年二月

一通 一八六

寅直書狀 家令・家扶宛 明治六年二月二日

一通 一八七

寅直書狀 挙直家扶宛 二月三日

一通 一八五

(神奈川県高座郡一ノ宮村旧神官副戸長等
教導願書写) 神道教導職宛 明治六年二月十九日

一通 一八七

寅直書狀 [回在中日程] 家扶宛 明治六年二月二〇日

一通 一八三

寅直書狀 [回在日程] 挙直宛 二月二〇日

一通 一八三

大教院達書写 [日程指示] 寺山泊瀬雄宛
明治六年二月二十五日

一通 一八五

寅直書狀 [日程・家事等] 家扶宛 明治六年二月二七日

一通 一八六

寅直書狀 家扶宛 明治六年二月二八日

一通 一八六

寅直口上書 [布教報告・家事等] 家令・家扶宛 明治六年三月一日

一通 一八三

寅直書狀 明治六年三月一日

一通 一八四

寅直書狀 別紙共 [布教報告] 家令・家扶宛
明治六年三月二日

一通 一八三

寅直書狀 [説教様子] 家令・家扶宛 明治六年三月五日

一通 一八六

寅直書狀 [武州橘樹郡新羽村出張中動静]
家令・家扶宛 三月三日

一通 一八四

寅直書狀 〔神奈川県下布教動靜〕 孝直家令・家扶宛 三月七日

一通 一八三

寅直書狀 〔回在日程〕 家扶宛 〔明治六年〕 一月一日

一通 一八〇

〔教部省出頭指令書〕 明治八年一月二三日

一通 一八四

〔補權中教正辞令〕 太政官 明治八年一月二三日

一通 一八三

〔神道事務局賞狀〕 〔派出説教盛大云々〕 明治九年九月三〇日

一通 一八二

〔補神道事務局并府下派出説教検査担任辞令〕 明治十一年二月一日

一通 一八二

〔補神道事務局詰担任辞令〕 明治十一年二月一日

一通 一八〇

〔補中教正辞令〕 明治十二年一月二二日

一通 一八二

〔説教係解任三付權大教正本居豊頼書付〕 明治十五年二月三日

一通 一八二

本大成教会会員証 明治十五年五月四日

一通 一八二

大成教師辭職願 大成教管長中山信徴宛 明治十八年一月二十九日

一通 一八二

挙 直

〔命徳川昭武随行辞令〕 太政官 明治九年二月二二日

一通 一八三

〔任御用掛辞令〕 内務省 明治十二年七月一日

一通 一八七

〔任勸農局事務取扱辞令〕 内務省 明治十一年七月一日

一通 一八六

〔任御用掛辞令〕 宮内省 明治十二年五月一日

一通 一八九

〔任植物御苑掛辞令〕 宮内省 明治十二年五月二〇日

一通 一八九

〔任判任官辞令〕 宮内省 明治十二年七月一日

一通 一八九

〔免御用掛辞令〕 宮内省 明治十二年九月二二日

一通 一八九

〔任御用掛取扱准判任官辞令〕 内務省 明治十二年九月二二日

一通 一八九

〔任勸農局事務取扱辞令〕 内務省 明治十二年九月二二日

一通 一八九

〔命報告課勤務辞令〕 勸農局 明治十二年九月二二日

一通 一八九

〔命下総牧羊場在勤辞令〕 内務省 明治十二年十二月二三日

一通 一八九

〔命香取種畜場在勤兼任辞令〕 明治十二年十二月二六日

一通 一八九

〔内務省給与辞令〕 明治十二年十二月二六日

一通 一八九

〔任内務七等属辞令〕 内務省 明治十三年三月二十九日

一通 一八九

〔内務省出頭命令書〕 明治十三年九月一〇日

一通 一八九

〔勸農局出京命令書〕 内務省 明治十四年四月二五日

一通 一八九

〔免官辞令〕 内務省 明治十四年四月二八日

一通 一八九

山本正夫書狀 〔辞令到着〕 〔明治十二年九〕 七月一日

一通 一八九

- (御用召ニ付東京府達書) 明治六年九月二三日
 (御用召ニ付太政官書記官御達書) 明治二年四月・五月
 (内務大書記官出頭命令書) 明治二年五月一六日
 (賢所参拝スベキ達書) 太政大臣 (明治一七年) 八月一日
 ○
 前島密書狀 [土屋某奏任御用掛任命希望一件]
 藤井希環宛 七月二二日
 藤井希環書狀 土屋從五位宛 七月二二日

正 直

除服出仕命令書 東宮職 明治二八年—大正六年

(陞叙并昇任辭令) 大臣口達共 明治二八年—昭和一六年

1. (任東宮職給年俸三六〇円辭令)
明治二八年一〇月二二日
2. (免東宮職出仕辭令) 明治三三年五月九日
3. (任式部官叙高等官六等辭令) 明治四〇年一〇月二八日
4. (任皇孫御用掛辭令) 明治四一年一月一日
5. (叙高等官五等辭令) 明治四二年二月二五日

一通 一四五
 二通 一四六
 二通 一四七
 一通 一四八
 一通 一四九
 一通 一五〇
 一通 一五一
 一通 一五二
 一通 一五三
 一通 一五四
 一通 一五五
 一通 一五六
 一通 一五七
 一通 一五八
 一通 一五九
 一通 一六〇
 一通 一六一
 一通 一六二
 一通 一六三
 一通 一六四
 一通 一六五
 一通 一六六
 一通 一六七
 一通 一六八
 一通 一六九
 一通 一七〇
 一通 一七一
 一通 一七二
 一通 一七三
 一通 一七四
 一通 一七五
 一通 一七六
 一通 一七七
 一通 一七八
 一通 一七九
 一通 一八〇
 一通 一八一
 一通 一八二
 一通 一八三
 一通 一八四
 一通 一八五
 一通 一八六
 一通 一八七
 一通 一八八
 一通 一八九
 一通 一九〇
 一通 一九一
 一通 一九二
 一通 一九三
 一通 一九四
 一通 一九五
 一通 一九六
 一通 一九七
 一通 一九八
 一通 一九九
 一通 二〇〇
 一通 二〇一
 一通 二〇二
 一通 二〇三
 一通 二〇四
 一通 二〇五
 一通 二〇六
 一通 二〇七
 一通 二〇八
 一通 二〇九
 一通 二一〇
 一通 二一一
 一通 二一二
 一通 二一三
 一通 二一四
 一通 二一五
 一通 二一六
 一通 二一七
 一通 二一八
 一通 二一九
 一通 二二〇
 一通 二二一
 一通 二二二
 一通 二二三
 一通 二二四
 一通 二二五
 一通 二二六
 一通 二二七
 一通 二二八
 一通 二二九
 一通 二三〇
 一通 二三一
 一通 二三二
 一通 二三三
 一通 二三四
 一通 二三五
 一通 二三六
 一通 二三七
 一通 二三八
 一通 二三九
 一通 二四〇
 一通 二四一
 一通 二四二
 一通 二四三
 一通 二四四
 一通 二四五
 一通 二四六
 一通 二四七
 一通 二四八
 一通 二四九
 一通 二五〇
 一通 二五一
 一通 二五二
 一通 二五三
 一通 二五四
 一通 二五五
 一通 二五六
 一通 二五七
 一通 二五八
 一通 二五九
 一通 二六〇
 一通 二六一
 一通 二六二
 一通 二六三
 一通 二六四
 一通 二六五
 一通 二六六
 一通 二六七
 一通 二六八
 一通 二六九
 一通 二七〇
 一通 二七一
 一通 二七二
 一通 二七三
 一通 二七四
 一通 二七五
 一通 二七六
 一通 二七七
 一通 二七八
 一通 二七九
 一通 二八〇
 一通 二八一
 一通 二八二
 一通 二八三
 一通 二八四
 一通 二八五
 一通 二八六
 一通 二八七
 一通 二八八
 一通 二八九
 一通 二九〇
 一通 二九一
 一通 二九二
 一通 二九三
 一通 二九四
 一通 二九五
 一通 二九六
 一通 二九七
 一通 二九八
 一通 二九九
 一通 三〇〇
 一通 三〇一
 一通 三〇二
 一通 三〇三
 一通 三〇四
 一通 三〇五
 一通 三〇六
 一通 三〇七
 一通 三〇八
 一通 三〇九
 一通 三一〇
 一通 三一〇

6. (任東宮職御用掛宮内大臣口達書)
明治四五年七月三〇日
7. (任東宮侍從叙高等官六等辭令) 大正元年九月三〇日
8. (任式部官叙高等官五等辭令) 大正元年九月三〇日
9. (叙高等官四等辭令) 大正元年二月二七日
10. (任東宮主事事務取扱辭令) 大正元年二月二八日
11. (免東宮主事事務取扱辭令) 大正三年四月九日
12. (任東宮御學問所御用掛辭令) [奏任待遇] 大正三年四月九日
13. (叙高等官五等辭令) 大正三年二月二四日
14. (叙高等官三等辭令) 大正五年二月二五日
15. (叙高等官四等辭令) 大正六年二月二五日
16. (叙高等官二等辭令) 大正二年六月二二日
17. (命侍從職嘱託辭令) 昭和六年二月六日
18. (叙高等官一等辭令) 昭和六年二月六日
19. (依願免本官并兼官辭令) 昭和六年二月六日
20. (叙高等官一等辭令) 昭和六年二月六日

(命東宮行啓供奉辭令) 宮内省 明治二八年 三三年	一二通 一六五	(大正天皇式年祭ニ付下賜品目録) 侍從長 昭和六年二月二五日	一通 一六四
(高輪御殿御参ノ儀ニ付東宮大夫申入書) 明治二八年一月一五日	一通 一六九	○	
(病氣并喪中御尋被下物及ビ下賜品ニ付東 宮大夫申入書) 明治二八年 大正五年	四通 一七〇	大日本帝國憲法〔官報号外〕 明治二二年一月 一日	34×24 刊一冊 一三七
(参殿ノ儀東宮大夫申入書) 明治三三年五月 七日	一通 一七〇	皇室典範 明治二二年一月一日	34×24 刊一冊 一三八
(参内ノ儀宮内大臣達書) 明治三四年五月二 七日	一通 一六八	憲法發布勅語並告文 内閣情報局 明治二二年 二月二日	刊二枚 一三九
(宮内省出頭命令書) 明治四〇年三月二七日	一通 一六五	吉 凶	
(土屋正直俸給辭令) 明治四一年 昭和二年	八通 一六三	婚 姻	
(任外国使節接伴員辭令) 宮内省 明治四三 年・大正元年	二通 一六九	(殿様御縁談之儀ニ付書狀綴) 〔篤直婚約・婚 礼〕 寛保元年―寛延四年	横長美 仮一冊 五一
(日光及ビ山梨県下出張命令書) 明治四三年 ・大正元年	二通 一六九	老中御書附 〔御礼登城召〕 篤直宛 (宝曆元年) 三月晦日	一通 一六四
(下賜手当金増額通牒) 宮内大臣官房総務課 長 明治四四年 大正元年	三通 一六五	老中御書附 〔縁組願之通被仰付〕 英直宛 寛政 二年	一通 一〇六
(賜物并被下物ニ付宮内大臣及ビ典侍申進 書) 大正元年・五年	二通 一六六	老中御書附 〔縁組願濟登城召〕 英直宛 寛政二 年・五年	二通 一〇二
(命皇太子殿下行啓供奉辭令) 大正元年―一 〇年	四三通 一六七	老中御書附 〔御礼登城召〕 英直宛 寛政三年	二通 一〇三
恩給証書 覚書共 昭和六年二月八日	二通 一六三	老中御書附 〔婚姻願濟〕 保三郎宛 文化二年七 月	一通 一八三
(退官記念贈物目録) 侍從職等 (昭和六年)	一通 一六二	御結納被進下品々書附	一通 D 三
恩賜品目録 大正五年・昭和六年	九通 一六三	○	
(退官記念下賜品目録) 秩父宮・澄宮 (昭和 六年)	二通 一六三	老中返札 〔娘婚礼御礼献上〕 政直宛	三通 一六四

老中御書附〔於美代婚禮御札登城召〕 陳直宛
(享保一四年) 三月二二日

一通 九六

老中御書附〔病後御札登城召〕 英直宛 享和元年六月二二日

一通 一四四

(姉婚禮御札献上物伺書御附札) 左門宛
(享保二〇年) 二月一八日

一通 一七〇

老中御書附〔病後御札登城召〕 寅直宛 正月六日・一五日

二通 一五二

老中御書附〔娘縁組御札登城召〕 篤直宛 元文三年九月二〇日

二通 一四四

服忌・服穢

(脇坂中務太輔家来口上書) 正月七日

一通 一五二

老中返札〔於富婚禮御札〕 篤直宛 申年一二月

一通 一五〇

老中御書附〔娘縁組願濟登城召〕 泰直宛 天明六年五月一日

一通 一四二

(忌中ニ付東叡山御成之節上屋敷拵方之儀伺書御附札) 目付 留守居山村司宛 安永六年四月一九日

一通 一〇三

(婚禮御札献上物ニ付伺書御附札) 英直宛
寛政三年六月七日

一通 一七六

老中御書附〔寿直死去 服忌被仰出〕 健次郎宛 安永六年七月二〇日

一通 九七

老中御書附〔直姫縁組濟登城召〕 英直宛 寛政九年一二月

二通 一六六

* (養母死去ニ付在所出立之儀伺書御附札) 主税宛
主税宛 寛政二年一〇月二五日

一通 一七五

老中御書附〔娘婚姻願濟御札登城召〕 英直宛
寛政九年一二月

一通 一六四

* (忌明ニ付出仕之儀伺書御附札) 主税宛
寛政二年一二月一四日

一通 一七四

老中御書附〔姉婚姻願濟〕 保三郎宛 文化元年
一一月二二日

一通 一八三

(忌中ニ付東叡山御成之節小川町屋敷表通拵方之儀伺書御附札) 目付 土屋家来新治兵衛宛 寛政九年一月

一通 一七五

老中御書附〔娘婚姻御札登城召〕 寅直宛
(天保一二年) 一二月二二日

一通 一五五

老中御書附〔服穢調〕 大目付宛 文化二二年三月

一通 一七四

某書狀 土屋能登守宛 (宝曆元年カ)

一通 D 一五

大目付御切紙〔服穢調〕 土屋英直留守居宛
文化二二年三月二五日

一通 一六五

病 氣

* (養生ノ為滯府仕度願書御附札) 篤直宛
明和元年一〇月一日

一通 一〇〇

賢相院様御新葬〔弘化四年七月二二日〕 嘉永元年七月二五日

一通 一六七

(粹左京庖瘡仕いニ付歳暮并白鳥献上之儀伺書御附札) 篤直宛 一一月一七日

二通 一七〇

(高林院様御葬後日記)〔明治二五年一月二五日〕 二八日

一通 一六六

(逆上ニ付月額剃度願書御附札) 寛政二二年・享和元年

三通 一〇四

横長半 飯一冊 六六

高林院殿御七回忌御法事一件帳	明治三二年一〇月	橫長半	一冊	六〇	側用人返札〔御札〕	陳直宛	〔正德二年〕七月五日	一通	六〇
高林院殿七回忌御法事海禪寺御參詣帳	明治三一年一〇月二四日	橫長半	一冊	六〇	御側衆返札	陳直宛	正德二年九月五日	一通	六〇
高林院殿七回忌御法事海禪寺御靈前御備物扣	明治三一年一〇月二四日	橫長半	一冊	六〇	〔奥様湯治願書御附札〕 泰直宛 寛政二年五月三日				
高林院殿七回忌御法事海禪寺參拜帳	明治三一年一〇月二四日	橫長半	一冊	六〇					
高林院殿御七回忌ニ付谷中御廟參詣帳	明治三一年一〇月二四日	橫長半	一冊	六〇	篤 直				
〔真機院殿葬式一件書類〕	〔土屋家扶〕 明治三四年一二月	橫長半	一冊	六〇					
御膝中御見舞被進帳		橫長半	一冊	六〇	勤向覚日記	寶曆三年二月一五―二九日	橫長美	一冊	一
御後室様御逝去ニ付御悔帳		橫長半	三冊	六〇	勤向覚日記	寶曆四年正月一日―二月晦日	橫長美	一冊	二
御膝中諸家様御見舞		橫長半	一冊	六〇	勤向覚日記	寶曆四年閏二月一日―二月二九日	橫長美	一冊	三
〔御逝去ニ付御見舞帳〕		橫長半	一冊	六〇	勤向覚日記	寶曆四年三月一日―晦日	橫長美	一冊	四
旧藩士真機院殿御悔帳		橫長半	一冊	六〇	勤向覚日記	寶曆四年四月一日―晦日	橫長美	一冊	五
真機院殿御行列帳		橫長半	一冊	六〇	勤向覚日記	寶曆四年五月一日―二九日	橫長美	一冊	六
真機院様御新葬一件書類		半	一冊	六〇	勤向覚日記	寶曆四年六月一日―二九日	橫長美	一冊	七
○					勤向覚日記	寶曆四年七月一日―晦日	橫長美	一冊	八
〔水戸宰相遺骸土浦城下通棺ニ付御内意伺書御書取〕	文化一三年九月四日	一通	六〇		勤向覚日記	寶曆四年八月一日―九月五日	橫長美	一冊	九
熱海湯治		一通	六〇		勤向覚日記	寶曆四年一二月一五―晦日	橫長美	一冊	一〇
老中返札〔御札〕	陳直宛 九月三日・五日	二通	六〇		勤向覚日記	寶曆五年一月一日―二月晦日	橫長美	一冊	二
					勤向覚日記	寶曆五年三月一日―四月晦日	橫長美	一冊	三
					勤向覚日記	寶曆五年五月一日―六月晦日	橫長美	一冊	三
					勤向覚日記	寶曆五年七月一日―八月晦日	橫長美	一冊	四
					勤向覚日記	寶曆五年九月一日―十一月晦日	橫長美	一冊	五

勤向覺日記	寶曆五年二月一日—二九日	橫長美	一冊	六
勤向覺日記	寶曆六年一月一日—二月晦日	橫長美	一冊	七
勤向覺日記	寶曆六年三月一日—四月晦日	橫長美	一冊	六
勤向覺日記	寶曆六年五月一日—六月晦日	橫長美	一冊	元
勤向覺日記	寶曆六年七月一日—七月晦日	橫長美	一冊	二
勤向覺日記	寶曆六年八月一日—一〇月一三日	橫長美	一冊	三
土浦在城中覺日記	寶曆六年一〇月一三日— 十二月一四日	橫長美	一冊	三
勤向覺日記	寶曆六年二月一五—二九日	橫長美	一冊	三
勤向覺日記	寶曆七年一月一日—二月二九日	橫長美	一冊	四
勤向覺日記	寶曆七年三月一日—四月晦日	橫長美	一冊	五
勤向覺日記	寶曆七年五月一日—六月晦日	橫長美	一冊	六
勤向覺日記	寶曆七年七月一日—九月二八日	橫長美	一冊	七
土浦在城中覺日記	寶曆七年九月二八日—一二 月一四日	橫長美	一冊	元
勤向覺日記	寶曆七年二月一五—二九日	橫長美	一冊	元
勤向覺日記	寶曆八年一月一日—二月二九日	橫長美	一冊	二
勤向覺日記	寶曆八年三月一日—四月一五日	橫長美	一冊	三
勤向覺日記	寶曆八年四月一六日—晦日	橫長美	一冊	三
勤向覺日記	寶曆八年五月一日—六月晦日	橫長美	一冊	三
勤向覺日記	寶曆八年七月一日—九月一三日	橫長美	一冊	四
土浦在城中覺日記	寶曆八年九月一三日—一 二月晦日	橫長美	一冊	五

勤向覺日記	寶曆九年一月一日—二月晦日	橫長美	一冊	六
勤向覺日記	寶曆九年三月一日—四月二九日	橫長美	一冊	七
勤向覺日記	寶曆九年五月一日—六月二九日	橫長美	一冊	六
勤向覺日記	寶曆九年七月一日—閏七月二九日	橫長美	一冊	元
勤向覺日記	寶曆九年八月一日—一〇月二九日	橫長美	一冊	二
勤向覺日記	寶曆九年十一月一日—十二月晦日	橫長美	一冊	三
勤向覺日記	寶曆一〇年一月一日—二七日	橫長美	一冊	四
御奏者勤向自筆留帳	寶曆一〇年二月二八日— 二九日	橫長美	一冊	五
御奏者勤向自筆留日記	寶曆一〇年二月二 九日—三月晦日	橫長美	一冊	六
御奏者勤向自筆留日記	寶曆一〇年三月一 日—二九日	橫長美	一冊	七
御奏者勤向自筆留日記	寶曆一〇年四月一 日—二九日	橫長美	一冊	八
御奏者勤向自筆留日記	寶曆一〇年五月一 日—晦日	橫長美	一冊	九
御奏者勤向自筆留日記	寶曆一〇年六月一 日—二九日	橫長美	一冊	十
御奏者勤向自筆留日記	寶曆一〇年七月一 日—八月晦日	橫長美	一冊	十一
御奏者勤向自筆留日記	寶曆一〇年九月一日 —十二月晦日	橫長美	一冊	十二
御奏者勤向自筆留日記	寶曆一一年一月一日 —二月二九日	橫長美	一冊	十三
御奏者勤向自筆留日記	寶曆一一年三月一日—四 月二九日	橫長美	一冊	十四

御奏者番勤向自筆留日記	宝曆一一年五月一日一六 月晦日	横長美	一冊	至	御奏者番勤向自筆留日記	明和元年七月一日一 八月晦日	横長美	一冊	迄
御奏者番勤向自筆留日記	宝曆一一年七月一日一九 月一三日	横長美	一冊	至	御奏者番勤向自筆留日記	明和元年九月一日一 閏一二月晦日	横長美	一冊	迄
御奏者番勤向自筆留日記	宝曆一一年九月一三日一 一二日晦日	横長美	一冊	至	御奏者番勤向自筆留日記	明和二年一月一日一 二月晦日	横長美	一冊	迄
御奏者番勤向自筆留日記	宝曆一二年一月一日一 五月一〇日	横長美	一冊	至	御奏者番勤向自筆留日記	明和二年三月一日一 四月二九日	横長美	一冊	迄
御奏者番勤向自筆留日記	宝曆一二年五月一一日 日一七月二九日	横長美	一冊	至	御奏者番勤向自筆留日記	明和二年五月一日一 六月晦日	横長美	一冊	迄
御奏者番勤向自筆留日記	宝曆一二年八月一日一 一二月晦日	横長美	一冊	至	御奏者番勤向自筆留日記	明和二年五月八日一 一一日(拔書)	横長美	一冊	迄
御奏者番勤向自筆留日記	宝曆一三年一月一日一 一二月二九日	横長美	一冊	至	御奏者番勤向自筆留日記	明和二年七月一日一 九月二八日	横長美	一冊	迄
御奏者番勤向自筆留日記	宝曆一三年三月一日一 四月二九日	横長美	一冊	至	御奏者番勤向自筆留日記	明和二年九月二八日 一二月二九日	横長美	一冊	迄
御奏者番勤向自筆留日記	宝曆一三年五月一日一 六月二九日	横長美	一冊	至	御奏者番勤向自筆留日記	明和三年一月一日一 三月晦日	横長美	一冊	迄
御奏者番勤向自筆留日記	宝曆一三年七月一日一 九月一三日	横長美	一冊	至	御奏者番勤向自筆留日記	明和三年四月一日一 五月三〇日	横長美	一冊	迄
御奏者番勤向自筆留日記	宝曆一三年九月一三 日一二月晦日	横長美	一冊	至	御奏者番勤向自筆留日記	明和三年六月一日一 七月二九日	横長美	一冊	迄
御奏者番勤向自筆留日記	宝曆一四年一月一日一 二月二九日	横長美	一冊	至	御奏者番勤向自筆留日記	明和三年八月一日一 一二月二九日	横長美	一冊	迄
御奏者番勤向自筆留日記	宝曆一四年三月一日一 四月晦日	横長美	一冊	至	御奏者番勤向自筆留日記	明和四年一月一日一 二月三〇日	横長美	一冊	迄
御奏者番勤向自筆留日記	宝曆一四年五月一日一 六月晦日	横長美	一冊	至	御奏者番勤向自筆留日記	明和四年三月一日一 四月三〇日	横長美	一冊	迄

御奏者番勤向自筆留日記	明和四年五月一日 六月三〇日	横長美	一冊	六
御奏者番勤向自筆留日記	明和四年七月一日 八月三〇日	横長美	一冊	三
御奏者番勤向自筆留日記	明和四年九月一日 十一月五日	横長美	一冊	三
御奏者番勤向自筆留日記	明和四年十一月五日 十二月二十九日	横長美	一冊	六
御奏者番勤向自筆留日記	明和五年一月一日 二月二十九日	横長美	一冊	五
御奏者番勤向自筆留日記	明和五年三月一日 四月三〇日	横長美	一冊	六
御奏者番勤向自筆留日記	明和五年五月一日 六月二十九日	横長美	一冊	七
御奏者番勤向自筆留日記	明和五年七月一日 九月二十九日	横長美	一冊	六
御奏者番勤向自筆留日記	明和五年一〇月一日 十二月三〇日	横長美	一冊	六
御奏者番勤向自筆留日記	明和六年一月一日 二月三〇日	横長美	一冊	六
御奏者番勤向自筆留日記	明和六年三月一日 四月十五日	横長美	一冊	七
御奏者番勤向自筆留日記	明和六年四月一六日 十二月九日	横長美	一冊	三
御奏者番勤向自筆留日記	明和六年五月一日 六月二十九日	横長美	一冊	三
御奏者番勤向自筆留日記	明和六年七月一日 八月三〇日	横長美	一冊	四

寺社奉行加役勤向自筆留日記	明和六年一〇月一日 一一月三〇日	横長美	一冊	五
日記	明和六年一〇月一日 月・五月・六月・八月・一〇月・十二月	横半半	一冊	六
日記	明和八年一月・二月・四月・六月・八月 一〇月・十二月	横半半	一冊	七
月番中手留	明和六年二月・七年四月	横半半	一冊	六
月番中手留	明和七年七月・十二月	横半半	一冊	九
月番中手留	明和八年三月・七月・十二月	横半半	一冊	八
月番中手留	明和九年三月・四月	横半半	一冊	二
月番中手留	明和九年七月・一〇月	横半半	一冊	三
至心院様二十五回御忌千部御法事一件留	明和九年二月八日・二月二十六日	横半半	一冊	三
日記	安永二年一月・三月・四月・六月・八月 一〇月・十二月	横半半	一冊	四
日記	安永三年二月・四月・六月・八月・一〇月 十二月	横半半	一冊	五
日記	安永四年二月・六月・八月・一〇月・一二 月・閏二月	横半半	一冊	六
日記	安永五年一月・三月	横半半	一冊	七
月番中手留	安永二年二月・五月・九月	横半半	一冊	六
月番中手留	安永三年一月・五月・九月	横半半	一冊	六
月番中手留	安永四年一月・七月・十二月	横半半	一冊	二
月番中手留	安永五年一月・四月	横半半	一冊	二
勤向日記	天明三年九月一日・三〇日	横長半	一冊	三

勤向日記	天明三年一〇月一日—三日	横長半	一冊	二三	御奏者番日記	天明八年七月一日—八月一四日	横長美	一冊	三四
勤向日記	天明三年一〇月五日—三〇日	横長半	一冊	二四	御暇中御奏者番日記	天明八年八月一五日—二月一四日	横長美	一冊	三五
日記	天明五年一月一日—四月二九日	横長美	一冊	一九	御奏者番日記	天明八年二月一五日—三〇日	横長美	一冊	二六
日記	天明五年五月一日—八月一四日	横長美	一冊	三〇	御奏者番日記	天明九年一月一日—三月二九日	横長美	一冊	二七
日記	天明五年八月一五日—二月三〇日	横長美	一冊	三一	御奏者番日記	寬政元年四月一日—六月二九日	横長美	一冊	二八
日記	天明六年一月一日—三月二九日	横長美	一冊	三二	御奏者番日記	寬政元年七月一日—八月三〇日	横長美	一冊	二九
日記	天明六年四月一日—六月二九日	横長美	一冊	三三	在邑中御奏者番日記	寬政元年九月一日—二月一四日	横長美	一冊	三〇
日記	天明六年七月一日—九月二九日	横長美	一冊	三四	御奏者番日記	寬政元年二月一五日—三〇日	横長美	一冊	三一
日記	天明六年一〇月一日—二月三〇日	横長美	一冊	三五	日記写	天明七年三月一二日—四月二三日	横長半	一冊	三二
申合覺	天明六年九月一日—八日	半	一冊	二五	當番・助番・御番替日記	天明七年三月二二日—二月二八日	横長半	一冊	三三
申合覺	天明六年九月八日—一八日	半	一冊	二六	日記	拔書 天明八年一月—二月	横長半	一冊	三四
申合覺	天明六年九月一九日—一〇月七日	半	一冊	二七	日記	拔書 天明九(寬政元)年	横長半	一冊	三五
申合覺	天明六年一〇月八日—二八日	半	一冊	二八	日記写	寬政二年一月一日—三月三日	横長半	一冊	三六
日記	天明七年一月一日—三月二九日	横長美	一冊	二九	日記写	寬政三年一月一日—九月二〇日	横長半	一冊	三七
御奏者番日記	天明七年四月一日—二三日	横長美	一冊	三〇	英 直				
(御奏者番日記)	天明七年四月二四日—六月四日	横長美	一冊	三一	勤向日記	寬政二年七月一四日—九月一五日	横長美	一冊	三八
(御奏者番日記)	天明七年六月九日—二九日	横長美	一冊	三二	日記	寬政二年一〇月一日—十二月二九日	横長美	一冊	三九
御奏者番日記	天明七年七月一日—九月三〇日	横長美	一冊	三三	勤向日記	寬政三年一月一日—二月二九日	横長美	一冊	四〇
御奏者番日記	天明七年一〇月一日—二月三日	横長美	一冊	三四	勤向日記	寬政三年三月一日—四月三〇日	横長美	一冊	四一
御奏者番日記	天明八年一月一日—三月三〇日	横長美	一冊	三五	勤向日記	寬政三年五月一日—六月二六日	横長美	一冊	四二
御奏者番日記	天明八年四月一日—六月二九日	横長美	一冊	三六					

勤向日記	寬政三年七月一日—八月三〇日	橫長美	一冊	一五
御暇中日記	寬政三年九月一日—二〇日	橫長美	一冊	一五
御暇中日記	寬政三年九月二六日—一〇月三〇日	橫長美	一冊	一五
日記	寬政三年十一月二十五日—十二月二十九日	橫長美	一冊	一五
雁之間席日記	寬政四年一月一日—二月三〇日	橫長美	一冊	一六
御日記	寬政四年閏二月一日—四月一日	橫長美	一冊	一六
雁之間席日記	寬政四年四月一日—六月三〇日	橫長美	一冊	一六
雁之間席日記	寬政四年七月一日—八月三〇日	橫長美	一冊	一六
御暇中日記	寬政四年九月一日—十一月三〇日	橫長美	一冊	一六
雁之間席日記	寬政四年十二月一日—三〇日	橫長美	一冊	一六
勤向日記	寬政五年一月一日—二十九日	橫長美	一冊	一六
勤向日記	寬政五年二月一日—三〇日	橫長美	一冊	一六
勤向日記	寬政五年三月一日—二十九日	橫長美	一冊	一六
勤向日記	寬政五年四月一日—三〇日	橫長美	一冊	一六
勤向日記	寬政五年五月一日—二十九日	橫長美	一冊	一六
勤向日記	寬政五年六月一日—二十八日	橫長美	一冊	一六
勤向日記	寬政五年七月一日—二十九日	橫長美	一冊	一六
勤向日記	寬政五年八月一日—三十一日	橫長美	一冊	一六
御暇中雁之間席日記	寬政五年九月一日—一〇月二十九日	橫長美	一冊	一六
雁之間席日記	寬政五年十一月一日—三〇日	橫長美	一冊	一六
雁之間席日記	寬政五年十二月一日—十四日	橫長美	一冊	一六

雁之間席日記	寬政六年一月一日—二十八日	橫長美	一冊	一六
雁之間席日記	寬政六年三月一日—十六日	橫長美	一冊	一六
雁之間席日記	寬政六年四月一日—一〇日	橫長美	一冊	一六
雁之間席日記	寬政六年五月一日—二十九日	橫長美	一冊	一六
雁之間席日記	寬政六年六月一日—一日	橫長美	一冊	一六
雁之間席日記	寬政六年七月一日—十五日	橫長美	一冊	一六
勤向日記	寬政五年一月一日—五月二十九日	橫長美	一冊	一六
勤向日記	寬政五年九月一日—十一月二十九日	橫長美	一冊	一六
勤向日記	寬政五年十一月一日—十二月十四日	橫長美	一冊	一六
勤向日記	寬政六年一月一日—六月十三日	橫長美	一冊	一六
勤向日記	寬政六年九月一日—十五日	橫長美	一冊	一六
在城中日記	寬政六年一〇月二日—十一月七日	橫長美	一冊	一六
公私之日記	寬政六年十二月一日—十四日	橫長美	一冊	一六
公私之日記	寬政七年一月一日—一〇日	橫長美	一冊	一六
公私之日記	寬政七年二月一日—十五日	橫長美	一冊	一六
日記	寬政七年三月一日—一〇日	橫長美	一冊	一六
勤向日記	寬政七年五月一日—二十九日	橫長美	一冊	一六
勤向日記	寬政七年六月一日—二十九日	橫長美	一冊	一六
勤向日記	寬政七年七月一日—二十九日	橫長美	一冊	一六
勤向日記	寬政七年八月一日—三十一日	橫長美	一冊	一六
御暇中日記	寬政七年九月一日—一〇月二〇日	橫長美	一冊	一六

參府後日記	寬政七年十一月三日—十二月二日	橫長美	一冊	二五
勤向日記	寬政八年一月一日—二日	橫長美	一冊	二六
勤向日記	寬政八年二月一日—二四日	橫長美	一冊	二七
公私之日記	寬政八年三月一日—二二日	橫長美	一冊	二八
公私日記	寬政八年四月一日—二九日	橫長美	一冊	二九
公私日記	寬政八年五月一日—四日	橫長美	一冊	三〇
公私日記	寬政八年六月一日—二二日	橫長美	一冊	三一
公私日記	寬政八年七月一日—二九日	橫長美	一冊	三二
公私日記	寬政八年八月一日—二九日	橫長美	一冊	三三
公私日記	寬政八年九月一日—二六日	橫長美	一冊	三四
在城中日記	寬政八年九月二七日—一〇月一日	橫長美	一冊	三五
參府後日記	寬政八年一〇月三日—二二日	橫長美	一冊	三六
公私日記	寬政九年一月一日—三〇日	橫長美	一冊	三八
公私日記	寬政九年二月一日—二九日	橫長美	一冊	三九
公私日記	寬政九年三月一日—二八日	橫長美	一冊	四〇
公私日記	寬政九年四月一日—一九日	橫長美	一冊	四一
公私日記	寬政九年五月一日—二九日	橫長美	一冊	四二
公私日記	寬政九年六月一日—一七日	橫長美	一冊	四三
公私日記	寬政九年七月一日—八日	橫長美	一冊	四四
公私日記	寬政九年閏七月一日—二九日	橫長美	一冊	四五

公私日記	寛政九年八月一日—三〇日	横長美	一冊	三六
御暇中公私日記	寛政九年九月一日—二四日	横長美	一冊	二七
参府後日記	寛政九年十一月二四日—二九日	横長美	一冊	二八
公私日記	寛政九年十二月一日—二九日	横長美	一冊	二九
勤向日記	寛政一〇年一月一日—二三日	横長美	一冊	三〇
勤向日記	寛政一〇年二月一日—二八日	横長美	一冊	三一
勤向日記	寛政一〇年三月一日—二九日	横長美	一冊	三三
勤向日記	寛政一〇年四月一日—二五日	横長美	一冊	三三
勉向日記	寛政一〇年五月一日—一〇日	横長美	一冊	三四
勤向日記	寛政一〇年六月一日—二一日	横長美	一冊	三五
御奏者番日記	寛政一〇年六月二九日—二九日	横長美	一冊	三六
御奏者番日記	寛政一〇年七月一日—一〇日	横長美	一冊	三七
御役中日記	寛政一〇年六月一九日—二二日 月三〇日	横美平	一冊	三八
御役中日記	寛政一一年一月一日—二二月 三〇日	横美平	一冊	三九
御役中日記	寛政一二年一月一日—二二月 三〇日	横美平	一冊	四〇
御役中日記	寛政一三年一月一日—一〇月 一一日	横美平	一冊	四一
御日記下帳	寛政一二年六月一日—二九日	横長美	一冊	四二
西御丸御当番日記書拔	寛政一〇年七月五日—二二日 二九日	横長美	二冊	四三

西御丸御日記書拔 算政一一年一月二日—五月 二七日 美・半 二冊 三三

彦 直

在城中 岩間領巡見并參勤御礼迄之日記 文化二一年九月二二日—二二月一四日 21×14 一冊 四四

在城中并參勤御礼迄之日記 文化一三年九月九日—二二月一四日 21×14 一冊 四六

在城中并參勤御礼迄之日記 文政元年九月一四日—二二月一四日 21×14 一冊 四七

在城中并參勤御礼迄之日記 文政二年九月一四日—二二月一四日 21×14 一冊 四八

在城中并參勤御礼迄之日記 文政三年九月一四日—二二月一四日 21×14 一冊 四九

在城中并參勤御礼迄之日記 文政四年一〇月五日—二二月一四日 21×14 一冊 五〇

在城中并參勤御礼迄之日記 文政五年九月一四日—二二月一四日 21×14 一冊 五一

在城中并參勤御礼迄之日記 文政六年一〇月一三日—二二月一四日 21×14 一冊 五二

在城中并參勤御礼迄之日記 文政九年九月二四日—二二月一四日 21×14 一冊 五三

在城中并參勤御礼迄之日記 文政一〇年九月一四日—二二月一四日 21×14 一冊 五四

寅 直

備忘錄 嘉永元年一〇月一八日—二八日 20×13 一冊 四四

備忘錄 月番中務 嘉永元年一〇月二九日—一三〇日 20×13 一冊 四五

備忘錄 月番自分 嘉永元年二月一日—一八日 20×13 一冊 四六

備忘錄 月番淡路 嘉永二年一月一日—二八日 20×13 一冊 四七

備忘錄 月番紀伊守 嘉永二年二月一日—二九日 20×13 一冊 四八

備忘錄 月番中務 嘉永二年三月一日—三〇日 20×13 一冊 四九

備忘錄 月番自分 嘉永二年四月一日—二八日 20×13 一冊 五〇

備忘錄 月番淡路 嘉永二年閏四月一日—二九日 20×13 一冊 五一

備忘錄 月番紀伊守 嘉永二年五月一日—二九日 20×13 一冊 五二

備忘錄 月番中務 嘉永二年六月一日—二九日 20×13 一冊 五三

備忘錄 月番自分 嘉永二年七月一日—三〇日 20×13 一冊 五四

備忘錄 月番淡路 嘉永二年八月一日—二九日 20×13 一冊 五五

備忘錄 月番紀伊守 嘉永二年九月一日—三〇日 20×13 一冊 五六

備忘錄 月番中務 嘉永二年一〇月一日—三〇日 20×13 一冊 五七

備忘錄 月番自分 嘉永二年十一月一日—二九日 20×13 一冊 五八

備忘錄 月番中務 嘉永三年一月一日—三〇日 20×13 一冊 五九

備忘錄 月番紀伊守 嘉永三年二月一日—二九日 20×13 一冊 六〇

備忘錄 月番淡路 嘉永三年三月一日—三〇日 20×13 一冊 六一

備忘錄 月番自分 嘉永三年五月一日—二八日 20×13 一冊 六二

備忘錄 月番中務 嘉永三年六月一日—二九日 20×13 一冊 六三

備忘錄 月番紀伊守 嘉永三年七月一日—二九日 20×13 一冊 六四

本加日記 嘉永元年一〇月一八日—三〇日 橫美半 一冊 六五

本加日記 嘉永元年十一月一日—三〇日 橫美半 一冊 六六

日記 本加 初当番 日 嘉永元年二月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 嘉永二年一月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 嘉永二年二月一日—二九日	横美平	一冊	三〇
本加日記 嘉永二年三月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 嘉永二年閏四月一日—二九日	横美平	一冊	三〇
本加日記 嘉永二年五月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 嘉永二年六月一日—二九日	横美平	一冊	三〇
本加日記 嘉永二年七月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 嘉永二年八月一日—二八日	横美平	一冊	三〇
本加日記 嘉永二年九月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 嘉永二年一〇月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 嘉永二年十一月一日—二九日	横美平	一冊	三〇
本加日記 嘉永二年十二月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 嘉永三年一月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 嘉永三年二月一日—二九日	横美平	一冊	三〇
本加日記 嘉永三年三月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 月番 嘉永三年五月一日—二九日	横美平	一冊	三〇
本加日記 嘉永三年六月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 嘉永三年七月一日—二九日	横美平	一冊	三〇
本加日記 嘉永三年八月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 元治元年九月一〇日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 元治元年一〇月一日—二九日	横美平	一冊	三〇
本加日記 元治元年十一月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 元治元年十二月一日—二九日	横美平	一冊	三〇
本加日記 月番 元治二年二月一日—二九日	横美平	一冊	三〇
本加日記 元治二年三月一日—二九日	横美平	一冊	三〇
本加日記 元治二年四月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 慶応元年六月一日—二九日	横美平	一冊	三〇
本加日記 慶応元年七月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 月番 慶応元年八月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 慶応元年九月一日—二九日	横美平	一冊	三〇
本加日記 慶応元年十二月一日—二九日	横美平	一冊	三〇
本加日記 慶応二年一月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 慶応二年四月一日—二八日	横美平	一冊	三〇
本加日記 慶応二年六月一日—二九日	横美平	一冊	三〇
本加日記 月番 慶応二年八月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 月番 慶応二年十二月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 慶応三年一月一日—二九日	横美平	一冊	三〇
本加日記 慶応三年二月一日—三〇日	横美平	一冊	三〇
本加日記 慶応三年三月一日—二九日	横美平	一冊	三〇
本加日記 慶応三年五月一日—二九日	横美平	一冊	三〇
本加日記 慶応三年六月一日—二九日	横美平	一冊	三〇
本加日記 慶応三年七月一日—二九日	横美平	一冊	三〇

本加日記	慶応三年八月一日—三〇日	横美半	一冊	四三
本加日記	慶応三年九月一日—二九日	横美半	一冊	四四
本加日記	慶応三年一〇月一日—三〇日	横美半	一冊	四五
本加日記	慶応三年十一月一日—三〇日	横美半	一冊	四六
本加日記	慶応三年十二月一日—三〇日	横美半	一冊	四七
本加日記	月番 慶応四年一月一日—二九日	横美半	一冊	四八
本加日記	慶応四年二月一日—三三	横美半	一冊	四九
要件日誌	明治一一年三月一日—六月二九日	半	一冊	五〇
要件日誌	明治一二年一月一日—二月三〇日	半	一冊	五一
要件日誌	明治一四年七月一日—二月三二日	半	一冊	五二
要件日誌	明治一五年七月一日—二月一七日	半	一冊	五三
要件日誌	明治一六年一月一日—六月三〇日	半	一冊	五四
要件日誌	明治一六年七月一日—二月三〇日	半	一冊	五五
要件日誌	明治一七年一月一日—二月三二日	半	一冊	五六
要件日誌	明治二四年一月一日—九月二日	半	一冊	五七
(土屋寅直日記断片) (明治)				
半		飯一綴	二〇四	
起上簿	慶応二年一月一日—一月四日	半	一冊	三七
上京日記	慶応四年四月五日—二四日	半	一冊	三八
在京中日記	慶応四年四月二四日—六月二六日	半	一冊	三九
東京府留在日記	明治一二年三月二四日—六月一三日	美	一冊	四〇

武術・学芸

兵 術

(池田八左衛門兵術秘用許授書付) 相摸守宛
未年八月一三日

(兵術秘用覚書) (池田氏カ) 未年

(池田八左衛門流儀秘伝書許授書付) 相摸守宛
卯年正月一三日

(池田嘉納元祖述作書物許授書付) 相摸守宛
五年九月二七日

(大陣取図三種) 宮田安左衛門景豊

武備大瑩鈔 (藩主自筆)

猪 狩 図

中貫原より 追留之絵図 [御猪狩図] 寛政六年
小山崎原迄

(中貫原御猪狩之図) (寛政六年)

史誌・伝記

仙原 三浦晋(梅園) 安永三年人文久三年守
石閑人写校 明治四年弟子退山人再校

稲葉の雨 「日本外史評介」 牛尾藻介以直
元治元年

弘道館記 徳川斎昭 天保九年三月

常陸帯 藤田東湖

108×127

三鋪 104

美

一冊 121

82×73

一鋪 102

82×64

一鋪 106

美

三冊 106

半

一冊 105

美

一冊 74

美

三冊 101

水藩記事 完	半	一冊	二八	古文孝經正文 漢 籍	美	板一冊	二六
名将言行録 岡谷繁実 明治二九年	8×15	刊七冊	三五〇	古文孝經 太宰春台訓点 須原屋板 延享元年五月	美	板一冊	二六
訂正日本政記論文講義 頼山陽 河村北溟講述 増補 明治三〇年	8×15	刊二冊	三五〇	古文孝經 嵩山堂板 文化九年再板	美	板一冊	二六
武田家記事 理慶尼	美	板一冊	二八	改訂五經 後藤周平訓点 長門藏版局板 明治一四年	美	板一冊	二六
聖徳太子憲法 (藩主自筆)	美	一冊	三〇三	後藤点 新刻四書 佐土原藩藏版 明治二五年	美	板一冊	二六
聖徳太子憲法	美	一冊	三〇四	大納言為家集 上・下	美	二冊	三六
重修常盤草 [淡路常盤草] 仲野安雄 享保	美	一冊	三三	俳諧之秘記 松尾芭蕉	美	一冊	三八
卷一 淡路国 雜著	美	一冊	三三	秘本玉玖志気 完 本居宣長 (天明七年)	半	一冊	三二
卷二 津名郡 物部郷 平安郷	美	一冊	三三	伊勢二宮つき竹の弁 全 本居宣長 (明治二年坂本岩根享)	半	一冊	二九
卷三 志筑郷 来馬郷	美	一冊	三三	千年一事 藤牛尾以直 天保五年	半	一冊	二九
卷四 育波郷 都志郷 津名郷	美	一冊	三三	万葉緯	半	一冊	三四
卷五 三原郡 倭文郷 幡多郷	美	一冊	三三	詩文・絵画			
卷六 養宜郷 榎列郷	美	一冊	三三	飛鳥井雅章卿吉野記・冷泉為村卿嵯峨記	美	一冊	三〇
卷七 神稻郷 賀集郷	美	一冊	三三	[翁草巻百七]	半	一冊	三五
卷八 阿万郷 広田郷 賀茂郷	美	一冊	三三	和歌いれひもぬき歌 石井居正	半	一冊	三五
尼州三孝子伝 田中時敏 [阿波国文庫旧蔵本 不忍文庫所蔵印アリ] (享保一二年)	美	一冊	二六	(歌俳百人選抄)	半	一冊	二七
曆統便覧 [「明治四二年」]	17×7	一帖	六九	近世文詩 [時事詩] 小林涉 明治四〇年	半	一冊	二六
教祖正鉄大人御遺訓 [「辺都鏡・二日灸」]	半	一冊	二七	当座百首 土屋英直 享和元年九月一日	美	一冊	三七
掌年中行事 間宮永好 [「萬里小路睦子印アリ」]	半	一冊	三三				

松蔭日記 上・中・下 藤原町子	美	三冊	二三三	諸家名器集 自卷之一 至卷之六	美	六冊	三三三
諸体詩則 上・下 林周父 (元文二年序)	半	二冊	二四六	書籍目録			
心の友 (土屋光子カ)	美	七冊	一六九	御書籍目録	美大	一冊	二四四
霜の下草 一・二 土屋光子	半	二冊	五〇〇	御書籍目録 明治五年	美大	一冊	二五五
御垣の下草 全 土屋光子	半	一冊	五三	四書小学五経印簿	美大	一冊	二六六
詠草 [青蓮社]	半	一冊	五三	土屋邸御成一件			
別業縮地 [江東別業三十景詩画卷] 土屋英直 享和二年	美	一卷	二七	御成日記 [綱吉政直邸御成] (元禄七年四月一 〇日)			
吉書初 子年・丑年		二通	六九	御成日記 四 被下物之部	美	一冊	二七〇
仏 書				御成日記 五 御当日諸席之部 附役付之部	美	一冊	二七
息心立印鈔 芦山寺明道上人照源 承応元年一 一月舜興写	美	五冊	一三六	御成日記 六之下 御祝儀振舞・御客様・御用 達町人・若年寄外役人	美	一冊	二七
(立華花瓶井台座見積り図)	12×30 12×33 15×138	三鋪	二七四	御成日記 七 当日御出ひ御衆中様・席定・献 立・料理人肝煎役人・御客人数 ・物数奇之事	美	一冊	二七
遊 芸				御成日記 八之上 御進物被下之部	美	一冊	二七
(茶道器具図寸法)	美	一冊	三〇元	御成日記 八之下 御成以後方々御祝儀被遺物 之部 附御家中江被下物共	美	一冊	二五
(相阿弥流生花秘伝書) 須田小市郎佳松 文政 三年一同一二年写	半	合一冊	三三〇	御成日記 九之上 御到来物之部	美	一冊	二六
十種香暗部山 附図香筵玩具共 空華庵忍鑑 (元文四年写)	美	二冊	三三	御成日記 九之下 御到来物之部 [四月九日ヨ リ十二日迄各家カ]	美	一冊	二七
名物図解 [茶道界] 享保一九年 常山卿元写	美	二冊	三三九	御成日記 諸色入用道具・到来物之内進物ニ出 ル分	美	一冊	二六

御成日記 十一 金銀御入用積之部

美 一冊 三六

明治後家政

家政一般

土屋寅直書狀〔恒時ノ事・旧領出張中消息〕

家扶家從宛 明治六年二月

一通 一六六

土屋寅直書狀 家扶宛 明治六年二月二〇日

一通 一八〇

土屋寅直書狀〔消息〕 家扶宛 明治六年

一六通 三三

御維新以來諸御達願伺取調書〔土屋家〕

半 一冊 一四三

官省會館府達書留 土屋家扶 明治一二年一月一二月

半 一冊 六二

官省府庁部長局會館區彼所達留 土屋家扶 明治一五年一月

半 一冊 六三

御相談役關係書綴〔明治三六年迄〕 明治三一年一月

半 一冊 七〇

御財産目録 家扶・相談役 明治三一年―同三六年

美 一冊 D 二六

中山高明意見書陳情書ニ対シ答案〔家政改革・開懇等〕 土屋正直 明治三四年九月

半 一冊 五三

御諮問書〔算・普請・財産処分〕 家政協議會 明治三六年―同四三年

美 一冊 六九

自明治三十五年往復留 旧土浦藩士同盟會會長 至同三十七年 一色範叙 明治三五年―同三七年

半 一冊 六三

家政協議員關係綴 會頭一色範叙 明治三六年―大正五年

美 一冊 六九

○ 儀金圖數連名帳 会主善心寺 明治四年三月

美 一冊 七〇

家扶日誌

日記 明治一〇年二月以降

半 一冊 二四

日誌 土田 明治一三年一月一日―二月三二日

横長半 一冊 二五

雜記 土田 明治一四年一月一日―二月三二日

横長半 一冊 二五

日誌 信敏 明治一四年

横長半 一冊 二五

日誌 信敏 明治一五年一月一日―二月三二日

横長半 一冊 二五

日記 香湖〔土田好古〕 明治一五年一月一日―二月三二日

横長半 一冊 二五

公私要件日録 香湖 明治一六年一月一日―二月三二日

横長半 一冊 二五

公私雜録 香湖 明治一七年一月一日―二月三二日

横長半 一冊 二六

公私日記 好古 明治一八年一月一日―二月三二日

横長半 一冊 二六

公私日録 明治一九年一月一日―二月三二日

横長半 一冊 二六

公私日録 香湖 明治二〇年一月一日―二月三二日

横長半 一冊 二六

公私日録 香湖 明治二一年一月一日―二月三二日

横長半 一冊 二六

公私日録 明治二二年一月一日―二月三二日

横長半 一冊 二六

公私日録 明治二三年一月一日―二月三二日

横長半 一冊 二六

公私日録 好古 明治二四年一月一日―二月三二日

横長半 一冊 二六

公私日録	香湖 明治二五年一月一日—二月三十一日	横美半	一冊	六六
公私日録	香湖 明治二六年一月一日—二月三十一日	横美半	一冊	六九
公私日録	香湖 明治二七年一月一日—二月三十一日	横美半	一冊	六九
公私日録	香湖 明治二八年一月一日—二月三十一日	横美半	一冊	元二
公私日録	香湖 明治二九年一月一日—二月三十一日	横美半	一冊	元三
公私日録	香湖 明治三〇年一月一日—二月三十一日	横美半	一冊	元三
公私日録	香湖 明治三一年一月一日—二月三十一日	横美半	一冊	元四
公私日録	香湖 明治三二年一月一日—二月二十六日	横美半	一冊	元五
(公私日録)	明治三三年一月一日—二月三十一日	横美半	一冊	元六
公私日録	明治三四年一月一日—七月三十一日	横美半	一冊	元七
公私日録	〔前半一部、後半同シ〕 明治三四年六月三〇日—十二月二十四日	横美半	一冊	元六
備忘日誌	信敏 明治二六年一月一日—二月三十一日	横美半	一冊	元五
備忘日誌	明治二八年一月一日—二月三十一日	横美半	一冊	元六
備忘日誌	明治二九年一月一日—二月三十一日	横美半	一冊	元六
備忘日誌	明治三〇年一月一日—二月三十一日	横美半	一冊	元三
備忘日誌	明治三二年一月一日—四月十五日	半	一冊	元三
日誌 (鈴木)	明治二六年一月一日—二月三十一日	半	一冊	元四

11.	地所家屋買入及家屋売却ニ関スル書類	一袋	二六
10.	御移転ニ係ル書 〔明治四〇年四月五日—四一年一〇月二日 日誌〕	一冊	元三
9.	(移転諸費用綴)	半	元一
8.	(御庭建設費及ビ運搬費記録) 〔穩田邸〕	半	元一
7.	家屋売買届控 〔穩田邸購入〕 明治四〇年七月	半	元一
6.	仮証書 〔深川富川町建物売渡〕 伊藤光徳 川村鉄太郎宛贈 明治四一年四月一四日	一通	元一
5.	(証書下書)	一通	元一
4.	(建物売渡代金請取証下書)	一通	元一
3.	建物売買契約書 下書共 川村鉄太郎・土屋正直 明治四一年四月一四日	二通	元一
2.	家屋引据予算書 井上伊三郎 明治四一年八月	一冊	元一
1.	旧邸建物調査	一冊	元一
	(移転諸費用覚)	一通	元一

12.	(温室建設見積書) 山科某 土屋宛 一〇月二日	一綴	
13.	深川旧御殿図	三鋪	55×80 55×71
14.	(穩田御屋敷図面)	一鋪	40×56
15.	(土田・細田邸図面)	一鋪	39×54
16.	(土田・細田邸建物図面)	一鋪	68×39
17.	(建物図)	二鋪	33×29 12×23
18.	落合東蔵書狀 伊藤光徳宛 明治四〇 年一同四三年	七通	
19.	前田末松書狀 伊藤光徳宛 明治四一 年三月五日	一通	
20.	吹田勘十郎書狀 (図面共) 伊藤光徳宛 明治四三年四月	四通	
21.	谷口与八郎書狀 土屋家令家扶宛 明治四三年六月一九日	一通	
22.	一色範叙書狀 伊藤光徳宛	二通	
23.	武藤某書狀 伊藤光徳宛 二月	一通	
24.	(地所買入褒□金請取証) 谷口与八郎 土屋會計課宛 六月二九日	一通	
○			
	深川富川町参番地実測図 [細谷詮貸地分] 日本委託測量社 明治四一年	二鋪	54×77 10尺
○			
	東京御絵図 明治	刊一鋪	44×60 10尺
樹芸社・三ッ輪店			
(樹芸社三ッ輪店勘定書類) 明治一五年			
1.	明治十四年御店勘定惣計差引調	半	一冊
2.	已一月迄御店勘定調帳 三ッ輪店池 田信房・竹中修道・服部利貞 明治一五年 一月	半	一冊
3.	明治十五年迄三ヶ年間御店勘定予算調 同十七年迄	半	一冊
4.	十五年貯金利益予算書 [十四年五月 十二月 貯金元利計算共]	半	一冊
5.	所有地并建家売却大凡見積 [千野村・ 川口町等]	半	仮一冊
6.	貸金并品貸代金之内取立方区別見込 [蔵入口・品物貸・貸金口]	半	仮一冊
7.	銀行其他ヨリ借用并預り金差引資金調	半	仮一冊
8.	貯金月計調	半	仮一冊
9.	明治四年ヨリ御店勘定之度々損益調 同十四年迄	半	仮一冊
10.	(三ッ輪店経営御下問ニ付御答書)	半	仮一綴
11.	貯金貸附金調 [地所抵当貸・蔵入抵当貸 ・株券等抵当貸共]	半	一通
12.	(樹芸社出金年賦願書) 中島重雄 明治一五年二月	半	一通
寄附・献納			
	(土屋学校開設ニ付東京府達書) [学費献納ニ ツキ校名採用] 挙直宛 明治六年八月二八日	一通	一冊

(學費献納ニ付太政官表彰狀) 挙直宛 明治六年九月二三日	一通 二四二
(土浦学校新築費献納ニ付太政官表彰狀) 目録共 挙直宛 明治一〇年六月一九日	二通 二四三
(府下学校資金献ニ付太政官表彰狀) 挙直宛 明治一二年四月一九日	一通 二四三
鳥井正功等歎願書 (土浦学校建設資金寄付願) 挙直宛 明治一二年四月二六日	一通 二〇三
(土浦町失火罹災者へ施与ニ付太政官表彰狀) 挙直宛 明治一二年五月一六日	一通 二四七
(虎列刺予防費献納ニ付太政官表彰狀) 挙直宛 明治一三年二月一七日	一通 二四八
(神田松村町失火罹災者へ施与ニ付太政官表彰狀) 挙直宛 明治一四年一二月二七日	一通 二四九
(皇城災上ノ際献納ニ付宮内省表彰狀) 挙直宛 明治一七年三月六日	一通 二四〇
(警親庁蒸気唧筒設備費寄附ニ付賞勲局總裁表彰狀) 挙直宛 明治一〇年一〇月二九日	一通 二四五
(深川小学校費寄附ニ付賞勲局總裁表彰狀) 挙直宛 明治一二年七月二日	一通 二四四
(貧民救助金寄附ニ付賞勲局總裁表彰狀) 挙直宛 明治一四年三月一四日	一通 二四三
(深川区役所敷地購求費寄附ニ付賞勲局副總裁表彰狀) 挙直宛 明治一四年七月八日	一通 二四六
(貧民患者治療費寄附ニ付賞勲局總裁表彰狀) 挙直宛 明治一五年三月一一日	一通 二四三
(深川区役所へ寄附ニ付賞勲局總裁褒狀) 正直宛 明治一二年六月五日	一通 一六二

(土屋氏赤十字関係書類) 明治一六年一昭和一三年	五通 一八七
(罹災地へ寄附ニ付感謝狀) 明治一七年一 大正五年	八通 一八七
(日清日露両役ノ際寄附ニ付賞勲局總裁褒狀) 光子・正直宛 明治三〇年一四〇年	五通 一八六
(東京養育院資金寄附ニ付感謝狀) 明治三二年・同三八年	二通 一八五
菅公会感謝狀 黒田長成 正直宛 明治三五年三月七日	一通 一八八
大日本帝国水難救済会名誉會員証 正直宛 明治三六年五月一三日	一通 一八一
軍人遺族援護義会感謝狀 伊藤光徳宛 明治三七年五月二日	一通 一八四
日本体育会感謝狀 正直宛 明治三八年八月一七日	一通 一八一
(深川鷗盟会感謝狀) 土屋家扶宛 明治三八年八月	一通 一八七
帝国海事協会特別會員証 正直宛 明治三八年・四〇年	二通 一八三
帝国軍人援護会章牌贈呈狀 正直宛 明治三九年一二月	一通 一八三
(教育関係費寄附ニ付感謝狀) 明治三九年一 大正一五年	四通 一八三
(愛国婦人会特別會員并終身會員証) 穀子宛 明治四〇年五月一五日	二通 一八七
(東京感化院事業費寄附ニ付感謝狀) 正直宛 明治四一年九月二二日	一通 一八四
帝国軍人後援会會員証 正直宛 大正三年一〇月一五日	一通 一八五

東照宮三百年祭祀記念会感謝狀 正直宛 大正四年四月一日	一通 一八六
帝都復興記念章之証 正直宛 明治六年三月二〇日	一通 一八四
濟生会會員証 正直宛 昭和二年五月五日	一通 一八三
帝國飛行協會特別會員証 正直宛 昭和二年六月二二日	一通 一八〇
〔濟生会資金寄附ニ付感謝狀〕 正直宛 昭和二年一〇月二六日	一通 一八五
中野区本町方面事業後援会名譽會員推薦狀 正直宛 昭和三年三月二〇日	一通 一八〇
中野区本町方面事業後援会會長長谷川孝善書狀 正直宛 (昭和三年)	一通 一八九
〔水禍救難資金寄附ニ付土浦町長感謝狀〕 訂正書共 正直宛 昭和三年二月・同一四年二月	二通 一八三
目録・入記	
〔新御系図持出覺〕 曾根田平藏・小畑元右衛門・赤尾新助 明和二年十一月八日	一通 七四
御内書御長持入記〔享保一一年以降〕 安永二年	一冊 一〇四三
〔当秋御風干之節改覺〕 西川与次右衛門 安永六年九月	一通 三六
御代々様御自筆年々御風干御入記 安永二年—明治三年	九包 (六八通) 八五
御朱印御長持入記 控〔寛文四年以降〕 御朱印懸藤田勇・曾根田平藏 天明七年	一冊 一〇四
御判物御朱印覺書〔寛文—天明〕 (天明)	一通 七五

〔御朱印并領知目録改覺〕 (天明以降)	一通 一三九
〔御朱印并御判物等改覺〕 寛政元年九月一七日	一通 一三〇
〔御奉書御内書類目録〕 享和三年一月	横長美 一冊 二〇〇
享和二年文化七年迄御奉書其外御書附目録 文化八年五月	横長美 二冊 二〇五
御奉書御書付御伺書目録〔宝曆二年—文化二年人相書共〕 文化三年二月	一通 二〇四
〔御朱印并御判物等改覺〕〔奥羽領分鄉村高辻帳共〕 天保一二年三月七日	一通 二二一
御内書目録〔天保一二年弘化二年〕 弘化二年二月	一通 二〇六
〔御朱印御領知目録御内書御奉書入記〕 御召甲冑其外御道具帳記載ナキ分〔猪又元次郎持参〕 明治二九年八月一五日	半 一冊 七四
御先代様御筆御包紙	八枚 一四四
勤役	
御代替	
誓詞	
土屋采女誓詞控 案紙共 天保八年八月二三日	二通 七〇
土屋采女正寅直誓詞控 安政五年一〇月一日	一通 七五

献 上

老中返札 〔太刀馬代〕 寅直宛

二通 一五八

出 仕

御足袋・御杖願

〔御城内夏御足袋願書御附札〕 泰直・英直・彦直宛 天明四年・文政四年

二五通 二〇〇元 六五

〔御城内御杖願書御附札〕 天明七年・寛政一〇年・文化一四年

三通 一〇〇

出 仕 日

〔相統御札以前勤方之儀ニ付伺書御附札〕 主税宛 寛政二年七月一四日

一通 一七元

〔御詰日其外出仕之儀ニ付伺書御附札〕 主税宛 寛政二年八月五日

一通 一七三

○

松平能登守書狀 〔願書認方〕 土屋能登守 九月二日

二通 D 五

参勤交替

参 府

老中返札 〔上ヶ米用捨・参勤交代可為如前々ノ御札〕 陳直宛 〔享保一五年〕 四月二二日

二通 九〇五

老中御書附 〔御札登城召〕 陳直宛

四通 九元

老中御書附 〔御札登城召〕 篤直宛

一二通 一四三

老中御書附 〔御札登城召〕 泰直宛 天明五年・同八年・寛政元年

三通 一四〇

老中御書附 〔御札登城召〕 英直宛 寛政三年・同九年

八通 一四元

老中御書附 〔御札登城召〕 彦直宛 文化一一年・文政一〇年

九通 一五五

〔参勤御札以前下屋敷江一兩度罷越儀ニ付伺書御附札〕 彦直宛 文政四年一二月一日

一通 一七元

老中返札 〔参府有免願〕 采女正宛 天保七年六月一九日

一通 一五元

〔参勤御札献上差函書〕 阿部伊勢守外 一四日 一二月

一通 一六元

老中御書附 〔急御参府召〕 采女正宛 九月二八日

一通 一五元

老中御書附 〔御札登城召〕 寅直宛

六通 一五元

滞 府

〔養生ノ為滞府仕度願書〕 能登守 〔篤直〕 明和元年一〇年一二月

一通 一〇〇

〔居城水害ニ付滞府仕度願書御附札〕 能登守 〔泰直〕 宛 天明六年八月一三日

一通 一五元

〔在所出水之為滞府ニ付勤方之儀伺書御附札〕 能登守 宛 天明六年八月一五日

一通 一七元

〔奏者番役儀見習ノ為滞府仕度願書御附札〕 能登守 宛 天明七年六月二二日

一通 一五元

〔奏者番役儀見習ノ為滞府仕度願書御附札〕 但馬守 〔英直〕 宛 寛政一〇年七月九日

一通 一五元

〔奏者番番役儀見習ノ為滞府仕度願書〕 相摸守 〔彦直〕 文化一四年九月一六日

一通 一五元

御 暇

老中御書附 〔御札登城召〕 陳直宛

二通 一六元

老中御書附〔御札登城召〕 能登守〔篤直〕 宛 宝曆二年八月一四日	一通 一四〇	老中御書附〔願書返進〕 相摸守〔彦直〕 宛 文化二年一月二五日	一通 一六七
老中御書附〔登城召〕 能登守〔泰直〕 宛 天明 五年・同八年・寛政元年	三通 一四六	老中御書附〔願書返進〕 采女正宛 十一月三日	一通 一五三
老中御書附〔登城召〕 但馬守〔英直〕 宛 寛政 二年・同二年	一通 一四七	御 供 連	
*〔御暇道中筋出水ニ付松戸駅迄船ニ而出立仕 度伺書御附札〕 英直宛 九月三日	一通 一四四	〔御供連減少ニ付伺書写〕 牧野駿河守 天明八年	一通 一六二
*〔養母死去ニ付在所出立之儀伺書御附札〕 主税宛 寛政二年一〇月二五日	一通 一七五	〔御供連減少ニ付伺書案〕 土屋能登守 天明八年 八月二日	二通 一六二
〔御暇前乗馬上覽被仰出ニ付伺書御附札〕 但馬守宛 寛政八年九月一日	一通 一七三	〔御供連減少ニ付伺書御附札〕 能登守宛 天明八年 八月二日	一通 一六二
老中御書附〔登城召〕 相摸守〔彦直〕 宛 文化二年 文政一年	六通 一五九	〔御供連減少ニ付伺書御附札〕 但馬守〔英直〕 宛 寛政三年二月一三日	一通 一六〇
仮 養 子		〔御供連減少ニ付御聞置願書御附札〕 相摸守 宛 文政元年六月一八日	一通 一六一
老中御書附〔願書返進〕 但馬守〔陳直〕 宛 享保一四年二月・同一年六月二日	二通 一六九	在着御札・献上	
仮養子願書差出節之留 寛延二年六月二七日 〔土屋能登守仮養子願書案〕 〔寛延三年〕 九 月三日	一通 D 三	老中返札 陳直宛	一三通 一六八
〔弟主計養子跡式願書下書〕 能登守 寛延三 年九月三日	二通 一七〇	若年寄返札 陳直宛	二通 一六七
井上河内守書狀〔願手統方先例問合へ返答〕 土屋能登守宛 〔八月一九日〕	一通 D 七	御側衆返札 陳直宛	二通 一六六
老中御書附〔願書返進〕 能登守〔泰直〕 宛 天明八年二月二四日	一通 一六四	側用人返札 陳直宛 九月八日	一通 一六五
老中御書附〔願書返進〕 但馬守〔英直〕 宛 寛政二年・同戊年	二通 一六五	側用人返札 篤直宛 〔宝曆七年〕 一〇月・ 〔明和四年〕 九月	二通 一六四
		土屋篤直書狀控〔奉書請〕 老中宛 九月三日	一通 一六六

老中返札	泰直宛	天明五年・同八年・寛政元年	七通	一五九	鳥手宿 ^ろ 山王通り中通り廻り道之図	43×31	一鋪	1101
老中返札	英直宛	寛政三年—同一一年	一六通	一四六	藤代迄			
老中返札	彦直宛	文化一一年—文政一〇年	二四通	一五〇	藤代廻り道粗絵図	33×25	一鋪	1103
若年寄返札	彦直宛	文政九・同一〇年	二通	一五三	勤 番			
御側衆返札	彦直宛	文政一〇年	三通	一五四	御 門 番			
西丸側用人返札	彦直宛	文化一二年九月一八日	一通	一五一	老中御書附	〔陳直宛〕	享保一二年外	三通 九二
若君様付側用人返札	彦直宛	文政九年・同一〇年	二通	一五三	老中御書附	〔西九大手〕	但馬守〔陳直〕宛	一通 一六三
老中返札	寅直宛		一六通	一五三 一四六	老中御書附	〔御免共〕	能登守〔篤直〕宛	一一通 一四四 一六六
若年寄返札	寅直宛	天保一〇年・同一一年	六通	一五四	老中御書附	〔内桜田〕	能登守〔泰直〕宛	天明 一通 一四二
御側衆返札	寅直宛	天保一〇年・同一一年	六通	一五五	老中御書附	〔内桜田御免〕	能登守宛	天明六年 一通 一七三
(在着・参勤御礼献上物ニ付伺書御附札)				五通 一七〇	老中御書附	〔内桜田・西九大手〕	但馬守〔英直〕宛	寛政三年・同六年・同八年 四通 一四六
通行 図					老中御書附	〔内桜田外〕	相摸守〔彦直〕宛	文化二二年四月・六月 三通 一五九 一六四
江戸川・利根川・鬼怒川・小貝川・桜川・湖水通り	絵図	安永六年 堀越氏写	一鋪	106×112	老中御書附	〔桜田〕	采女正宛	天保九年一二月七日 一通 一五〇
江戸川・利根川・鬼怒川・小貝川・桜川・湖水通り	絵図		一鋪	106×113	老中御書附	〔西九大手〕	采女正宛	安政六年三月一一日 一通 一五七
土浦 ^ろ 船道之図			一鋪	77×47	老中御書附	〔大手〕	采女正宛	万延元年六月二六日 一通 一五三
江戸入 川々 街道筋之図			一鋪	87×102	火 之 番			
鳥手宿ヨリ藤代宿迄山王通り中通廻り道之絵図	本寛院〔篤直〕筆		一鋪	31×44	老中御書附	〔紅葉山并三之丸〕	但馬守〔陳直〕宛	享保八年・同一五年 二通 九六

(紅葉山火之御番勤方伺書差出ニ付老中御書附)
〔産穢中大手助 明後御番〕 但馬守宛 享保一七年六月二〇日

一通 一七三

老中御書附〔御城〕 能登守宛 元文二年・宝曆一三年・明和九年

四通 一四三

(火之番御用勤向ニ付土屋能登守朽木土佐守連署存寄書) 西丸目付宛 宝曆一四年四月

一通 D 〇

老中御書附〔大手組〕 健次郎(泰直) 宛 安永七年四月二二日

二通 一〇二

老中御書附〔日光迂座御固ニ付大手組御免〕 健次郎宛 安永八年八月二三日

一通 六四

老中御書附〔御城〕 但馬守(英直) 宛 寛政五年・享和二年

三通 一四三

(純町出火御防ニ付目付達書) 寛政六年一月一〇日

一通 一七三

老中御書附〔御防ノ際家来口論吟味一件〕 但馬守(英直) 宛 享和三年一月

一通 一四三

老中御書附〔大手・桜田〕 左門(寛直) 宛 享和四年・文化五年

三通 一〇二

老中御書附〔大手・桜田相役交替〕 保三郎外宛 文化元年二月一 同二年四月

五通 一四三

牧野備前守家来口上書〔相役交替、呼出〕 保三郎留守居宛 文化元年二月二日

一通 一四三

老中御書附〔大手御免〕 左門宛 文化八年六月一四日

一通 一五五

(病氣中大手組防人数差出之儀ニ付伺書御附札) 左門宛 文化八年二月一三日

一通 一五六

町 番

(殿様死去ニ付三屋敷辻番所其外心得方伺書御附札) 目付田沼市左衛門 健次郎家来山村司宛 安永六年七月二〇日

一通 一七二

(駿河台組合辻番所頭取向後稲葉丹後守へ被仰付外ニ付目付達書) 彦坂三太夫・初鹿野伝右衛門 土屋留守居宛 文化一二年二月一九日

一通 一六六

立 固

大目付達書〔天英院出棺迂固〕 左門宛 寛保元年三月四日

一通 一〇六

老中御書附写〔天英院出棺道筋〕 大目付宛 寛保元年四月

一通 一〇六

老中御書附〔東叡山還御後〕 能登守(篤直) 宛 (寛延三年) 四月一九日

一通 一六三

大目付達書〔御成跡〕 但馬守宛 寛政三年・同九年・同一一年

三通 一六九

大目付達書〔増上寺御參詣跡〕 左門(寛直) 宛 文化四年四月二八日・同五年六月一日

二通 一六七

大目付達書 治三郎宛 文化九年一月一九日

一通 一七一

大目付達書〔増上寺御成跡〕 相摸守(彦直) 宛 文化一三年二月二八日・六月一日

二通 一六三

(峯姫君様御結納御祝儀之節立固之儀ニ付伺書御附札) 保三郎家来庄野宗右衛門宛 文政二年二月

一通 一七五

(峯姫君様御結納御祝儀之節立固人数覚) 土屋氏(文政二年二月)

一通 一七六

(峯姫君様御結納御祝儀之節立固絵図) 土屋氏(文政二年二月)

一鋪 一四七

23×44

日光 勤番

老中御書附 但馬守(陳直) 宛 享保二年・同一三年

二通 二〇〇

陳直公日光御社參御警衛行列 享保一三年四月

横長半

一冊 六五

(日光奉行被仰付)ニ付奉書渡登城召大目付御書附 但馬守宛 寛政四年四月二十八日

横長半

一通 一六四

將軍家慶公日光御社參ニ就寅直公御勤番御行列 被仰出書共 天保一四年四月八明治初年亨

横長半

一冊 五九

御法事奉行

老中奉書 (桂昌院一回忌褒詞) 相摸守(政直) 宛 宝永三年六月二二日

横長半

一通 八三

老中御書附 (登城召) 能登守宛 宝曆二年・明和八年・同九年

横長半

二通 一四一

老中御書附 (慈徳院法事 登城召) 相摸守(彦直)宛 文政一二年二月・四月

横長半

二通 一五五

朝鮮人来聘御用

老中御書附 (登城召) 采女正宛 嘉永元年一〇月二二日

横長半

一通 一五七

田中城請取

老中御書附 (松平市右衛門・井出治左衛門誓詞一件) 土屋相摸守・田中孫十郎宛 天和二年正月七日

横長半

一通 一六〇

老中返札 (請取手配) 土屋相摸守・田中孫十郎宛 天和二年正月七日

横長半

一通 六九

老中返札 (勤番中情勢) 相摸守宛 天和二年正月八日

横長半

一通 六二

老中返札 (在番交替) 土屋相摸守・田中孫十郎宛 天和二年正月一八日

横長半

一通 一六二

老中御書附 (在番引揚) 土屋相摸守・田中孫十郎宛 天和二年正月一八日

横長半

一通 一六三

御手伝普請

川々普請

関東川々御普請御手伝一件 一・二・三 [安永一〇年]

美

三冊 D二

関東川々御普請御手伝一件 四 [安永一〇年二月三日一〇月一六日]

美

一冊 二二

関東川々御普請御小屋場日記写 [二月二九日一三月一六日] 鈴木四郎左衛門 安永一〇年二月

美

一冊 二四

上総安房村々樋橋堰溜井浚御普請仕様帳

美

一冊 七〇

下総常陸村々樋類道橋堀浚御普請仕様帳

美

一冊 七三

下総国内郷共村々川除御普請仕様帳 [安房国共]

美

一冊 七三

下総常陸内郷村々川除御普請仕様帳

美

一冊 七三

下総常陸村々川除御普請仕様帳

美

一冊 七五

老中御書附 (国役御普請願濟) 寛政四年四月一日・同六年八月一三日・文化一〇年二月二十五日

美

三通 一〇三

老中御書附 (東海道筋川々御普請役被仰付登城召) 保三郎宛 文化二年七月二一日・二二日

美

二通 一〇三

老中御書附 (東海道筋川々御普請役被仰付) 保三郎宛 文化二年七月二二日

美

一通 一〇〇

江戸城普請

老中御書附 (御普請役被仰付ニ付御手組御免) 保三郎宛 文化二年七月二二日

美

一通 一〇六

老中御書附〔登城召〕 但馬守宛 享保一八年
一〇月二十九日

二通 九三

老中返札〔西丸普請拝領御札〕 采女正宛 一
一月九日・二月九日

四通 二五五

国 役 金

〔朝鮮人來聘国役金納ニ付收納無之分并ニ穢
多高相除可申哉伺書御附札〕 勘定奉行柳生主
膳正 保三郎家來新治兵衛宛 文化五年七月五日

一通 二〇六

〔日光御神忌国役金納年延願書御附札〕 勘定
奉行柳生主膳正 相摸守家來大村市之允宛 文化
一三年一月

一通 二七〇

○

〔四座猿樂配当米割御勘定御証文〕 若年寄・
勘定奉行・同吟味役・組頭 但馬守宛 寛政二年
八月

一通 九六

御祝言上・献上

定式御祝儀

○數 直 宛

家綱御内書 寛文年間

二一通 八六

○政 直 宛

老中返札 延宝年間以降

一九通 八七

家綱・綱吉御内書 延宝七年 天和四年

一四通 八七

綱吉御内書 貞享元年 同五年

九通 八六

綱吉御内書 元禄元年 同九年

一九通 八六

綱吉御内書 元禄一〇年 同一七年

一七通 八〇

家宣・家継・吉宗御内書 正徳元年 享保四年

二〇通 八二

○陳 直 宛

吉宗御内書 享保四年 同一〇年

一九通 八三

老中御書附〔御内書渡〕 享保一二年二月二〇日外

二通 一六三

老中返札

一二通 九七

○篤 直 宛

家重御内書 寛延元年 同四年

一一通 八四

家重御内書 宝暦元年 同七年

一九通 八三

家重・家治御内書 宝暦八年 同一三年

一八通 八五

家治御内書 宝暦一四年 明和四年

一二通 八六

家治御内書 明和五年 同八年

一二通 八七

家治御内書 明和九年 安永五年

一三通 八八

而御九年始献上御太刀馬代目録 裏書濟

一二通 九三

宝暦一三年・明和三年 同九年

一二通 九二

而御丸八朔献上御太刀馬代目録 裏書濟

一三通 九三

宝暦一三年・明和三年 同九年

一三通 九二

家治御内書 天明四年 同六年

八通 八九

家治御内書 天明七年 寛政二年

一〇通 八五

土屋能登守書狀控 老中宛 一〇月

一通 一〇〇

土屋能登守書狀控 秋元但馬守宛 一〇月

二通 一〇七

老中御書附〔御内書渡〕

四四通 一三七

二包に分かれている

土屋能登守書狀控〔御内書御請〕 秋元但馬守宛 一〇月二三日

土屋能登守書狀控〔御内書御請〕 堀相摸守宛 一〇月二三日

老中返札

○泰直宛

兩御九年始献上御太刀馬代目錄 裏書濟

兩御九八朔献上御太刀馬代目錄 裏書濟

〔初而之儀〕付玄猪御祝儀之節登城方之儀伺書御附札 一〇月六日

老中御書附〔御礼登城召〕 天明三年一〇月

〔月次五節句登城之節勤方座席〕付伺書御附札 天明三年一〇月二日

〔田沼主殿頭家来口上書〕〔私宅召〕 留守居宛 天明三年一〇月二日

〔土屋家家来口上書〕 田沼主殿頭用人宛 天明三年一〇月二日

老中御書附〔御内書渡〕 天明八年・寛政二年

老中返札 安永七年・寛政元年

○英直宛

兩御九年始献上御太刀馬代目錄 裏書濟

兩御九八朔献上御太刀馬代目錄 裏書濟

〔端午御祝儀献上物伺書御附札〕〔産穢明〕 享和二年五月四日

〔定式御祝儀出仕之儀同席勤方之通相心得可申哉伺書御附札〕 寛政二年八月三日

二通 一七三

一通 一〇三

一二六通 一四六

一二二通 九三

一三通 九四

一通 一七三

一通 一七〇

一通 一七六

二通 一七三

一通 一七三

四通 一六四

四通 一六三

一六通 九三

二〇通 九六

一通 一八三

一通 一七四

老中御書附〔五節句月次登城召〕 寛政二年八月・文化八年二月

老中御書附〔御内書渡〕

家齊御内書 寛政三年・享和三年

○寛直宛

兩御九年始献上御太刀馬代目錄 裏書濟

兩御九八朔献上御太刀馬代目錄 裏書濟

〔八朔御礼登城不仕〕付献上之儀伺書御附札 寛政二年七月二十九日

老中返札 享和四年・文化八年

○彦直宛

兩御九年始献上御太刀馬代目錄 裏書濟

兩御九八朔献上御太刀馬代目錄 裏書濟

老中御書附〔御内書渡〕

家齊御内書 文化九年・天保八年

家慶御内書 天保九年

堀田備中守家来口上書〔奉書渡〕〔天保九年〕三月二十四日

老中返札 文化九年・天保八年

○寅直宛

老中御書附〔御内書渡〕

安藤对馬守家来口上書〔御内書渡〕一〇月二二日

二通 一七三

二九通 一五三

三六通 一五二

四八通 一四六

一四通 九七

一八通 九六

一通 一七三

五二通 一五三

二二通 九六

二六通 九六

三九通 一六三

六六通 一五三

一通 一五三

一通 一六三

七四通 一五二

二六通 一五三

一通 一五三

三七通 一五三

家定御内書 嘉永六年・安政五年
家茂御内書 万延元年・文久元年

六通 公臺
五通 公臺

老中家来口上書 [奉書渡]

一一通 一六六

老中返札

一一六通 一六六

時 献 上 臨時献上共

老中返札 政直宛

一〇通 八六

老中返札 陳直宛

四六通 九六

老中返札 [梨献上] 陳直宛 享保一〇年八月一〇日

二通 九三

老中返札 篤直宛

三四通 一四七

土屋篤直書狀 [栗献上奉書請] 西尾隱岐守宛 九月

一通 一〇六

土屋篤直書狀 [銀杏献上奉書請] 秋元但馬守宛 一〇月一八日

一通 一六四

土屋篤直書狀 [銀杏献上奉書請] 本多伯耆守宛 一〇月一八日

一通 一六六

老中返札 泰直宛 天明五年・同八年・寛政元年

六通 一四六

老中返札 英直宛 寛政三年・同一年

二三通 一四六

(献上白鳥不揃之節之取計方伺書御附札) 英直宛 寛政八年二月二五日

一通 一七四

老中返札 彦直宛 文化一二年・文政一〇年

三五通 一五三

老中返札 [黑豆献上] 彦直宛 文化一三年一〇月

一通 一五六

(献上笋長短有之付伺書御附札) 彦直宛 文政四年五月二六日

一通 一六六

老中返札 寅直宛

六七通 一五四

老中返札 [臨時献上]

一二通 一五七

(引替献上物付伺書御附札) 天明五年・文化一三年

一三通 一〇九

(在所雁鴨進上之添状案) 堀田相摸守側用人宛 一二月四日

一通 D 九

○

老中返札 [風土記差上] 陳直宛 享保七年二月一七日

一通 九七

即 位

老中返札 [東山天皇] 政直宛 貞享四年五月九日

一通 八六

老中返札 所司代返札共 [御祝言上] 篤直宛

二通 一〇七

老中返札 泰直宛 天明元年三月二七日

一通 一四九

老中返札 彦直宛 文化一四年七月一〇月

四通 一五五

老中返札 寅直宛 弘化四年一〇月二五日

一通 一五〇

將軍宣下・叙任

老中返札 篤直宛

四通 一四六

(三ヶ日月御札之節弟登城之儀付伺書御附札) 篤直宛 (宝曆一〇年) 九月三日

一通 九五

老中返札 泰直宛 安永九年九月二日

一通 一四〇

將軍宣下御札献上御太刀目録 裏書濟 泰直宛 天明七年五月

一通 一六〇

兩御丸御転任御兼任祝献上御太刀目録 裏書濟 彦直宛 文化一三年四月七日

四通 一三〇

老中返札 寅直宛 勅使下向	一通 一五〇	老中返札 英直宛 寛政九年六月	二通 一六〇
老中返札 陳直宛	六通 一〇〇	老中返札 〔着帶〕 篤直宛	二通 一五〇
老中返札 篤直宛	二通 一五〇	老中返札 〔着帶〕 英直宛 寛政八年	二通 一六〇
老中返札 英直宛 寛政六年一月七日	二通 一五〇	老中返札 〔安産〕 英直宛 寛政八年	二通 一六〇
老中返札 寅直宛	七通 一五〇	御誕生等	
御能		〇篤直宛	
老中返札 政直宛	七通 一六〇	老中返札 〔若君御宮参〕	二通 一五〇
老中返札 篤直宛	二通 一五〇	老中返札 〔姫君御七夜〕	二通 一五〇
御名改・御婚儀		老中返札 〔姫君御色直・御宮参〕	五通 一五〇
老中返札 泰直宛 天明八年四月一九日	二通 一五〇	老中返札 〔徳川宮内卿前髪執〕 一二月二二日	一通 一五〇
老中返札 寅直宛 一二月一八日	一通 一五〇	老中返札 〔姫君前髪執〕	三通 一五〇
老中返札 〔本寿院様改称〕 寅直宛 一〇月二三日	一通 一五〇	老中返札 〔姫君深々ぎ〕	四通 一五〇
御移徙		〇泰直宛	
老中御書附 泰直宛 天明六年一月二〇日	一通 一五〇	西御丸若君元服御祝儀献上御太刀馬代目録 裏書済 天明二年四月	二通 一六〇
老中返札 泰直宛 天明七年二月	一通 一五〇	〇英直宛	
老中返札 寅直宛 一〇月二三日・一二月二八日	二通 一五〇	〔若君様御宮参并御色直御祝儀献上差図書〕 戸田采女正 留守居宛 寛政四年九月	二通 一七〇
御台様叙位		〔若君様御七夜御祝儀献上差図書〕 戸田采女正 留守居宛 寛政四年一〇月	一通 一六〇
老中返札 篤直宛	三通 一五〇	老中返札 〔若君御色直〕 寛政五年三月	一通 一五〇
〔御台様叙位御祝儀献上物伺書御附札〕 英直宛 寛政九年三月晦日	一通 一六〇	老中返札 〔若君御宮参〕 寛政六年十一月	二通 一五〇

老中返札 〔若君御髮置〕 寛政五年・同八年	五通 一六七	老中返札 〔敬之助様尾張へ養子〕 英直宛 寛政八年六月一九日	五通 一五二
老中返札 〔姫君誕生〕 寛政八年一〇月	二通 一六〇	老中返札 〔大納言様御元服・御官位〕 大納言様御元服・御官位 寛政八年六月一九日	二通 一四三
〔若君様御袴着御祝儀献上物伺書御附札〕 寛政九年一月二二日	一通 一六六	老中返札 陳直宛 享保一〇年外	八通 八六
老中返札 〔若君御袴着〕 寛政八年・同九年	二通 一六五	老中返札 泰直宛 天明二年四月一五日	二通 一四三
〔若君様御袴着御祝儀贈物伺書御附札〕 〔おらく様・女中〕 寛政九年一月二二日	一通 一六七	〔大納言様御元服御官位相濟御祝儀献上物伺書御附札〕 英直宛 寛政九年三月晦日	一通 一六九
○彦直宛		〔大納言様御元服御祝儀ニ付御台様江献上物伺書御附札〕 英直宛 寛政九年三月晦日	一通 一八〇
老中返札 〔若君御七夜〕 文化一〇年・同二年	三通 一六三	〔大納言様御元服御祝儀ニ付於らくの方江贈物伺書御附札〕 英直宛 寛政九年三月晦日	一通 一八一
老中返札 〔若君御色直〕 文化一一年二月	二通 一六四	大納言様御元服御祝儀ニ付於らくの方江贈物伺書御附札 英直宛 寛政九年三月晦日	一通 一八一
老中返札 〔西丸姫君誕生〕 文化一一年一〇月 四月二四日	二通 一六三	大納言様御元服御祝儀ニ付於らくの方江贈物伺書御附札 英直宛 寛政九年三月晦日	一通 一八一
〔西丸御七夜御産衣献上差図書〕 松平能登守	一通 一六六	大納言様御元服御祝儀ニ付於らくの方江贈物伺書御附札 英直宛 寛政九年三月晦日	一通 一八一
兩御丸嘉千代様御弘祝儀献上御太刀目録 裏書濟 文政二年一〇月二二日	三通 一六二	大納言様御元服御祝儀ニ付於らくの方江贈物伺書御附札 英直宛 寛政九年三月晦日	一通 一八一
老中返札 〔嘉千代御弘〕 文政二年	六通 一六五	老中返札 英直宛 寛政九年五月三日	二通 一六三
〔嘉千代様御色直御祝儀献上差図書〕 文政二年	一通 一七三	大納言様御元服御祝儀ニ付於らくの方江贈物伺書御附札 英直宛 寛政九年三月晦日	一通 一八一
老中返札 〔若君御髮置〕 文政九年一月・一二月	四通 一六六	大納言様御元服御祝儀ニ付於らくの方江贈物伺書御附札 英直宛 寛政九年三月晦日	一通 一八一
老中返札 〔若君御袴着〕 〔文政一二年〕	二通 一六七	大納言様御元服御祝儀ニ付於らくの方江贈物伺書御附札 英直宛 寛政九年三月晦日	一通 一八一
御養君被仰出		大納言様御元服御祝儀ニ付於らくの方江贈物伺書御附札 英直宛 寛政九年三月晦日	一通 一八一
老中返札 泰直宛 天明元年閏五月二二日	一通 一六三	大納言様御元服御祝儀ニ付於らくの方江贈物伺書御附札 英直宛 寛政九年三月晦日	一通 一八一
兩御丸御養君被仰出御祝儀献上御太刀馬代目録 裏書濟 泰直宛 天明五年閏五月	一通 一六六	大納言様御元服御祝儀ニ付於らくの方江贈物伺書御附札 英直宛 寛政九年三月晦日	一通 一八一
老中返札 泰直宛 七月二八日	一通 一六四	大納言様御元服御祝儀ニ付於らくの方江贈物伺書御附札 英直宛 寛政九年三月晦日	一通 一八一

(竹姫様御入興ニ付献上二件書類) 享保一四年七月

一〇三

1. (献上心得方ニ付松平左近將監御書附)

一通

2. (献上差図書) 松平左近將監

一通

3. 献上物書附相渡し節諸大名家来江可申聞覚(献上御道具値段)

一通

4. (使者惣左衛門勤書)

一通

老中返札 (竹姫入興) 陳直宛 九月五日・一二月二七日

三通 一六二

老中返札 (万寿姫結納) 篤直宛 四月二二日

一通 一四〇

老中返札 (種姫結納) 泰直宛 天明三年六月

二通 一四〇

老中返札 (種姫入興) 泰直宛 天明七年・同八年

二通 一五二

老中御書附 (結納献上物) 泰直宛 天明八年四月

一通 一七三

(御婚禮御入興献上物ニ付老中御書附)

一七〇

1. (種姫様江御多葉粉盆献上差図書) 水野出羽守御用人 天明七年六月

一通

2. (淑姫様江料紙硯箱献上スベキ御書附) 寛政一一年七月

一通

3. (淑姫様入興濟公方様御台様江御祝儀献上物ニ付御書附) 寛政一二年一月

一通

4. (岸姫様婚禮相濟公方様御台様江献上物ニ付御書附) 文化一二年一月

一通

5. (浅姫様婚禮相濟公方様御台様江献上物ニ付御書附) 文政二年一月

一通

6. (元姫様婚禮相濟公方様御台様江献上物ニ付御書附) 文政四年二月

一通

7. (利根姫様入興濟献上物之儀ニ付御書附) 卯年七月

一通

老中返札 (淑姫結納済) 英直宛 寛政五年・同九年

三通 一五八

老中返札 (淑姫入興済) 英直宛 寛政一一年

二通 一五〇

老中返札 (峯姫結納済) 寛直宛 文化二年三月

一通 一五〇

老中御書附 (献上差図・心得) 文化一一年・文政二年・同三年

五通 一五二

老中返札 (御引移) 彦直宛 文化一一年・文政一〇年

七通 一六六

老中返札 (婚禮) 彦直宛 文化一二年・文政三年・同二年

三通 一六九

老中返札 (線姫結納・婚禮)

三通 一五三

改元祝

老中返札 篤直宛 宝暦元年一月一〇日

一通 一六三

老中返札 寅直宛 (弘化カ) 一二月二八日

一通 一六〇

天下一統祝

老中返札 寅直宛 六月九日

一通 一五五

快氣祝・具足祝

老中返札 政直宛 八月一四日

一通 一五五

寅直宛

老中返札

五通 一五五

御成祝

老中返札 政直宛 貞享四年外

二通 一五三

老中返札 (宮内卿邸) 篤直宛

二通 一五三

○

老中返札 〔大納言御鷹野〕 陳直宛 巳年四月
一三日

老中返札 〔御氣嫌伺〕 寅直宛

御参詣祝

老中返札 陳直宛

老中返札 篤直宛

老中返札 泰直宛 天明五年・同八年・寛政元年

老中返札 英直宛 寛政三年・同一年

老中返札 彦直宛 文化一二年・文政一〇年

老中返札 寅直宛

日光御鏡御頂戴

老中返札 陳直宛 二月七日

老中返札 寅直宛

老中就任

老中返札 陳直宛 享保一三年・同一五年

老中返札 篤直宛 (宝曆一一年カ) 一〇月

老中返札 寅直宛

拝領御札

將軍宣下

老中返札 寅直宛 正月一日

御鷹之雁

老中返札 政直宛 一二月

老中御書附 〔登城召〕 陳直宛 享保一四年・
同一五年

老中御書附 〔登城召〕 篤直宛 明和五年二
月外

老中御書附 〔登城召〕 泰直宛 天明三年・同
五年・同八年・寛政元年

老中御書附 〔登城召〕 英直宛 寛政二年・
享和二年

老中御書附 〔登城召〕 彦直宛 文化八年・
文政二年

老中御書附 〔登城召〕 寅直宛 嘉永元年二月

老中返札 〔拝領御札〕 寅直宛

老中返札 〔帷子・単物拝領御札〕 政直宛
七月九日

御料理

老中御書附 〔御弓白鳥・登城召〕 陳直宛
享保一七年一月二六日

老中御書附 〔御拳雁・登城召〕 篤直宛
(宝曆一三年カ)

老中御書附 〔御拳白鳥・登城召〕 英直宛
寛政一一年一月二四日

二通 八五

二通 八五

二通 八五

四通 八五

一〇通 八五

一〇通 八五

四通 八五

四通 八五

一通 八五

一通 八五

二通 八五

一通 八五

見 舞

將軍家不例

老中返札 政直宛 寅年八月一〇日

老中返札 篤直宛・宝曆二年十一月二〇日

老中返札 〔松姫不例〕 陳直宛

城内出火

老中返札 篤直宛

老中返札 英直宛 寛政七年・同九年

老中返札 寅直宛

○

老中返札 〔皇居災上〕 寅直宛 五月七日

地 震

老中返札 政直宛 正月八日・十一月三日

老中返札 寅直宛 安政二年一〇月二一日

悔

禁 裏

老中返札 〔仙洞崩御〕 寅直宛 十一月晦日

老中返札 〔准后薨去〕 寅直宛 閏九月四日

將軍家

老中返札 篤直宛 宝曆二年九月・十一月

一一月

老中返札 〔御出生様逝去〕 彦直宛 文化一三年

老中返札 〔公方薨去見舞〕 寅直宛

老中返札 〔円台院宮薨去見舞〕 寅直宛 一〇月二五日

老中・大名死去

老中返札 〔松平日向守〕 政直宛 寅〔貞享三〕年八月五日

老中返札 〔戸田山城守・水戸宰相外〕 陳直宛 享保二三年・同一四年・同一五年

老中返札 〔松平信濃守妻〕 篤直宛

老中返札 〔紀伊中納言〕 泰直宛 寛政元年十一月一日

老中返札 寅直宛

香奠 献上

老中返札 〔御法事済祝〕 陳直宛

老中返札 政直宛

老中返札 陳直宛

老中返札 篤直宛 宝曆八年二月二九日

〔御靈前江献上物同書御附札〕 泰直宛 安永八年・天明六年・同八年

〔浚明院様御靈前江石灯籠可献上老中差図書〕 泰直宛 天明六年二月九日

老中返札 〔浚明院靈前〕 泰直宛 寛政元年二月二二日

老中返札 〔浚明院靈前〕 御書附共 英直宛 寛政四年・同五年

二通 一五五

二通 一五七

一通 一五二

一通 八七四

三通 九五

一通 一四七

一通 一四〇

四通 一五〇

三通 一六〇

二通 一六一

五通 一六三

二通 一四〇

三通 一七一

一通 一七八

一通 一四九

四通 一四九

(常憲院様百回忌御法事ニ付老中御書附写)
文化四年一〇月

九三

1. (御香奠面々献上銀之寛)

一通

2. (献上心得差図書)

一通

(来年四月於日光山御法事并御法事済之節
献上之儀ニ付老中御書附写) 文化二年二月

二通

一七四

老中返札 彦直宛 文化二年・文政二年

二通

一五八

老中返札 (浚明院百回忌) 彦直宛 文政二年
二月

一通

一六三

(御暇中元姫様御逝去ニ付献上物之儀伺書御
附札) 彦直宛 文政四年八月二十四日

一通

一七六

老中返札 寅直宛

一〇通

一五六

(浚明院様御百カ日上野法談所拝礼仕度願書
御附札) 能登守 (泰直) 宛 天明六年二月一
二日

一通

一五二

維新後勤役

挙直公御上京一件 土浦奥用 (慶応四年四月
一七月) 明治元年

半

一冊

一五三

慶応四辰年六月四日京都表々来ル諸事取計
留 中村大助

半

一冊

D 五

(余七曆上京之時宜ニ付返書状) (明治元年)
四月一日

一通

D 五

御用召状

老中御書附 陳直宛

九通

一六〇

老中御書附 篤直宛

三六通

一五三

老中御書附 英直宛

三通

一五八

老中御書附 寛直宛

一通

一六六

老中御書附 彦直宛 文化二年・文政二年

八通

一五九

老中御書附 寅直宛

一通

一六八

老中御書附

二〇通

一五七

老中御書附 (私宅召) 英直宛 寛政九年七月
一七日

一通

一五三

(松平右近將監家来口上書) (私宅召) 留守
居宛 一〇月六日

一通

一六〇

御役儀

奏者番

補任

老中御書附 (役儀御礼登城召) 篤直宛 宝曆
一〇年二月晦日

一通

一五二

(奏者番被仰付ニ付献上伺書御附札)
能登守 (泰直) 宛 天明七年三月一三日

一通

一六〇

老中返札 (登城召) 英直宛 寛政一〇年六月
一八日・一九日・享和元年一〇月一〇日

三通

一六〇

(奏者番被仰付ニ付献上伺書御附札)
但馬守 (英直) 宛 寛政一〇年六月二一日

一通

一五九

奏者番被仰付御礼献上御太刀馬代目錄 裏書
濟 英直宛 寛政一〇年七月

一通 一六四

老中御書附 「登城召」 彦直宛 文化一四年九月九日

一通 一五七

土屋相摸守彦直誓詞控 下書共 文化一四年九月二二日

二通 七七

老中御書附 「御礼登城召」 彦直宛 文化一四年九月一四日

一通 一六二

勤仕中書類

〔土屋篤直自筆廻状案〕 〔廻状清書〕
用人宛 (宝曆二年四月) 三日

一通 九六

〔土屋篤直自筆書附〕 〔西尾隱岐守加番祝儀遺物〕 用人宛 (宝曆二年四月) 二三日

一通 一七五

松平右近將監殿御口上ニ御頼ニ付相達ハ覚
〔京都出立使者一件〕 (宝曆二年)

一通 一七五

隱居奉願ハ覚 松平主殿頭 宝曆二年九月

一通 五三

老中御書附写 奏者番・寺社奉行・大目付宛
(宝曆一三年) 二月二日

一通 D 四

〔明六日御能之節登城之儀御書附并御座席奉行御張紙写〕 (宝曆) 二月五日

一通 D 六

*〔松平越前守御書附写〕 〔御目付御勝手掛卜混ハ儀云々〕 若年寄宛 天明八年正月二〇日

一通 D 三

土井大炊頭返書状 〔城中勤方調物謝礼〕 土屋能登守宛

一通 D 六

*〔在所出水ノ為滯府ニ付勤方之儀伺書御附札〕 能登守 (泰直) 宛 天明六年八月一五日

一通 一七五

*〔奏者番役儀見習ノ為滯府仕度願書御附札〕 能登守宛 天明七年六月二二日

一通 一七六

〔松平越中守城中心対并書面文通簡略之儀ニ付被仰聞ハ御書取写〕 奏者番・寺社奉行宛
寛政元年一月八日

一通 六三

*〔養母忌明ニ付仕之儀伺書御附札〕 主税宛
寛政二年十一月一四日

一通 一七五

〔廻状并余事省略之儀ニ付一統申談書〕
寛政三年二月

横美平

一冊 六〇

*〔奏者番役儀見習ノ為滯府仕度願書御附札〕 但馬守 (英直) 宛 寛政一〇年七月九日

一通 一七五

〔急助詰合之儀ニ付一統申談書〕 牧野日向守・松平備前守・増山河内守・土屋但馬守 (英直)

一通 九一

稲葉丹後守書状 〔絵図面檢討云々〕 但馬守 (英直) 宛 七月一六日

一通 D 三

竜王院慧空書状 〔御書屋献上一件〕 相摸守 (彦直) 宛 文化一〇年四月一八日

一通 一七六

*〔奏者番役儀見習ノ為滯府仕度願書〕 彦直
文化一四年九月一六日

一通 一九三

〔大納言様今日ハ可奉称上様ト旨同席中廻状出之儀御申達之写〕 岩本内膳正

一通 D 三

二月十一日拙者当番之節勤方覚書
〔諸役人トノ対面覚〕

一通 D 四

亥八月四日当番之節御鷹之雲雀被下ハ面々名前書附

一通 D 六

〔公家衆御馳走御能ニ付御白書院御座席奉行勤方留書〕 戊寅 (宝曆八) 年三月二五日・戌年

一通 D 三

亥七月四日大井勢州被相渡ハ名改ハ書附写

一通 D 三

奥様御附之面々名前書附

一通 D 三

御鷹野

御鷹野御成之節居殘順書附 (篤直代) 亥年七月一三日

一通 一三三

御鷹野御成之節居殘順書附 (寅直代) 亥年三月・八月

二通 D 七

諸大名御札

(參勤御札之節勤書覽) (宝曆六年四月一三日)

一通 D 二〇

(喜連川右兵衛督披露人披所席次ニ付奏者番廻状写) 絵図面共 土屋能登守外 寛政二年

一通 九三

(松平将監初而御目見之節同姓主殿頭名代御札之儀ニ付伺書) 松平主殿頭 (八月二一日)

一通 D 九

(參勤并御暇被下い面々名前書附)

一通 D 六

未四月廿五日当番之節縁組被仰付い面々名前書附

一通 D 四

未六月廿二日御暇之衆於西丸拜領物名前書附

一通 D 六

御葬儀・御法事

老中御書附写 「天英院様御出棺時刻」 大目付宛 寛保元年三月

一通 一〇六

(乘台院様御法事拜礼之者覽) (安永九年)

一通 一三三

(御法事済後諸大名參詣差図ニ付御書附写) 文化四年

一通 一三三

来年於日光山御法会ニ付東叡山御宮江參詣之面々日限之覽 文化一二年一月

一通 一三五

権限様二百五拾回御忌御神忌一件 土屋采女正 元治元年 慶応元年

一冊 D 九

御簾中様御葬送御法事御用小屋場上野本坊内定式役所相用い儀申上い書附 牧野志摩守

一通 一〇七

(御法事之節勤方伺書御附札) 伺書欠

二通 D 九

(上野御本坊ニ而御門主御逢之節絵図面)

一鋪 D 八

(御法事進達心覽)

一通 D 八

御法事進達心覽 「引継書・申送事項」

一通 一三四

(上野東叡山御廟地ニ而御簾中様御葬送御法事御用御絵図面)

一〇四

1. 御廟地絵図

34×48 一鋪

2. 龜前堂絵図

33×21 一鋪

3. 御廟穴絵図

29×45 一鋪

4. 御通棺御道筋絵図

28×42 一鋪

5. 御本坊御構小普請方定式役所外構竹矢来絵図 牧志摩守

32×21 一鋪

6. 御裏方御本殿絵図

29×39 一鋪

増上寺上使

(増上寺上使之儀ニ付同役松平和泉守口上書) 土屋能登守宛 七月一四日

一通 D 七

(御役中心覽) (土屋篤直) (宝曆)

一綴 一四一

老中御書附写 「土屋等御用被仰付」 奏者番・詰衆宛 文化一三年一月一七日

一通 一五〇

老中御書附写 「来年還御以後ノ件」 上野執当惠恩院宛 (末年一二月八日)

一通 D 五

日光御名代

先年我等儀日光御名代相勤い節之帰府当日之留書被 後欠 宝曆一三年四月一三日

17×10 一帖 一三七

〔松平周防守家来口上書〕 守居宛（明和六年四月五日）	〔私宅召〕 土屋留	一通 一六三	勤方例書	服忌令（寛政九年享カ）	横美半	一冊 六五
老中御書附 〔御暇登城召〕 篤直宛（明和六年四月七日）	篤直宛	一通 一六五	近服忌令	服忌令 上・下	横美半	一冊 六六
〔日光御道中御立場書附〕（明和六年四月）	（明和六年四月）	一通 一六六			20×13	二冊 六三
〔日光御名代被仰付ニ付土屋家伺書控〕 （明和六年四月）	（明和六年四月）	一通 一六七	御本丸 耆・武・参 〔宝永・明和 殿中規式〕		横美半	三冊 四〇 一四三
〔日光御道中宿場支配覚〕（明和六年四月）	篤直 明和六年四月	一帖 一三三	御本丸勤方 〔殿中規式〕		横美半	一冊 四七
老中御書附 〔御名代被仰付〕 但馬守（英直） 寛政四年四月二日	但馬守（英直）	一通 九六	御本丸日記 乾 〔某日記拔書 寛政一一年—文化五年〕		横半半	一冊 四三
老中御書附 〔御名代被仰付・御暇登城召〕 但馬守宛 寛政四年・同八年	但馬守宛 寛政四年・同八年	三通 一四四	御本丸日記 坤 〔文化六年—文政一〇年〕		横半半	一冊 四四
〔日光御名代勤方先格トノ振合之儀伺書御附札〕 但馬守宛 寛政四年四月三日	寛政四年四月三日	二通 一四〇	〔奏者番勤方心得〕 〔元禄—明和〕		横美半	一冊 四四
老中御書附 〔婦府御目見登城召〕 英直宛 寛政四年四月三日	英直宛	一通 一七五	当番方心得・御番之事・助番之事・当番構無之部・当番割之部・病氣之節取扱之部・出仕心得并御機嫌伺・出仕断之部・新役心得・火事之部・雷地震之節心得之部・差扣之部・雑之部			一冊 四五
先年我等儀日光御名代相勤ハ節上野御本場ニ而拜謁之次第書拔	節上野御本場	一帖 一三〇	西丸之部			一冊 四六
老中御書附 〔御暇登城召〕 寅直宛 嘉永三年四月三日	寅直宛 嘉永三年四月三日	一通 一五四	御老中所司代御城代使者之部・家督継日新知御礼以使者申上ハ部・婚姻御礼以使者申上ハ部・隱居之御礼以使者申上ハ部・遺物以使者差上ハ部・以使者献上物之部・一紙目錄之部・半切之部			一冊 四七
老中御書附 〔婦府登城召〕 寅直宛 嘉永三年四月二三日	寅直宛 嘉永三年四月二三日	一通 一五五	布衣以上御目見以上以下共大概順		9×21	一冊 四六
〔御名代留拔書〕		一帖 一四〇				
〔日光御道中御覽可被成所之覚〕		一通 D 七一				
○						
老中御書附 〔御社参御留守・登城召〕 篤直宛 安永五年四月	篤直宛	一通 一六三	御礼式		12×17	

青	〔尾張殿・紀伊殿・水戸殿・作州津山松平・越前松平・加賀松平〕(分家略)	一冊	五七
赤	〔長州松平・肥前松平・因州松平・備前松平・伊勢藤堂・阿波松平〕	一冊	五九
黄	〔薩州松平・奥州松平・細川・筑前松平・芸州松平〕	一冊	五九
白	〔土佐松平・久留米有馬・佐竹・上杉・立花・丹羽・本松・南部・宗・喜連川〕	一冊	六〇
黒	〔会津松平・井伊・讃州松平・伊予松平・桑名松平〕	一冊	六〇
(登城退出之節之会釈并廻状等文格之儀ニ付奏者番伺書并申合書) 二月朔日			
(奏者番当番之節殿中書写)			
(奏者番規式例書) 〔御太刀置所量目・披露仕様之覚・披露下席之覚等〕			
16×8			
(土佐殿々持参寛延四年七月七日勤方覚書)		一通 D 二四	
(勤方覚書) 宝曆一〇年八月一五日後		三通 D 二五	
(宝曆十一年七月七日勤方覚書) (宝曆二十一年一月)		一通 D 二六	
(勤方例書雛形)		一通 D 二四	
明和九壬辰年九月十五日從秋元撰津守到来申合之覚 〔宝曆以降詰方申合〕 明和九年	美	一冊 D 五二	
(勤役中覚)		一括 D 二五	
奏勤抄 地 〔先例 宝曆一・天明〕	横半半	一冊 五九	
師範日記・留守居刀番留 〔小笠原佐渡守手留松平周防守々借写〕 寛政七年・同八年	横美半	一冊 四二	
非番緒端録 〔内藤紀伊守手留 弘化三年一二月一日一二月二九日〕			
横美半			
老中御書附写 〔惣出仕之儀〕 大目付宛 六月一三日			
先年太田撰津守殿御役中日光御名代被相勤の節勤留書拔 宝曆一三年四月			
日光御名代之留 〔太田備中守留書 文化二二年四月二日一四月一五日〕 (文政八年写カ)			
14×9			
(御三家登城之節奏者番勤方例書) 〔二月一七日稻葉丹後守手留写〕			
尾張殿御暇之節御次第書写 〔越前殿被為見外ニ付内々写置書付〕			
〔喜連川右兵衛督家督隠居之節献上物披露之儀例書〕			
(参勤之御礼相勤の節之例書写)			
初御目見献上物例書 〔松平主殿頭差出〕 (八月二日)			
(元服之節其他勤方覚) 〔宝曆以降諸大名御礼規式〕			
横美半			
(元服并家督之御礼次第覚) 〔元文一宝曆〕			
横美半			
日光御門跡御嚮応之次第			
18×10			
(宮門跡 諸寺院 寺格礼献留)			
横美半			
東叡山 宮御門跡 増上寺 高野山之部			
一冊 六六			

イ之部カ之部迄		一冊	空
マ之部テ之部迄〔実ヨ〕		一冊	空〇
ア之部ス之部迄		一冊	空三
(増上寺方丈御齋応勤方算書写)〔宝暦二年一〇月一六日・同一三年六月二四日 当番土井大炊頭手留〕 亥年六月二五日		一通	D 兵
(七月十五日増上寺盆料上使相勤例書) 七月一四日・一五日		二通	D 兵
叡山 御成巻懷私鑑 地・人〔竜野安董(脇坂淡路守カ)手留 寛政九年〕		二冊	空〇 空三
寺院之留〔鳥井丹波守忠巻手留 各宗寺院・寺格・年礼・献上物留〕		一冊	空三
19×13		一冊	空三
横美半		一冊	空三
若君様 御宮参 御次第書〔九月二七日 脇坂中務安董手留〕		一冊	空二
横美半		一冊	空二
若君様 御宮参 御用取扱 達書留〔寛政六年 脇坂安董手留〕		一冊	空五
横美半		一冊	空五
御遠忌御法事之節御統見出〔武陽隠士米翁藏梓〕 宝暦一三年		板一枚	空三
44×54		一冊	空五
御統帳〔安永以降カ〕		半	
一 禁裏 後桃園院 後花園院		一冊	空五
二 伏見 京極 有栖川 閑院 広幡		一冊	空〇 空三
三 五摂家		一冊	空一
正親町 櫛司 梅溪 樋口		一冊	空一
御本丸席図〔享保一寛政〕		31×32	二帖 空〇 空一
御本丸古格席図〔宝暦一二年迄〕		32×16	二帖 空〇 空一
御本丸席図〔享保一寛政〕		31×32	二帖 空〇 空一
四 日光 両本願寺		一冊	空三
五 公義		一冊	空三
六 御家 同御家門		一冊	空四
七 紀州		一冊	空五
八 水戸		一冊	空五
九 加賀 薩摩 安芸		一冊	空五
十 毛利 有馬 上杉		一冊	空六
十一 榊原 丹羽 本庄		一冊	空六
十二 内藤 伊東 織田		一冊	空〇
十三 越前		一冊	空二
(奏者番衆名前書拔)〔寛延一明和頃〕		10×6	仮一帖 空三
御奏者番系図〔永井直勝一朽木綱張〕		11×19	一冊 空六
正徳元年 朝鮮来聘記〔嘉永四年亥五月於大坂御破損奉行永井廉八郎指上〕		美	一〇冊 空三
繪 図			
両丸謁席 全〔享保一安永〕		横美半	一冊 空六
両御丸席図〔阿部備中守・松平沓岐守ヨリ借用〕〔文化年間〕		22×15	一冊 空六
御本丸古格席図〔宝暦一二年迄〕		32×16	二帖 空〇 空一
御本丸席図〔享保一寛政〕		31×32	二帖 空〇 空一

年始席図 天 一帖 五三

御礼日席図 地 一帖 五三

席図 人 一帖 五三

(御本丸席図) [各間別] 31×22 一帖 五五

御本丸席図控 [文化年間迄] 横半 一冊 五七

秘西丸惣絵図 [牧野備前守へ借写] 土屋采女正 110×108 一鋪 一〇九

西丸席図 [享保—宝暦] 横美半 一冊 五八

若君様御宮参一件絵図 一〇二

1. 紅葉山御宮絵図 36×45 一鋪

2. 紅葉山御宮御拜殿御屏風仕切之絵図 36×43 一鋪

3. 紅葉山御社参之節勤番并御出向御供並所立所絵図 36×45 一鋪

4. 山王御宮絵図 36×45 一鋪

5. 御社参之節山王御宮絵図 36×45 一鋪

6. 山王先勤番御出向御供立場開場并御幕張絵図 36×45 一鋪

7. 御宮向御幕張絵図 36×45 一鋪

8. 山王御宮廻御供建場 36×43 一鋪

9. 樹下内膳住居向絵図 36×45 一鋪

10. 山王御成先観理院御部屋割絵図 36×43 一鋪

11. 観理院住居向御部屋割絵図 36×45 一鋪

12. 被下物席絵図 36×43 一鋪

寺社奉行

補 任

両御丸寺社奉行御役儀御礼献上御太刀馬代目録 裏書済 篤直宛 明和六年一〇月 二通 五二

老中御書附 [登城召] 彦直宛 文政一一年一〇月晦日 一通 五八

土屋相摸守彦直誓詞控 下書共 文政一一年一月三日 二通 五八

土屋相摸守彦直誓詞 [熊野牛王誓紙] 文政一一年一二月三日 二通 五九

老中御書附 [御礼登城召] 彦直宛 文政一一年一二月一四日 一通 五九

土屋采女正寅直誓詞控 [見習] 弘化五年一月二五日 一通 六〇

老中御書附 [登城召] 寅直宛 嘉永元年一〇月七日 一通 五九

老中御書附 [御礼登城召] 寅直宛 嘉永元年一〇月晦日 一通 五九

評定所関係書類

祠部職掌類聚 土岐美濃守定経葵御紋一件 [寛保集成卷二十二道中之部] 美 一冊 五三

御触書 天明集成 [普請作事并水道等之部] 美 二冊 五三

御触書 天保集成 [儉約之部] 美 一冊 五三

大赦律引書 [享保以降 久世出雲守手留写] 土屋采女正 横美半 一冊 五三

V V V

棠蔭秘鑑	〔慶應二年 土屋采女正因〕頼永井肥前守引請寫	天保一二年序	横美半	一冊	三四七
御仕置仕方図	〔岡崎衆借写 高崎小検使矢嶋七平〕		横美半	一冊	六〇四
松平紀伊守書狀	〔御定書拝借一件〕 土屋能登守宛	四月六日		一通 D 三	
〔評定所取極書拔〕	〔宝曆—天保〕		17×13	一冊	五九
〔寛政年間公事方評議留〕			横半半	仮一冊	一九二
〔天保年間公事方評議日記拔書〕			横半半	仮一冊	一九三
○					
〔松平越中守殿御目付江被仰渡御書附写〕				一通	二〇〇
〔御目付役御勝手混々一件〕	天明九年一月二日			一通	二〇六
人馬先触覚	〔西協剛之助等道中〕	巳年五月			
寺社帳			横美半	一冊	六六
御府内寺社帳	坤 土屋采女正		横美半	一冊	六七
〔大社大寺号書附〕				一通 D 五	
〔出火之節留書写〕	〔寛政年間 協坂安董手留〕		横半半小	一冊	六三
上野				一冊	六四
伝通院				一冊	六五
増上寺				一冊	六六
山王氷川				一冊	六七
御立退				一冊	六八

諸宗衣鉢階級次第書	乾・坤	〔享和二年脇坂安董手留〕	土屋采女正	横美半	三冊	六九
諸宗僧侶官位階	〔青山大膳亮手留〕	土屋采女正		横半半	一冊	七〇
大坂城代						
転任						
老中返札	〔御札献上〕	相摸守〔政直〕宛			一通	七一
貞享元年二月一日					一通	七二
土屋采女正寅直誓詞	嘉永三年九月三日				一通	七三
土屋采女正誓詞	〔神文のみ〕				五通	七四
老中御書附	〔四品共 御札登城召〕	寅直宛			一通	七五
嘉永三年九月一日						
勤役中書類						
○政直						
老中返札	〔到着御札〕	政直宛	〔貞享元年〕		一通	七六
十一月一日					一冊	七七
政直公御城代御登坂御行列	貞享元年十一月			横長半	一冊	七八
無銘	〔御門通行鑑札・城内諸蔵鍵引継外諸達留〕			美大	一冊	七九
土屋相摸守	貞享元年・同二年				二冊	八〇
裏判留	土屋相摸守政直	貞享元年・同二年		美大	一冊	八一
御奉書并御請言上留	〔貞享二年一月—九月〕			美大	一冊	八二
仮手形留	〔諸普請・造作・修繕等仕払仮手形 貞享二年五月—同九月〕			美大	一冊	八三

遠廻御巡見所寄書〔安治川―關峠〕

9×20

一冊 五〇

○寅 直

勤方例書

老中返札〔浜松止宿御札〕 寅直宛 二月二日

二通 一五九

老中返札〔関宿止宿伺〕 寅直宛

二通 一五〇

老中返札〔大坂到着御札〕 寅直宛 二月二七日

二通 一五七

寅直公大坂御城代御先登行列 嘉永三年二月

一冊 五九

嘉永四年辛亥正月十九日御発駕御上坂御行列

一冊 五〇

御参府御行列帳

一冊 五八

老中返札〔上意御請〕 寅直宛 安政四年二月二日

一通 一五三

豊前守様御直ニ御問合拾三ヶ条写 安政六年二月一九日

一通 D 七

〔大坂城代跡役松平豊前守殿御役向御尋合ニ付御書取下書〕 安政六年二月

半 仮一冊 D 三

〔大坂紙方金銀受払算用一紙〕〔九月朔日―二月晦日〕川口清兵衛・西村精全・河野善左衛門 佐々木權兵衛・安達十郎右衛門・朝枝久吾宛 文久元年

一通 六五

〔大坂勘定所自足御遣方算用一紙〕〔正月朔日―四月晦日〕扶持方・自身勤方・万小松等 宮川平作・雜賀辰之助・三戸良右衛門・川岡精次兵衛 外 佐々木宛宛 文久二年

繼一通 一三三

老中返札〔参府延期願〕 寅直宛 二月二九日

一通 一五五

〔遠馬伺書下案〕 安政

一通 一〇九

大坂 表裏七軒・広小路・寺山 御屋鋪之図〔見分順路〕〔安政方〕

41×20 一鋪 一〇九

徳川家綱黒印状写 青山因幡守・板倉内膳正・渡辺丹後守宛 寛文二年八月二二日

一通 七七

老中御条目写 青山因幡守・板倉内膳正・渡辺丹後守・松平隼人正・彦坂刑部少輔宛 寛文二年八月二二日

一通 七〇

徳川綱吉黒印状写 太田摂津守・米津出羽守・保科弾正忠宛 天和元年一月九日

一通 六八

老中御条目写 太田摂津守・米津出羽守・保科弾正忠・設楽肥前守・藤堂主馬宛 天和元年一月九日

一通 七三

徳川綱吉黒印状写 水野右衛門太夫・保科弾正忠・松平縫殿頭宛 貞享元年四月二六日

一通 六九

老中御条目写 水野右衛門太夫・保科弾正忠・松平縫殿頭・設楽肥前守・藤堂主馬宛 貞享元年四月二六日

一通 七三

〔御黒印御条目写目録寛〕 田三左衛門・林權左衛門 土屋相摸守〔政直〕宛 貞享元年二月二九日

一通 七六

御城代譜〔土井大炊頭迄〕

横美半

一冊 四三

前録〔大坂役人録 天和・天保八年〕

横美半

一冊 四〇

御先用日記〔阿部播磨守正苗側役日記 文化元年三月一五―五月一日〕

横半半

一冊 四〇

先用着坂後私記〔天久保安芸守忠貞側役日記 文化七年六月二七日―一〇月一七日〕

横半半

一冊 四三

御先用聞書〔先用着坂後私記書拔〕

横半半

一冊 四四

御先用日記〔松平右京亮輝延側役日記 文化二年六月八日—九月一七日〕

御先用問合諸事書留〔松平周防守様伝達留之内 文政五年 同八年〕

御先用日記〔松平伊豆守信順側役日記 天保二年七月八日—八月一五日〕

日記書拔〔土井大炊頭利位日記カ 天保五年八月二六日—十二月三〇日〕

日記書拔〔天保六年一月一日—五月二日〕

日記書拔〔天保六年六月—十二月三〇日〕

日記書拔〔天保七年一月一日—七月二九日〕

御発駕後日記書拔〔三月一日—五月六日〕

先用一件追加

雜書 一—四〔城代勤式先例〕

大坂要略〔元禄—文化三年 書式・礼式・勤式〕

御番所勤方大格〔松平周防守番頭書類カ 御番所勤方大格・諸番所番士并足輕共勤方・番頭勤方心得・松平右京大夫様御番頭手留・土岐丹後守様在坂中置帳・大小御交代記・御老中御登坂一件・〔出火心得〕・御張紙留外〕

年中行司〔正月一日—二月二日〕

大坂御城代公用人諸事留 坤〔松平周防守康福着任前後 宝曆一〇年八月一五日—一二月〕

横半半 一冊 四三

横半半 一冊 四六

横半半 一冊 四三

横半半 一冊 四五

横半半 一冊 四六

横半半 一冊 四七

横半半 一冊 四八

横半半 一冊 四九

横半半 一冊 五〇

横半半 四冊 四六
一冊 四三

横半半 一冊 四九

横半半 一冊 四六

横半半 一冊 四三

横半半 一冊 四六

公用方聞合書〔久世出雲守公用人へ問合覺〕

諸書拔〔明和—文化 諸家記録拔書〕

御城代中物御頂戴 一件〔阿部正殷御代替誓詞・堀田正順判物頂戴 天明六年—同八年〕

使者口上書〔高崎・淀外三藩 寛政一一年—文化一〇年〕

小川氏手留〔阿部正苗・松平乗保勤役中書類〕

浜田乾坤書拔〔松平康任・太田資好勤役中書類〕

御着坂并御城入之次第〔松平左近將監忠邦着任時記録〕

江戸出立道中着坂迄之覚書〔松平伯耆守宗発・同伊豆守信順着坂記録 文政一〇年四月・天保二年九月〕

掛川侯従大坂御参府所司代被蒙仰い一件〔太田撰津守資好公用人記録 天保二年五月二日—五月二五日〕

掛川侯御用召ニテ御参府大坂引弘迄之一件〔太田氏公用人記録 附御旅中日記 天保二年五月三日—同七月八日〕

御番頭御交代一件〔天保三年七月—九月〕

御用召ニテ御参府大坂引弘之一件書拔〔松平信順家中岡本十右衛門教示 引繼目錄アリ〕

大坂御城代被仰付江戸出立道中着坂迄之覚書〔土井大炊頭利位公用人記録 天保五年八月七日—八月二二日〕

横美半 一冊 四四

横美半 一冊 四三

横美半 一冊 四三

横美半 一冊 四四

横美半 一冊 四三

横美半 一冊 四九

横美半 一冊 四六

横美半 一冊 四三

横美半 一冊 四七

横美半 二冊 四四
一冊 四六

横美半 一冊 四三

横美半 一冊 四七

横美半 一冊 四六

出火見出

御城近辺出火取計書拔〔市中火事記録共〕

山村与介々借写追手大御門雷火其外御城近辺出火之節御定番御番頭御加番御留写〔天明三年一寛政四年〕

出火取計書拔〔松平和泉守公用人記録外寛政一、天保四年〕

就出火書留〔戸田因幡守・松平能登守勤役中書類〕

外国事情

此度渡来之蒸氣船主後より風聞之義ニ付かひたん承申し横文字和解写〔かひたん・どんくるぎゆるしゆす 嘉永七年七月晦日〕

安政元年七月阿蘭陀船ヨリ差出の風説書和解写 別段風説書共〔老中 土屋采女正宛 八月二二日付〕

安政二年七月和蘭かひたんより差出の別段風説書 写〔老中 土屋采女正宛 一一月九日付〕

安政三年七月別段風説書〔安政三年丙辰十月十三日出之 宿次同廿日到来之節相渡り写〕

安政五年正月阿蘭陀ヨリ差出の別段風説書 写〔二月九日老中 土屋采女正宛〕

綏夷図巻跋 河田興 嘉永七年八月

土屋寅直書狀下書〔京辺情勢〕 徳川斎昭宛 午年〔安政五年〕 三月

異国船渡来一件・海防

〔箱館用達高田金兵衛雇船乗組之もの共於沖合異国船と乗違ひ一件吟味掛り場之儀評儀留写〕 卯年十一月

異国船度々渡来ニ付嘉永二四年同六丑年兩度之御尋書并存寄書 嘉永二年・同六年

〔近年北亞墨利加州ノ者鯨獵トシテ日本近海ヲ徘徊セル儀ニ付其時節并船路大略絵図〕 上野常足識 嘉永三年九月

魯西亞書牘和解 写 レイクスカンセリル（官名ネツセルロオデ）親筆 嘉永五年七月二二日

異国船渡来一件〔江戸留守居書狀外〕（嘉永六年）

浦賀表異国船渡来ニ付大目付江御渡御書付写〔万石以上以下御門番宛・火消一件〕 嘉永六年

嘉永六癸丑年七月六日附之宿次同月十三日朝到来老衆より之書翰并合衆図書翰和解写〔38と同一〕

合衆国伯理璽天徳書翰和解 嘉永六年

合衆国書翰和解〔38と同一〕 嘉永六年

〔琉球江北亞米利幹船渡来ニ付松平薩摩守御届書写〕 側用人奥四郎 長崎会所調役福田猶之進宛 嘉永六年七月

魯西亞書牘和解 写 嘉永六年・同七年

俄羅斯書翰和解 写 嘉永六年八月九日

亞墨利加条約書 嘉永七年五月二二日

〔嘉永七年嘆人応接書并嘆吉利船將差出書エケレス文蘭語ニ翻訳文意和解并約定書写〕

(老中覚書写) 蘭文訳共 嘉永七年九月

魯西亜使節書翰和解 写 嘉永七年九月

嘆將より之約条添書エケレス文蘭語ニ翻訳和解 写 安政元年八月

老中返札 (露船警衛方上意ニ達セシ件御礼) (安政三年カ) 二月一五日

里米利加使節応接之趣并使節差出書付和解写 老中 土屋采女正外宛 安政四年二月一五日

里米利加使節登城之節御目見之次第 安政四年魯西亜条約追加写 安政四年九月七日

安政四年阿蘭陀条約并魯西亜阿蘭陀貿易仮条約写 老中 土屋采女正外宛 安政四年二月一三日

○

読海防私策 写 大槻崇 羽倉 (外記カ) 宛 嘉永二年一〇月

(海防策上書) (嘉永六年)

伝奏衆御尋之趣答書 (林大学頭・津田半三郎御内々被成御差出御書取写) 安政五年正月

辺策私弁 全 中井積善著 享和三年入弘化二年五月 泰一貞写

蝦夷陣屋下海岸分見之図 天保二年・同三年

勢州大宮司建白 午年

海防人数ニ付御武備之儀申上御書付 北条雄之助 (房総海岸警備) 寅年一〇月

(諸国へ之返答書草案) 小山散人 丑年七月

大坂湾開港・警備一件

大坂表近海異国船渡来之節防禦筋之儀ニ付相伺御書付 附大坂町奉行差出進達扣 土屋采女正・石谷因幡守・佐々木信濃守 嘉永七年

岩の若葉 (川口防備意見書) 西川貞元・伊藤謙光

(武器製造ニ付大坂御鉄砲奉行伺書写) (唐銅御砲鑄立方・鑄物師善兵衛御鑄立方御入用積・同唐銅御鑄立直段様) 吉際繁三郎・安食善之丞 嘉永七年二月

(武器製造ニ付大坂御鉄砲奉行伺書写) 堀平太夫・吉際繁三郎 嘉永七年九月

(此度当地近海江魯西亜船渡来ニ付警備向之儀存寄書控) 土屋采女正 (安政元年カ)

(安治川沖江渡来魯西亜船退帆取計方ニ付老中御書附写) (下田沖江可為龍越) 土屋采女正宛 安政元年一〇月四日

(開港并大坂開港ニ付存寄書控) 土屋采女正 (安政元年カ)

(大坂表近海御警衛向ニ付言上書取) (安政二年カ)

大坂両川口其外御警衛向取調書 大坂町奉行 佐々木顯発 安政二年正月二五日

町奉行差出御警衛向取調書及答御書取写 佐々木顯発 安政二年二月三日

(大坂町奉行差出両川口警衛目論見書写) 佐々木顯発 (安政二年二月三日)

一通 一五五

横半半 仮一冊 七元

一冊 二八三

一冊 七三

一冊 七三

一冊 D 宛

一通 二〇五

一通 七三

一冊 D 吾

一冊 七七

一冊 七六

仮一冊 七八

（異船紀淡兩海峡ヲ内海ニ向ハ節之扱方ニ付大坂町奉行見込書添及答ハ書取写） 佐々木顯発 安政二年二月二三日	半	一冊	三三三	土屋寅直書狀控 久須美佐渡守宛（安政五年）二月二六日	一通	一七〇
木津川安治川海口御台場模様替之儀ニ付同書類写 附御台場絵図 佐々木信濃守・久須美佐渡守 安政三年一〇月二八日	美 33x33	一冊 三鋪	三二	戸田伊豆守氏榮書狀 土屋采女正宛（安政五年）二月二八日	一通	一七三
町奉行差出ハ大坂兩川口其外御警衛向取調答書 佐々木信濃守（安政二年一月）	半	一冊	七五	土屋采女正書狀 自筆控（津田半三郎等卜文通一件） 戸田氏榮宛（安政五年）二月二八日	一通	一七九
大坂近海防禦之儀場所見置之取調ハ趣申上ハ書付写 副共 川路聖謨 安政二年	美・半	二冊	七九 七〇	（林大学頭津田半三郎兩名御城拜見差支無之旨堀田正睦御書取） 土屋采女正宛 安政五年二月	一通	一八〇
大坂兩川口其外御台場目論見案（安政二年カ）	半	一冊	二四	（大坂開港意見書返事之儀林津田兩名江被尋度旨堀田正睦御書取） 土屋采女正宛 安政五年二月	一通	一八二
大坂兩川口其外目論見書 [344. 朱書之通再提出]	半	一冊	二四	大坂灣・川口絵図		
異国船渡來之節堺浦井泉州筋海岸警衛向之儀ニ付奉伺ハ書付	半	一冊	七三	摂州海岸絵図 [嘉永七寅四月五日御代官増田作右衛門差出絵図写]（嘉永七年）	一鋪	二〇五
戸田氏榮・久須美祐篤書狀写 [出張人数引揚一件] 土屋采女正宛（安政四年）二月一八日		一通	七二	（増田作右衛門差出ハ 木津川 兩川口絵図）（嘉永七年）	二鋪	二〇七
大坂定番本多肥後守書狀 [御下案文意見] 土屋采女正宛（安政五年）二月二三日		一通	七四	内密奉言上候警衛手配并海底浅深川幅測量之図写	一鋪	二〇五
（大坂最寄海岸警衛向其外參府見合等ニ付久須美佐渡守御請書并老中連署書狀写）	半	一綴	九〇	目印山 御家御人数小屋 南北諸家陣所絵図（安政二年カ）	一鋪	二〇七
大坂開港ニ付反对意見書取下案（安政五年二月カ）		二通	七四	1. 御家御人数小屋絵図	一鋪	二〇七
亞墨利加官吏申立之内大坂表開港之儀ニ付愚見之趣申上ハ書付 写 大坂町奉行久須美佐渡守 安政五年二月		一通	七二	2. 御家御人数小屋絵図	一鋪	二〇七
戸田伊豆守氏榮書狀 [御書取御下案ハ之意見] 土屋采女正宛 安政五年二月二二日		一通	七三	3. 南北諸家陣所絵図	一鋪	二〇七
土屋寅直書狀下書 [方向大變革之儀]（安政五年）二月二六日		一通	七六	4. 南北諸家陣所絵図	一鋪	二〇七
				5. 南北諸家陣所絵図	一鋪	二〇七
				6. 南北諸家陣所絵図	一鋪	二〇七

堺井和泉浦最寄處繪圖〔堺奉行差出外進達扣
繪圖寫〕

62×83 一鋪 二〇六

兩川口御台場地取之図

55×80 一鋪 二四六

兩川口其外御台場地取図 卯年（安政二年カ）

55×78 一鋪 二四七

目印山御台場之図

28×40 一鋪 二四六

安治川口御台場地割之図

76×150 一鋪 二四九

安治川口南 新田地先御台場地割繪圖
木津川口平尾

46×120 一鋪 二五〇

木津川口南ノ方波戸後御台場地割之図

44×88 一鋪 二五一

木津川口波戸後御台場地割繪圖（安政二年）

60×113 一鋪 二五三

伝法川口北西嶋尻無川口福崎御台場地割之図

45×74 一鋪 二五三

伝法川口常吉尻無川口福崎新田地先御台場
地割繪圖

75×75 一鋪 二五五

角陵堤之図

18×22
16×28 一鋪 二五五

砲台之図

28×31 一鋪 二五八

砲台之図

22×28 一鋪 二五八

砲台之図

28×30 一鋪 二五八

大坂城代以後公用人記録

弘化年間

（弘化三年閏五月二十七日相州浦賀沖ニ来ル
異国船一件留）〔弘化三年五月一六月〕

半 仮一冊 二〇七

御目付衆諸御用掛分（弘化五年二月三〇日寫）

一通 一九三

嘉永六年

（地震ノ為小田原城内侍屋敷其外領分町々破損
潰家出来一件ニ付大久保加賀守御届書寫）御
用番阿部伊勢守宛 嘉永六年二月三日

一通 二〇三

（関東筋海岸見分廻役彼仰付ニ付阿部伊
勢守御渡御書附寫） 嘉永六年六月

一通 二〇三

（水戸中納言登城路次并米穀回送ニ付阿部伊
勢守御渡御書附寫） 大目付宛（嘉永六年）
七月二日・三日

一通 二〇五

老中御書附 寫〔重墨利加差出和解（意見可述）
土屋采女正宛 嘉永六年七月六日

一通 二〇八

（御尋之儀ニ付客星之儀申上御覽）（天文方）
嘉永六年七月

一通 一九八

（異国船渡来ニ付海防之儀某存寄書寫）
（嘉永六年七月）

一通 一九六

（嘉永六年某日記拔書寫）〔江戸城中動靜〕

半 仮一綴 二〇〇

魯西亜人の上御書付寫 嘉永六年

一通 二〇四

（夷人浦賀応接其外一条留）

一通 二〇七

江戸咄〔米使応接・上陸模様〕（嘉永六年カ）

半 仮一冊 一九九

安政元年

（水戸八郎磨様異国船見物之儀ニ付江戸カ来
狀寫） 安政元年正月

一通 二〇五

（異国船内海江乗入ハ次第江戸在駐大坂米屋
平太郎手代書留寫）（安政元年）正月

一通 二〇三

（異国船渡来之儀御目付評儀書入手ニ付某書
狀寫） 大久保要宛（安政元年）正月二四日

一通 二〇六

石川宰造書狀 写〔川崎御番所詰注進狀一件〕 大久保要宛（安政元年）正月二十八日	一通	二〇四
（桜井藤四郎御預り川口御番所注進狀写） （安政元年）二月	二通	二〇五
二月十五日横浜村へ夷賊上陸之節書取差上 い写 嘉永七年二月	一通	一九五
（江戸へ来狀写）〔米人上陸模様外〕（安政元 年）二月	一通	二〇九
荻信一 郎并菊地留太郎書狀 写〔米人上陸 模様外〕（安政元年）二月	一通	二〇六
（寅ノ二月廿一日来狀之写）〔米人応接次第〕 安政元年二月	一通	二〇四
石川宰造書狀 写 大久保要宛 安政元年二月	半	二〇三
（異国船渡来之節警衛勸方ニ付荒増存寄書写） （安政元年）二月	一通	二〇六
（八郎磨様異国船見物之儀ニ付水戸へ来狀写） 浩藏（大久保要宛）三月	一通	二〇三
（和蘭陀別段風説書写） 書簡和解共 カピタン ・ドンクルキニルシニス（安政元年七月五日カ）	一通	一九七
（長崎表模様ニ付川嶋元助上申書） 安政元年 閏七月十五日	半	一九〇
（ロシア船豆州戸田村辺へ一時上陸ニ付都筑 駿河守并伊沢美作守御届書写）（安政元年） 二月二日	一通	二〇三
老中御書附 写〔陵所御取締〕 土屋采女正宛 （安政元年二月三日）	一通	二〇九
丹波守書狀 写 兵部少輔宛 一〇月一九日	一通	二〇四

安政二年

（魯西亞船取扱方ニ付阿部伊勢守御書附写） 松前伊豆守宛（安政二年）二月二十八日	一通	二〇五
（蝦夷地警衛場所割付ニ付老中御書附写） 松平陸奥守等宛（安政二年）四月一四日	一通	二〇三
亀井某書狀〔長崎表模様〕 大坂菊田宛（安政 二年）一〇月四日	一通	二〇四
（地震出火ニ付御曲輪内焼失箇所書上写） 火 口番水谷弥之助外三名（安政二年）一〇月一四日	半	一九八
地震ニ付会津家死人之覚 安政二年一月一四 日写	半	一九七

安政四年

（久貝因幡守知行所河州交野郡津田村地内ニ 而大砲稽古仕度儀申立いニ付伺書写） 大坂町 奉行久須美佐渡守・戸田伊豆守（安政四年）五月	一通	二〇六
（亜国総領事ハリス登城ニ付松平慶邦等溜間 詰大名連署建議書写） 安政四年八月・九月	半	二〇七

安政五年

天文方御届書帳写 安政五年八月一日	一通	一九九
水野筑後守并岩瀬伊賀守連署書狀 写〔廻在 中模様〕 土屋采女正宛（安政五年）九月二日	一通	二〇二
大久保要御請書狀〔京都政情〕 安政五年二月	二通	二〇二
老中御書附 写 御手鉄炮方宛御書付写共〔写 力同心御徒西洋砲術伝習〕 六月二十九日	一通	二〇三
万延元年		
川路左衛門尉書狀 写〔江戸日記抜書外〕 浪花 四賢宛（万延元年）一〇月一五日	半	一九八

文久二年

(松平春嶽建白書写) 文久二年二月

半 仮一冊 二七

老中御書附 写 「来春上洛供減・関東村々風儀外」 御詰衆・目付宛 文久二年二月—三年一月

半 仮一綴 二〇三

(藤堂和泉守上書写) 文久二年

一通 一九〇

文久三年

(文久三年從五月至六月諸事留)

半 仮一綴 二〇五

(外国軍艦ト交戦之儀ニ付松平太膳太夫差出御書付写) (文久三年カ) 六月

一通 二〇〇

(七月中江戸より来状控) 「二橋公上京・城内異動外」

一通 二〇七

論北蝦夷事宜 写 常陸豊田亮 文久三年七月三日

一通 一九四

(海陸御備向掛被仰付ニ付板倉周防守御渡御書附写) (文久三年) 七月三〇日

一通 二〇六

(但馬生野一件写) 御上洛ニ付向々江御達亨共 文久三年七月

半 仮一冊 九六

(亜墨利加人其外江答礼贈物ニ付被遣い老中御書附写) 文久三年八月二二日

一通 八二

(文久三年八月十八日薩藩等暴発一件留)

半 仮一綴 一九四

(文久三年八月中諸事留) 文久三年八月

半 仮一綴 九七

(天誅組討伐一件留) 文久三年八月—九月

半 仮一綴 一九五

(警衛費用相嵩ニ付御手許金五万兩被下旨水野和泉守御書附写) (松平肥後守宛カ) 文久三年九月三日

一通 八六

(亜墨利加人并阿蘭陀人江被相渡い老中書状写) 「面談都合問合」 文久三年九月二二日

一通 八六

(水府公井一橋公宛因州公書状写) 「松橋宿御固場所御徒目付ヲ以御渡被成御書附写共」 文久三年九月

一通 八〇

(文久三年幕府諸役人補任書留) 「九月一日—一〇月三十一日」

半 仮一綴 一九三

(老中御書附留) 「武事引立・十津川浮浪人・諸国租率外」 文久三年九月—一〇月

半 仮一綴 二〇四

(文久三年秋以来諸事留) 「土屋宛御用番御書附類」

半 仮一綴 一九五

(文久三年京都聞書)

半 仮一綴 一八四

(文久三年諸事留)

半 仮一綴 一九六

(聞書) (文久三年カ)

半 仮一綴 九七

(合衆国軍艦ワイオミングと下関ニ在ル日本軍艦并台場トノ戦争記事抜書) 「横浜新聞」 一八六三年七月—三日記事写

一通 一九六

元治元年

芸州江縁付居い女子之方より申来い書状之写 「長州勢動靜」 (元治元年) 二月一六日

一通 一九九

大小監察於広島御札問一條御答申上い次第 (元治元年)

一通 一九八

奇兵隊より言上書写 入江嘉藤次・河瀬安次郎・井上小七郎

一通 一九〇

(下関事件聞書) 前後欠

半 仮一綴 二〇〇

慶応元年

慶応元年丑四月大小監察江字和嶋御家来ヨリ被差出_ハ書付_テ写〔秋藩処置方〕伊達遠江守家老桑折駿河〔大目付塚原昌義・目付御手洗幹一郎宛〕慶応元年四月三日

半 仮一冊 一九〇

〔公蘭西全権公使レオンロセス秋藩処置及ビ条約勅許兵庫開港ニ付口上書写〕慶応元年九月一日

一通 一九七

明治元年—四年

〔真田信濃守戦況御届書写〕太政官宛 明治元年四月二四日・二五日

一通 一九七

〔勝安房守三道之城主ニ捧グル文写〕〔付四月六日探索〕明治元年

一通 一九七

長州藩之嘶 〔夷服着用議論〕明治元年九月

一通 二〇元

〔東下鎮撫方ニ付宮田勇大楯建連名見込建言書写〕〔蜂須賀氏宛カ〕明治元年九月

一通 二〇六

〔西蝦夷地開拓歎願書写〕松前勝千代 明治二年

一通 一九七

〔稻田藩騷擾一件留〕明治三年四月—五月

一通 一九八

朝鮮探索書 写 〔外務省官吏探索〕明治三年

一通 一九八

○

〔大山格之助書狀断簡写〕岩下佐次右衛門宛 七月五日

一通 二〇六

城代勤方例書

例書 〔文化一四年・文政九年・弘化三年大坂勤番輩下刃傷一件〕

一通 一九三

〔大坂御蔵修復ニ付城代井上河内守伺書写〕破損奉行伺書共 天保一二年一〇月八日

一通 一九三

〔御鉄炮方御破損方諸費減方一件留〕七月・二月

半 仮一綴 一九四

異国船渡来・風聞

日向漂流小唐船江在留船主ヨリ相尋_ハ御聞差出_ハ書簡之写 〔洪秀全之余党云々〕壬戌十

半 仮一綴 一九八

三家在留船主江星舎・揚少榮 卯年四月 韓賈姜讓漂各於暎夷而寄其故旧書 〔天保九年聞書カ〕

半 仮一綴 二七三

紅夷内風説和解 〔アヘン戦争前後風聞〕

半 一冊 七五三

雜記 天保一三年・同一四年

半 一冊 二八七

〔那覇ニ亞墨利加船渡来ニ付松平薩摩守御届書写〕家来早川五郎兵衛口上書共 六月一日

一通 二〇三

〔幕末風聞書拔〕

半 仮一綴 七六六

〔狂歌五首〕

一通 二〇〇

その他

野村某等書狀 写 大久保要宛 八月

半 仮一綴 二〇三

〔諸家書狀断簡〕 〔大久保要宛〕

一括 二〇五

〔大久保親春関係維新期雜記録留〕

一括 二〇七

〔土屋相摸守政直言行書留写〕 野史写

一通 一九一

〔常平倉仕法ニ付御直書写〕 天保一二年正月

一通 二〇一

京都所司代

転任

老中奉書 〔参府召〕相摸守〔政直〕宛 〔貞享二年〕九月四日

一通 八〇

老中御書附〔登城召〕 政直宛 (貞享二年) 九月二三日

勤役中書類

老中御書附〔勤方指示〕 政直宛 貞享二年一〇月一六日

老中御書附〔勤方心得〕 政直宛 貞享二年一〇月一六日

老中返札〔御暇道中御氣嫌伺〕 政直宛 一〇月・一二月

老中返札〔京都到着御札〕 政直宛 (貞享二年) 一二月一十九日

老中返札〔岩橋校代理届〕 政直宛 貞享四年七月一九日

老中返札〔京都御暇拝領御札〕 政直宛 (貞享四年) 一二月二三日

老中返札〔御暇拝領御札〕 政直宛 正月六日

白筆之書状下書〔貞享三年一〇月二七日一同四年一二月七日〕

○

白州緒 中古京師内外地圖〔寛延三歲次庚午初夏撰部中古京師東生郡四天王寺相坂秀水森謹齋幸安珍重図〕

中昔京師地圖〔玉曆三年癸酉正月廿四日撰州坂陽高津宮北宇水堂森幸安着図〕

平安城東西南北町並之図 写 (寛永年間)

老中御書附〔公儀向用事計方〕 政直宛 一二月二八日

老中返札〔公儀向用事計方〕 政直宛 一二月六日

藩 政

藩 政

藩 法

御咎之部書拔 大略

定法并御内証共 天・地・人 天保二年

家中諸事雜書

天 公儀 御吉凶 年始 御札 家督御目見 勤方

地 文武 賞罰 御勝手 着服 諸願出府

人 縁組 屋敷 病氣 水火 出奔 替勤 雜

泰直公御直書写 寛政元年・同二年〔D34・および1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100, 101, 102, 103, 104, 105, 106, 107, 108, 109, 110, 111, 112, 113, 114, 115, 116, 117, 118, 119, 120, 121, 122, 123, 124, 125, 126, 127, 128, 129, 130, 131, 132, 133, 134, 135, 136, 137, 138, 139, 140, 141, 142, 143, 144, 145, 146, 147, 148, 149, 150, 151, 152, 153, 154, 155, 156, 157, 158, 159, 160, 161, 162, 163, 164, 165, 166, 167, 168, 169, 170, 171, 172, 173, 174, 175, 176, 177, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 184, 185, 186, 187, 188, 189, 190, 191, 192, 193, 194, 195, 196, 197, 198, 199, 200, 201, 202, 203, 204, 205, 206, 207, 208, 209, 210, 211, 212, 213, 214, 215, 216, 217, 218, 219, 220, 221, 222, 223, 224, 225, 226, 227, 228, 229, 230, 231, 232, 233, 234, 235, 236, 237, 238, 239, 240, 241, 242, 243, 244, 245, 246, 247, 248, 249, 250, 251, 252, 253, 254, 255, 256, 257, 258, 259, 260, 261, 262, 263, 264, 265, 266, 267, 268, 269, 270, 271, 272, 273, 274, 275, 276, 277, 278, 279, 280, 281, 282, 283, 284, 285, 286, 287, 288, 289, 290, 291, 292, 293, 294, 295, 296, 297, 298, 299, 300, 301, 302, 303, 304, 305, 306, 307, 308, 309, 310, 311, 312, 313, 314, 315, 316, 317, 318, 319, 320, 321, 322, 323, 324, 325, 326, 327, 328, 329, 330, 331, 332, 333, 334, 335, 336, 337, 338, 339, 340, 341, 342, 343, 344, 345, 346, 347, 348, 349, 350, 351, 352, 353, 354, 355, 356, 357, 358, 359, 360, 361, 362, 363, 364, 365, 366, 367, 368, 369, 370, 371, 372, 373, 374, 375, 376, 377, 378, 379, 380, 381, 382, 383, 384, 385, 386, 387, 388, 389, 390, 391, 392, 393, 394, 395, 396, 397, 398, 399, 400, 401, 402, 403, 404, 405, 406, 407, 408, 409, 410, 411, 412, 413, 414, 415, 416, 417, 418, 419, 420, 421, 422, 423, 424, 425, 426, 427, 428, 429, 430, 431, 432, 433, 434, 435, 436, 437, 438, 439, 440, 441, 442, 443, 444, 445, 446, 447, 448, 449, 450, 451, 452, 453, 454, 455, 456, 457, 458, 459, 460, 461, 462, 463, 464, 465, 466, 467, 468, 469, 470, 471, 472, 473, 474, 475, 476, 477, 478, 479, 480, 481, 482, 483, 484, 485, 486, 487, 488, 489, 490, 491, 492, 493, 494, 495, 496, 497, 498, 499, 500, 501, 502, 503, 504, 505, 506, 507, 508, 509, 510, 511, 512, 513, 514, 515, 516, 517, 518, 519, 520, 521, 522, 523, 524, 525, 526, 527, 528, 529, 530, 531, 532, 533, 534, 535, 536, 537, 538, 539, 540, 541, 542, 543, 544, 545, 546, 547, 548, 549, 550, 551, 552, 553, 554, 555, 556, 557, 558, 559, 560, 561, 562, 563, 564, 565, 566, 567, 568, 569, 570, 571, 572, 573, 574, 575, 576, 577, 578, 579, 580, 581, 582, 583, 584, 585, 586, 587, 588, 589, 590, 591, 592, 593, 594, 595, 596, 597, 598, 599, 600, 601, 602, 603, 604, 605, 606, 607, 608, 609, 610, 611, 612, 613, 614, 615, 616, 617, 618, 619, 620, 621, 622, 623, 624, 625, 626, 627, 628, 629, 630, 631, 632, 633, 634, 635, 636, 637, 638, 639, 640, 641, 642, 643, 644, 645, 646, 647, 648, 649, 650, 651, 652, 653, 654, 655, 656, 657, 658, 659, 660, 661, 662, 663, 664, 665, 666, 667, 668, 669, 670, 671, 672, 673, 674, 675, 676, 677, 678, 679, 680, 681, 682, 683, 684, 685, 686, 687, 688, 689, 690, 691, 692, 693, 694, 695, 696, 697, 698, 699, 700, 701, 702, 703, 704, 705, 706, 707, 708, 709, 710, 711, 712, 713, 714, 715, 716, 717, 718, 719, 720, 721, 722, 723, 724, 725, 726, 727, 728, 729, 730, 731, 732, 733, 734, 735, 736, 737, 738, 739, 740, 741, 742, 743, 744, 745, 746, 747, 748, 749, 750, 751, 752, 753, 754, 755, 756, 757, 758, 759, 760, 761, 762, 763, 764, 765, 766, 767, 768, 769, 770, 771, 772, 773, 774, 775, 776, 777, 778, 779, 780, 781, 782, 783, 784, 785, 786, 787, 788, 789, 790, 791, 792, 793, 794, 795, 796, 797, 798, 799, 800, 801, 802, 803, 804, 805, 806, 807, 808, 809, 810, 811, 812, 813, 814, 815, 816, 817, 818, 819, 820, 821, 822, 823, 824, 825, 826, 827, 828, 829, 830, 831, 832, 833, 834, 835, 836, 837, 838, 839, 840, 841, 842, 843, 844, 845, 846, 847, 848, 849, 850, 851, 852, 853, 854, 855, 856, 857, 858, 859, 860, 861, 862, 863, 864, 865, 866, 867, 868, 869, 870, 871, 872, 873, 874, 875, 876, 877, 878, 879, 880, 881, 882, 883, 884, 885, 886, 887, 888, 889, 890, 891, 892, 893, 894, 895, 896, 897, 898, 899, 900, 901, 902, 903, 904, 905, 906, 907, 908, 909, 910, 911, 912, 913, 914, 915, 916, 917, 918, 919, 920, 921, 922, 923, 924, 925, 926, 927, 928, 929, 930, 931, 932, 933, 934, 935, 936, 937, 938, 939, 940, 941, 942, 943, 944, 945, 946, 947, 948, 949, 950, 951, 952, 953, 954, 955, 956, 957, 958, 959, 960, 961, 962, 963, 964, 965, 966, 967, 968, 969, 970, 971, 972, 973, 974, 975, 976, 977, 978, 979, 980, 981, 982, 983, 984, 985, 986, 987, 988, 989, 990, 991, 992, 993, 994, 995, 996, 997, 998, 999, 1000, 1001, 1002, 1003, 1004, 1005, 1006, 1007, 1008, 1009, 1010, 1011, 1012, 1013, 1014, 1015, 1016, 1017, 1018, 1019, 1020, 1021, 1022, 1023, 1024, 1025, 1026, 1027, 1028, 1029, 1030, 1031, 1032, 1033, 1034, 1035, 1036, 1037, 1038, 1039, 1040, 1041, 1042, 1043, 1044, 1045, 1046, 1047, 1048, 1049, 1050, 1051, 1052, 1053, 1054, 1055, 1056, 1057, 1058, 1059, 1060, 1061, 1062, 1063, 1064, 1065, 1066, 1067, 1068, 1069, 1070, 1071, 1072, 1073, 1074, 1075, 1076, 1077, 1078, 1079, 1080, 1081, 1082, 1083, 1084, 1085, 1086, 1087, 1088, 1089, 1090, 1091, 1092, 1093, 1094, 1095, 1096, 1097, 1098, 1099, 1100, 1101, 1102, 1103, 1104, 1105, 1106, 1107, 1108, 1109, 1110, 1111, 1112, 1113, 1114, 1115, 1116, 1117, 1118, 1119, 1120, 1121, 1122, 1123, 1124, 1125, 1126, 1127, 1128, 1129, 1130, 1131, 1132, 1133, 1134, 1135, 1136, 1137, 1138, 1139, 1140, 1141, 1142, 1143, 1144, 1145, 1146, 1147, 1148, 1149, 1150, 1151, 1152, 1153, 1154, 1155, 1156, 1157, 1158, 1159, 1160, 1161, 1162, 1163, 1164, 1165, 1166, 1167, 1168, 1169, 1170, 1171, 1172, 1173, 1174, 1175, 1176, 1177, 1178, 1179, 1180, 1181, 1182, 1183, 1184, 1185, 1186, 1187, 1188, 1189, 1190, 1191, 1192, 1193, 1194, 1195, 1196, 1197, 1198, 1199, 1200, 1201, 1202, 1203, 1204, 1205, 1206, 1207, 1208, 1209, 1210, 1211, 1212, 1213, 1214, 1215, 1216, 1217, 1218, 1219, 1220, 1221, 1222, 1223, 1224, 1225, 1226, 1227, 1228, 1229, 1230, 1231, 1232, 1233, 1234, 1235, 1236, 1237, 1238, 1239, 1240, 1241, 1242, 1243, 1244, 1245, 1246, 1247, 1248, 1249, 1250, 1251, 1252, 1253, 1254, 1255, 1256, 1257, 1258, 1259, 1260, 1261, 1262, 1263, 1264, 1265, 1266, 1267, 1268, 1269, 1270, 1271, 1272, 1273, 1274, 1275, 1276, 1277, 1278, 1279, 1280, 1281, 1282, 1283, 1284, 1285, 1286, 1287, 1288, 1289, 1290, 1291, 1292, 1293, 1294, 1295, 1296, 1297, 1298, 1299, 1300, 1301, 1302, 1303, 1304, 1305, 1306, 1307, 1308, 1309, 1310, 1311, 1312, 1313, 1314, 1315, 1316, 1317, 1318, 1319, 1320, 1321, 1322, 1323, 1324, 1325, 1326, 1327, 1328, 1329, 1330, 1331, 1332, 1333, 1334, 1335, 1336, 1337, 1338, 1339, 1340, 1341, 1342, 1343, 1344, 1345, 1346, 1347, 1348, 1349, 1350, 1351, 1352, 1353, 1354, 1355, 1356, 1357, 1358, 1359, 1360, 1361, 1362, 1363, 1364, 1365, 1366, 1367, 1368, 1369, 1370, 1371, 1372, 1373, 1374, 1375, 1376, 1377, 1378, 1379, 1380, 1381, 1382, 1383, 1384, 1385, 1386, 1387, 1388, 1389, 1390, 1391, 1392, 1393, 1394, 1395, 1396, 1397, 1398, 1399, 1400, 1401, 1402, 1403, 1404, 1405, 1406, 1407, 1408, 1409, 1410, 1411, 1412, 1413, 1414, 1415, 1416, 1417, 1418, 1419, 1420, 1421, 1422, 1423, 1424, 1425, 1426, 1427, 1428, 1429, 1430, 1431, 1432, 1433, 1434, 1435, 1436, 1437, 1438, 1439, 1440, 1441, 1442, 1443, 1444, 1445, 1446, 1447, 1448, 1449, 1450, 1451, 1452, 1453, 1454, 1455, 1456, 1457, 1458, 1459, 1460, 1461, 1462, 1463, 1464, 1465, 1466, 1467, 1468, 1469, 1470, 1471, 1472, 1473, 1474, 1475, 1476, 1477, 1478, 1479, 1480, 1481, 1482, 1483, 1484, 1485, 1486, 1487, 1488, 1489, 1490, 1491, 1492, 1493, 1494, 1495, 1496, 1497, 1498, 1499, 1500, 1501, 1502, 1503, 1504, 1505, 1506, 1507, 1508, 1509, 1510, 1511, 1512, 1513, 1514, 1515, 1516, 1517, 1518, 1519, 1520, 1521, 1522, 1523, 1524, 1525, 1526, 1527, 1528, 1529, 1530, 1531, 1532, 1533, 1534, 1535, 1536, 1537, 1538, 1539, 1540, 1541, 1542, 1543, 1544, 1545, 1546, 1547, 1548, 1549, 1550, 1551, 1552, 1553, 1554, 1555, 1556, 1557, 1558, 1559, 1560, 1561, 1562, 1563, 1564, 1565, 1566, 1567, 1568, 1569, 1570, 1571, 1572, 1573, 1574, 1575, 1576, 1577, 1578, 1579, 1580, 1581, 1582, 1583, 1584, 1585, 1586, 1587, 1588, 1589, 1590, 1591, 1592, 1593, 1594, 1595, 1596, 1597, 1598, 1599, 1600, 1601, 1602, 1603, 1604, 1605, 1606, 1607, 1608, 1609, 1610, 1611, 1612, 1613, 1614, 1615, 1616, 1617, 1618, 1619, 1620, 1621, 1622, 1623, 1624, 1625, 1626, 1627, 1628, 1629, 1630, 1631, 1632, 1633, 1634, 1635, 1636, 1637, 1638, 1639, 1640, 1641, 1642, 1643, 1644, 1645, 1646, 1647, 1648, 1649, 1650, 1651, 1652, 1653, 1654, 1655, 1656, 1657, 1658, 1659, 1660, 1661, 1662, 1663, 1664, 1665, 1666, 1667, 1668, 1669, 1670, 1671, 1672, 1673, 1674, 1675, 1676, 1677, 1678, 1679, 1680, 1681, 1682, 1683, 1684, 1685, 1686, 1687, 1688, 1689, 1690, 1691, 1692, 1693, 1694, 1695, 1696, 1697, 1698, 1699, 1700, 1701, 1702, 1703, 1704, 1705, 1706, 1707, 1708, 1709, 1710, 1711, 1712, 1713, 1714, 1715, 1716, 1717, 1718, 1719, 1720, 1721, 1722, 1723, 1724, 1725, 1726, 1727, 1728, 1729, 1730, 1731, 1732, 1733, 1734, 1735, 1736, 1737, 1738, 1739, 1740, 1741, 1742, 1743, 1744, 1745, 1746, 1747, 1748, 1749, 1750, 1751, 1752, 1753, 1754, 1755, 1756, 1757, 1758, 1759, 1760, 1761, 1762, 1763, 1764, 1765, 1766, 1767, 1768, 1769, 1770, 1771, 1772, 1773, 1774, 1775, 1776, 1777, 1778, 1779, 1780, 1781, 1782, 1783, 1784, 1785, 1786, 1787, 1788, 1789, 1790, 1791, 1792, 1793, 1794, 1795, 1796, 1797, 1798, 1799, 1800, 1801, 1802, 1803, 1804, 1805, 1806, 1807, 1808, 1809, 1810, 1811, 1812, 1813, 1814, 1815, 1816, 1817, 1818, 1819, 1820, 1821, 1822, 1823, 1824, 1825, 1826, 1827, 1828, 1829, 1830, 1831, 1832, 1833, 1834, 1835, 1836, 1837, 1838, 1839, 1840, 1841, 1842, 1843, 1844, 1845, 1846, 1847, 1848, 1849, 1850, 1851, 1852, 1853, 1854, 1855, 1856, 1857, 1858, 1859, 1860, 1861, 1862, 1863, 1864, 1865, 1866, 1867, 1868, 1869, 1870, 1871, 1872, 1873, 1874, 1875, 1876, 1877, 1878, 1879, 1880, 1881, 1882, 1883, 1884, 1885, 1886, 1887, 1888, 1889, 1890, 1891, 1892, 1893, 1894, 1895, 1896, 1897, 1898, 1899, 1900, 1901, 1902, 1903, 1904, 1905, 1906, 1907, 1908, 1909, 1910, 1911, 1912, 1913, 1914, 1915, 1916, 1917, 1918, 1919, 1920, 1921, 1922, 1923, 1924, 1925, 1926, 1927, 1928, 1929, 1930, 1931, 1932, 1933, 1934, 1935, 1936, 1937, 1938, 1939, 1940, 1941, 1942, 1943, 1944, 1945, 1946, 1947, 1948, 1949, 1950, 1951, 1952, 1953, 1954, 1955, 1956, 1957, 1958, 1959, 1960, 1961, 1962, 1963, 1964, 1965, 1966, 1967, 1968, 1969, 1970, 1971, 1972, 1973, 1974, 1975, 1976, 1977, 1978, 1979, 1980, 1981, 1982, 1983, 1984, 1985, 1986, 1987, 1988, 1989, 1990, 1991, 1992, 1993, 1994, 1995, 1996, 1997, 1998, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 201

(吟味中論所堰手入之儀ニ付伺書御附札)
土井大炊守・寺社奉行阿部備中守 大村市之允宛
文化一四年二月一日

(慈円寺鐘鑄直ニ付寺社奉行江間合書御附札)
松平和泉守 大村市之允宛 文化一四年二月二
四日

(出入中私領寺院夫役人足出方之儀問合書御
附札) 勘定奉行土屋紀伊守 大村市之允宛 文政
元年五月一〇日

(大円寺蟄居中渡書)

岩間愛宕山之絵図

領内見分

(領内見分ニ付伺書御附札) 土屋能登守宛
天明八年八月二七日

(松平伊豆守家来口上書) 留守居役宛
寛政四年八月二九日

(領内見分ニ付伺書御附札) 土屋英直宛
寛政八年

(領内見分ニ付伺書御附札) 土屋彦直宛
文化一二年八月二一日

巡見図

○陣屋図

山中本陣絵図

北条村御陣屋絵図

岩間御陣屋絵図

陣屋絵図

1. 岩間御陣屋絵図

2. 小田御陣屋絵図
3. 北条御陣屋絵図

○町・村絵図

石岡宿ノ図

常州新治郡境郷五箇村鹿絵図 慶応元年六月

下総国相馬郡中内村絵図 名主平右衛門外
慶応二年

谷原領御巡見御通路之図

完塚村御巡見ニ付道筋絵図 名主佐野忠右衛門外

西郷若嶋村井泉村絵図

小泉村絵図

山谷村絵図 名主惣四郎外 慶応二年二月

下萱場村絵図 名主与三郎外 慶応二年二月

粕毛村絵図 名主甚助外 (慶応)

深谷村絵図 (宝永六年)

坂村絵図 名主折本忠左衛門外 元治二年四月

小野村絵図 名主阿部七左衛門外 慶応元年七月

大志戸村絵図 名主久兵衛外 慶応元年六月

常州信太郎三高津村絵図 上高津・中高津・
下高津各村役人 慶応元年九月

中村宿井中村西根絵図 名主川村伝右衛門外
慶応元年九月

仁左衛門新田絵図 名主広瀬仁左衛門外
慶応二年

53×40 一鋪 117
55×40 一鋪 117

20×48 一鋪 110

77×144 一鋪 103

37×78 一鋪 103

54×118 一鋪 105

55×84 一鋪 106

28×79 一鋪 106

28×38 一鋪 109

55×79 一鋪 110

69×113 一鋪 111

38×108 一鋪 111

56×75 一鋪 113

81×116 一鋪 115

56×84 一鋪 115

122×81 一鋪 116

78×156 一鋪 117

152×79 一鋪 118

64×84 一鋪 117

葛山村絵図	名主酒井庄左衛門外	慶応	78×79	一鋪	二二〇	真鍋村・森沖新田絵図	真鍋村名主中川兵右衛門・森沖新田名主源三郎外	慶応元年	140×66	一鋪	二二六
谷原領上郷組台村・福岡村絵図	台村名主飯泉善右衛門・福岡村名主大久保記右衛門	慶応二年二月	159×139	一鋪	二二三	小松村絵図	名主治左衛門外		83×100	一鋪	二二七
谷原領上郷組村東櫓戸村・西櫓戸村絵図	東櫓戸村名主佐三郎・西櫓戸村久右衛門外	(慶応二年)	107×122	一鋪	二二三	小高村絵図	名主李兵衛	慶応元年七月	84×68	一鋪	二二六
谷原領上郷組村細代村絵図	名主理右衛門外	慶応二年一月	54×95	一鋪	二二三	大岩田村絵図	名主伝兵衛外		108×77	一鋪	二二九
常陸国筑波郡川又村絵図	名主草門記右衛門外	慶応二年一月	80×108	一鋪	二二四	小岩田村絵図	名主弥左衛門外	慶応元年	60×93	一鋪	二二〇
谷原領上郷組田村絵図	名主飯泉縫左衛門外	慶応二年一月	79×68	一鋪	二二五	常州新治郡古米村絵図	名主藤兵衛外		89×101	一鋪	二二五
谷原領上郷組村之内押砂村絵図	名主孫右衛門外	慶応二年二月	82×81	一鋪	二二六	常州新治郡広岡村絵図	名主戸久左衛門外		67×56	一鋪	二二五
谷原領上郷組村々之内北袋村絵図	名主助八外	慶応二年二月	56×79	一鋪	二二七	常州信太郎矢作村絵図	名主宮本源兵衛外	慶応元年九月	82×65	一鋪	二二三
谷原領上郷組村々之内日川村絵図	名主武重郎外	慶応二年	95×54	一鋪	二二六	常州新治郡大村絵図	名主治兵衛外	慶応元年九月	107×112	一鋪	二二五
東城寺村絵図	名主福田平右衛門外	慶応元年七月	54×73	一鋪	二二九	中貫村絵図	名主本橋治太夫外	慶応元年七月	81×110	一鋪	二二五
金田村絵図	名主嶋田源兵衛外	慶応元年七月	66×139	一鋪	二二〇	山本村絵図	名主八郎兵衛	慶応元年七月	67×102	一鋪	二二六
常石村絵図	名主量助外	慶応元年	63×83	一鋪	二二三	下坂田村絵図	名主格長左衛門外	慶応元年七月	69×118	一鋪	二二七
殿里村絵図	名主久家重兵衛外	慶応元年	130×54	一鋪	二二三	沢辺村絵図	名主儀右衛門外	慶応元年七月	144×73	一鋪	二二六
今泉村絵図	名主伊藤与惣兵衛外	慶応元年七月	90×107	一鋪	二二三	丸山村絵図	慶応二年		54×80	一鋪	二二九
田宮村絵図	名主誠一郎外	慶応元年	74×78	一鋪	二二四	常州新治郡笠師新田絵図	名主弥右衛門外	慶応元年六月	64×107	一鋪	二二〇
永井村絵図			117×120	一鋪	二二五	花室村絵図	名主八郎兵衛外		118×78	一鋪	二二二
						常州信太郎佐野子村絵図	名主伝左衛門外		93×46	一鋪	二二三
						飯田村絵図	宮嶋津右衛門外		90×56	一鋪	二二三
						宮戸村絵図	名主古屋喜右衛門	慶応二年一月	53×83	一鋪	二二四
						古瀬村絵図	名主根本嘉平治外		77×56	一鋪	二二五

太田村繪図	名主助重郎外	慶応二年二月	68×52	一鋪	二五
上小目村繪図	名主広助外	慶応二年二月	53×75	一鋪	二五
上室村繪図	名主広助外	慶応二年二月	61×38	一鋪	二五
箕輪村繪図	堀越吉兵衛外	慶応二年二月	56×80	一鋪	二五
小山崎村繪図	名主岩瀬市郎右衛門外	慶応元年七月	76×111	一鋪	二六
本郷村繪図	名主小勝権右衛門外	慶応元年七月	80×55	一鋪	二六
右穀村繪図	名主太兵衛外		68×73	一鋪	二六
永国村繪図	名主田兵衛外		68×78	一鋪	二六
(村繪図断片)	[桐木村付近]		81×37	一鋪	二六
(有河村鹿繪図)	名主小松島惣右衛門		37×56	一鋪	二五
村繪図	下図		41×56	一鋪	二六
○					
大岩田村水汲之図	(錯乱)			一鋪	二七
(筑波町略図)			27×41	一鋪	二〇
遠町繪図	[町打之図]	正徳三年	66×139	一鋪	二〇
中貫原町打之図		正徳三年	40×108	一鋪	二〇
勘定所伺					
公事方					
(岩間吉岡新田百姓居宅本村江為引移儀三付内意伺書案紙)	寛政二年四月			一通	一〇三

(領分笠師新田ニ捨鉄炮有之ニ付取計方伺書御附札) 土屋彦直宛 文化一四年二月二二日	一通 一〇三	(出入諸入用借入金ニ付借用人惣代添書) 吉田次郎右衛門宛 天保一一年一月	一通
(捨鉄炮取計方ニ付勘定奉行柳原主計頭御書附) 文化一四年三月二二日	一通 一六五	金子借用証文 世話方・組頭 吉田治郎右衛門宛 天保一二年一月	一通
(御書付請取之節藤田与惣兵衛勤書) 文化一四年三月二二日	一通 一六六	6. (出入之儀物語問敷旨議定証文) 惣百姓連判 天保一二年三月一二日	一通
(領分下高津村百姓實地請戻滞一件ニ付土屋彦直家来大村市之允問合書御附札) 勘定奉行土屋紀伊守 文化一四年五月四日	一通 一七三	7. 田地讓渡証文 村惣代・名主・割元吉田次郎右衛門宛 嘉永五年一月	一通
(領分中貫村ニ而行倒人取計方ニ付藤田与惣兵衛問合書御附札) 所持品書共 勘定奉行 文化一四年六月二二日	一通 一七三	8. 田地讓渡証文 村惣代・名主・割元吉田次郎右衛門宛 嘉永六年二月	一通
(行倒人取計方ニ付土屋家留守居大村市之允問合書御附札) 土屋紀伊守 文政元年五月二七日	一通 一六九	(借用金子返済方之儀ニ付有田軍次兵衛・新庄嘉平太他宛百姓富藏願書扣) 嘉永三年五月	一通 一六七
(流死人取計方ニ付問合書) 土屋家来小島友右衛門 土屋紀伊守宛 文政元年七月二七日	一通 一六〇	(領分在町公事出入中越訴之儀ニ付新治兵衛伺書御附札) 松平兵庫頭 辰年一月	一通 一六七
老中御書附 (出奔名主村方收納不調吟味) 土屋相模守宛 文政元年一〇月二九日	一通 一六三	* (御暇道中筋出水ニ付松戸駅迄船ニ而出立仕度伺書御附札) 英直宛 九月二三日	一通 一〇四
(無宿人御仕置ニ付土屋相模守家来大村市之允問合書御附札) 勘定奉行石川左近將監 文政二年一二月二二日	一通 一七七	(献上筭輸送ニ本馬二十疋遣方之儀土屋保三郎家来大村市之允伺書御附札) 文化二年五月一〇日	一通 一八四
(領分奥州館ヶ岡村山論一件書類)	六六	(家来江戸引越ニ付道中人足遣方之儀新治兵衛伺書御附札) 道中奉行柳生主膳正 文化五年二月二二日	一通 一六九
1. (出訴一行罷婦ニ付御届書案) 館ヶ岡村役人 御留守居役宛 (寅年カ) 四月	一通	(献上筭輸送ニ付本馬二〇疋遣方之儀新治兵衛伺書御附札) 道中奉行 文化五年五月	一通 一六三
2. 金子借用証文 村方惣代外 同村吉田治郎右衛門宛 天保八年二月	一通		
3. 金子借用証文 村惣代・組頭 吉田次郎右衛門宛 天保九年九月	一通		

老中御書附〔御尋者人相書〕〔享保一七年〕七月

〔御尋者人相書〕 勤書共

一通 二六

1. 〔京三条通中嶋町日光屋久兵衛ヲ殺害
逃候同人之下人六太郎人相書〕 寛政一
〇年三月一五日

一通

2. 〔備中国賀陽郡井手村百姓吉之丞母疵
付逃去の同兄弟伊七人相書〕 寛政二
年六月六日

一通

3. 〔浅草諏訪町家主吉兵衛一家殺傷逃去
候同人親元召仕三之助人相書〕 文化元
年三月一三日

一通

4. 〔新治兵衛勤書〕 〔人相書請取〕 文化元
年三月一三日

一通

5. 〔神田鍋町西横町医師原長川江為疵負
逃去候召使小八人相書〕 文化二年二
月二八日

一通

6. 〔欠落致シ箱根御関所山越逃去候薩州
比志嶋村百姓勘四郎人相書〕 文化一
年一〇月二九日

一通

7. 〔上州ヨリ京迄御関所外山越致候上州
勢多郡下嶋村百姓麻右衛門人相書〕
文化二年五月二八日

一通

8. 〔新吉原町遊女召連越後国迄御関所外
山越致候無宿嘉兵衛・八五郎人相書〕
文政二年閏四月一日

一通

勝手方

老中御書附〔御囲米一件〕 安永三年九月

一通 100x

〔御囲米大坂御蔵江相納度伺書御附札〕
土屋主税宛 寛政二年一〇月二四日

一通 100x

鳥井丹波守家来口上書〔囲米御附札渡〕 留守
居宛 寛政二年一二月二八日

一通 二六八

〔土浦領分御囲米御手当ニ仕度伺書御附札〕
土屋英直宛 寛政四年七月一日

一通 二〇八

老中御書附〔領分新田流作場吟味一件〕 寛政
八年四月二二日

一通 二七元

〔油絞水車改メ春屋車取建ニ付山崎条右衛門
伺書御附札〕 勘定奉行久世丹後守 寛政九年一
月二八日

一通 二〇五

〔川々御普請御用ニ付御囲米御解被成度伺書
御附札〕 土屋保三郎宛 文化二年

二通 二〇五

〔財政不如意并家中領内之手当ノ為御手
当被下度新治兵衛伺書御附札〕 勘定奉行柳
生主膳正 文化五年一月

一通 二七九

〔荷符江土浦地名認度ニ付大村市之允御内慮
伺書御附札〕 勘定奉行土屋紀伊守 文化一四年
五月一三日

一通 二七四

○

*〔奥羽替地被仰付の囲米取計方伺書御附札〕
鳥井丹波守 英直宛 寛政二年一二月二七日
〔土浦馬市之節峯岡牧紛失馬之一件ニ付伺書
御附札〕 土屋左門宛 三月五日

一通 二〇三

家中

席順

江戸住居御家中席順 附禄高 嘉永三年

横長半 一冊 五七

土浦住居御家中席順 附禄高共 〔嘉永三年以
前〕

横長半 一冊 六五

諸士年譜・分限帳

諸士年譜 [慶安—嘉永]

横半半

イ・ハ・ニ・ホ之部

一冊 三九

ト・ヌ・ヲ・ハ之部

一冊 三〇

カ・ヨ・タ之部

一冊 三〇

ソ・ツ・ネ・ナ・ム・ウ・ノ・ク之部

一冊 三二

ヤ・マ之部

一冊 三三

フ・コ・エ・テ之部

一冊 三四

ア・サ・キ之部

一冊 三五

ミ・シ・ヒ之部

一冊 三六

モ・セ・ス之部

一冊 三七

(諸士年譜)

イ・ハ

一冊 三八

(イ・ハ・ニ)

一冊 三九

ハ・ニ・ホ・ト

一冊 四〇

(ホ・ト・チ・ヌ・オ・ワ)

一冊 四一

ワ・カ・ヨ

一冊 四二

(ワ・カ・ヨ)

一冊 四三

タ・ソ・ツ・ナ

一冊 四四

タ・ヨ・ツ・ネ・ナ

一冊 四五

ム・オ・セ・ウ・ノ・ク・ヤ

一冊 四六

ム・ウ・ノ・ク・ヤ

一冊 四七

美

タ・マ・フ・コ・エ・テ・ア

一冊 三八

マ・フ・コ・エ

一冊 三九

シ・ヒ・セ・ス

一冊 四〇

キ・ミ・シ・ヒ・モ・セ

一冊 四一

オ・サ

一冊 四二

(諸士年譜) [断簡]

半

土浦分限帳 [文化以降] (明治初年)

一冊 四三

若殿様御附分限帳 [文化—慶応] (明治初年)

一冊 四四

土浦分限帳 目次共 (明治初年)

一冊 四五

家中年譜 [文久頃迄] 天保八年六月序

半

一イ之部

一冊 四六

二ハ之部

一冊 四七

三ニ・ホ・ト・ヌ之部

一冊 四八

四ヲ・ワ之部

一冊 四九

五カ之部

一冊 五〇

六ヨ・タ之部

一冊 五一

八ム・ウ・ノ・ク之部

一冊 五二

九ヤ・マ・フ・コ・エ・テ之部

一冊 五三

十フ・コ・エ・テ之部

一冊 五四

十二ミ・シ・ヒ之部

一冊 五五

十三モ・セ・ス之部

一冊 五六

江戸部屋住部家中年譜 (天保)

半

一冊 五七

五八

土浦部屋住部附無足人小役人大略家中年譜 (天保)

諸士年譜

卷之三 ニ・ホ・ト・ヌ之部

卷之五 カ之部

卷之九 ヤ之部

諸士年譜

イ・ハ・ニ・ホ・ト・ヌ之部

ヲ・ワ・カ之部

ヨ・タ之部

ム・ウ・ノ・ク之部

諸士年譜 卷十 從マ至テ

諸士年譜 旧家 [寛政迄]

諸士年譜 新家

知行・禄制

(河野清左衛門尉給分上祖生村十五石田畑改覚) 小野太兵衛・原三右衛門・木梨嘉兵衛・岸五郎兵衛 寛永二〇年七月二〇日

社寺領其外從前禄扶持米遣置ハ高取調 控

(明治二年) 十一月

旧土浦藩士改正禄高届写 明治四年

(旧土浦藩士改正禄高届下書)

(岡田氏家禄奉還ニ関スル書類) 明治七年

半 一冊 五亥

一冊 三亥

一冊 三亥

一冊 三亥

半 一冊 三亥

一冊 三亥

一冊 三亥

一冊 三亥

一冊 三亥

一冊 三亥

一冊 三亥

一冊 三亥

一通 六亥

一冊 三亥

一冊 三亥

一冊 三亥

一冊 三亥

一冊 三亥

一冊 三亥

一冊 三亥

一冊 三亥

(家禄賞典禄処分法写) 明治三〇年一〇月二十九日

金子請取帳・米請取帳 [東京屋敷詰家臣] 明治二年十一月

中間奉公人請狀 人主越後屋伝左衛門 土屋相摸守内役人衆宛 天保三年二月

御普請奉行御役所江差出ハ麻布道造絵図面 文政元年

(鹿兒島逆徒征討費等寄付ニ付太政官表彰状) 享直宛 明治一六年二月三日・四月五日

(諸国紛乱留書) (明治六年七月)

(東京商社規定書) 米油方頭取・肝煎 明治二年六月

寛保三年亥八月吉宗公上意之写・宝暦五年亥九月土屋篤直侯諸支配ヘ達書・其他 写

卓子献立 [藩主直筆]

御承譜 (抄)

土屋尹直氏所蔵史料 (電子複写史料)

〔参考〕

土屋尹直氏所蔵史料 (電子複写史料)

御承譜 (抄)

土屋尹直氏所蔵史料 (電子複写史料)

御承譜 (抄)

土屋尹直氏所蔵史料 (電子複写史料)

御承譜 (抄)

土屋尹直氏所蔵史料 (電子複写史料)

御承譜 (抄)

土屋尹直氏所蔵史料 (電子複写史料)

御承譜 (抄)

土屋尹直氏所蔵史料 (電子複写史料)

半 一冊 二六

横長半 一冊 D 二五

一通 一〇四

一通 一〇四

一通 一〇四

一通 一〇四

一通 一〇四

一通 一〇四

一通 一〇四

一通 一〇四

一通 一〇四

一通 一〇四

一通 一〇四

一通 一〇四

一通 一〇四

一通 一〇四

一通 一〇四

一通 一〇四

一通 一〇四

一通 一〇四

一通 一〇四

一通 一〇四

土屋家
中家

大久保家文書目錄

土屋家
中大久保家文書目録目次

藩主土屋家……………	二頁
系図・系譜、城郭・屋敷、御道具、 御具足召、公儀御役勤、祖霊社	
藩政……………	三
藩政一般、操練、親正公用人中記録	
大久保家……………	四
家系、家事・家政、武芸、諸道具記 ・目録、日記、書状、詠草・記録そ の他	
親春（要）関係……………	五
履歴・政論、大坂城代公用人中記録、 国事軼掌中書類	
親正公職勤務中書類……………	六
〔参考〕……………	七

土屋家 中大久保家文書目錄

(文書記号 43B, 36D)

藩主土屋家

系図・系譜

(土屋家歴代略系表) [数直—正直] 大久保正直 88×32 一枚 B 罫

(土屋氏古系譜) 美 一冊 D 〇五

土屋古系図 文政九年写 横長美 一冊 D 〇三

土屋系図写 [義遠—信殷] 二通 D 〇四

御家御代々様御法号 半 一冊 D 二二

(藩侯印譜并花押譜) [政直・啓直・篤直・孝直分] 半 仮一冊 D 〇六

(御継嗣之儀ニ付中田誠之允正誠上書) 文久元年一月八日 美 一冊 D 七

御家族御申合并御規則抄録 [明治九年—同一七年] 横長半 一冊 D 二七

(土屋家過去帖) 24×11 一帖 D 二三

(御本家ヨリ御尋之儀ニ付新井筑後守答書) 写共 (享保八年) 19 三卷 D 〇七

土屋系図 御家譜附録草稿 源君美撰 美 一冊 D 〇六

土屋但馬守殿御名言之御仕置 (名言集之内抜書) 一通 D 三三

英哲院様御筆短冊 32×6 一枚 D 〇〇

城郭・屋敷

土浦城之記 文政二年写 半 一冊 D 〇一

(土浦城郭御經營之儀ニ付中田誠之允正誠上書) 文久二年九月一日 美 一冊 D 元

本所御下邸図 32×29 一鋪 D 六

小川町之御上ヶ屋敷本所小名木川通御下屋鋪共御願之通被遊御拝領の一件 明治元年一〇月 横長半 一冊 D 二四

(土浦城代々城主之記) 嘉永五年七月写 半 仮一冊 D 〇三

御道具

御在城為御持被遊の江戸表御道具留帳 大久保氏 天明八年 横長半 一冊 B 三

御在城中從江戸表遊差越の御道具具覧 大久保清左衛門 寛政元年九月 横長半 一冊 B 四

御切類弘留帳 御小納戸役人 文化五年十一月 横長半 一冊 D 三

御切之目録在物帳 横長半 一冊 D 二

(御自筆御長持風干仕の節改覚) 内藏助・一郎兵衛 (一二月二六日) 横長半 仮一冊 D 二

御具足召

御具足御召初被遊いニ付奉申上ひ覚 大久保要(カ) 天保一〇年六月

美 一冊 B 九

御具足御召初被遊いニ付奉申上ひ覚 天保一〇年六月

半 一冊 D 六

御召初御席画図 (天保一〇年カ)

半 一冊 B 三

御具足御召初御習礼之記

美 一冊 B 八

公儀御役勤

(政直公御役御願之通御免老万石御加増且御登城之節御席等之儀被仰出ひ御書付并御所勞中御尋等之趣留書) (享保三年三月三日) 嘉永元年三月亨

半 一冊 D 元

(御心願之筋ニ付蛭沼五郎左衛門上書之亨) 九月

半 一綴 D 三

(歴代將軍靈前御供物ニ付公用人書付)

(上使之節城中勤方覚書)

一通 B 六

○

浪華御役録 大坂天満鳴尾町神崎屋金四郎板安政五年

38×61 板一枚 D 三元

(御両敬之御方様ニ付書上覚)

横長半 一冊 B 二

祖 靈 社

祖靈社建築寄附日誌 発起者 明治二四年二月

半 一冊 D 三

東京祖廟建築費寄附連名簿 明治二四年四月

半 一冊 D 三三

御宮御建築日誌〔土浦〕建設方 明治二年四月七日

半 一冊 D 三四

地所売却申合書 加藤敬頼外 明治三年三月

半 一冊 D 三七

祖廟建築費寄附連名簿 幹事 明治二四年四月

半 一冊 D 三三

(祖廟建築并例祭奉行ニ付土浦東京両委員往復書類綴)

一綴 D 一四

藩 政

藩政一般

土浦領之記 (大野勘右衛門筆カ)

15×7 一帖 D 一〇〇

乗馬罷出ひ面々名前書付 (安永末年カ)

一通 D 三

(以下三通共 土屋家文書七四五)

土屋泰直直書〔藩内動靜探索〕 大久保親修宛 寛政元年四月二五日

一通 B 一

土屋泰直直書 大久保清左衛門(親修)宛 寛政元年五月一八日

一通 D 四

(大久保氏上書下案)〔土浦情勢密告〕

土屋泰直直書〔上書江返答〕 大久保清左衛門親修宛 寛政二年二月一八日

横長半 一綴 B 七

寛政二四年泰直公思召ヲ以荒地開発之儀被仰出ひ御書附写 寛政二年八大久保要 天保一三年一月一五日亨

一通 D 二

長嶋二左衛門書状 大久保(親修カ) 三月一〇日

一通 B 二四

(諸事儉約之儀町奉行江申達覚) 丑(文政一二カ)年一月二三日

一通 D 三

水戸様御入国一式控帳 大久保親仁 天保三年一〇月

横長美 一冊 D 七

水戸様御通行ニ付手扣 (大久保氏カ) 天保五年四月

横長半 一冊 D 六

諸願書留 御用人(大久保氏) 天保六年閏七月

横長美

一冊 D 七

(御番頭河瀬藤太夫・波多野甚内・早川修理引込之儀書取之簾々及答い扣) (天保六年二月)

横長半

一冊 D 云

御改正ニ付諸役所取計方伺之留 天保七年正月

横長美

一冊 D 八

大久保要親春書狀 [若殿様初御目見] 磯伊織宛 六月六日

横長美

一通 B 六

(土浦田町無宿幸吉盜之条々御吟味一件留) 天保八年

横長半

一冊 D 三

御用人配下申立案 [番入願] 天保一〇年七月

横長美

一冊 D 九

御規定被仰出い覚 天保一〇年九月四日

横長美

一冊 D 三七

御入部御次第其外手扣 大久保親仁 天保一〇年九月

横長美

一冊 D 三

御用人心得覚 三冊之内 文化七年正月写(天保一二年七月再写)

横長半

一冊 D 二〇

丑十月年番扣 (御用人) 天保一二年一〇月

横長半

一冊 D 二

土浦暮方積帳 勘定組頭菅記惣兵衛 天保一三年六月

横長美

一冊 D 三

御借入金取調 (菅記惣兵衛カ) 天保一三年六月

横長美

一冊 D 三

寅直公御家督後ノ親書 天保一五年五月 大久保邦之介写

横長美

一冊 D 三

(大久保清左衛門御用留) [安政五年—同六年]

横長美

一冊 D 五

(大久保氏ヲ諷刺セル戯画)

横長美

一枚 B 三

大久保要書狀 [初御具足召等] 関内藏助宛 六月五日

横長半

一通 B 二五

(浅井小左衛門問合存念書) [御馬廻衆一件・藩政改革] 閏七月二三日

横長半

一通 B 一〇〇

諸向名前

横長半

一冊 D 五

小役人無足人名前

横長半

一冊 D 四

(御用達大國屋勘兵衛御在城中献上物之儀ニ付町奉行窺書) 丑年二月

横長半

一通 B 三

土浦藩印譜

19×9

一枚 D 二六

公債証書売渡書 元定助郷五十四カ村・元東加助郷七ヶ村 中川・小松崎・三浦宛 明治七年六月二八日

半

一冊 D 二六

○

(元新発田藩同心飯嶋量平於常州府中敵討一件書類) 安政三年一月

横長半

一通 D 二

操練

屋後着具之節役割 御近習目付 午年五月三日

横長半

一冊 D 二五

朝之部撰中操練備立鋒矢 御近習目付 午年五月三日

横長半

一冊 D 二五

照準短歌

横長半

一通 B 三

海螺太鼓鉦之相図

横長半

一通 B 四

操練目録 大久保要 亥年一〇月

横長半

一通 B 三

調練手続 (御近習目付) 午年五月

横長半

一冊 D 二五

大手組方角御人数立之覚 天保七年六月 大久保氏写

横長半

一冊 D 二四

親正公用人中記録

(辰六月京地御発駕前大久保要江被下い御書附)

横長半

一通 D 元

土屋寅直直書 公用人宛 (明治二年) 三月一七日

横長半

一通 D 三

土屋寅直書狀 大久保親正宛 (明治二年) 六月二十五日
土屋寅直書狀 用人宛 (明治二年) 六月二十五日
ケ条書 東京表公用人大久保親正宛

一通 D 三
一通 D 三
一冊 D 器

大久保家

家系

(大久保氏略系表) 大久保親正

一枚 B 三

大久保系図 [藤原兼家—親安]

一冊 B 四

大久保家譜 [親信—親脩]

一冊 B 五

古系略 近代系図 [家譜] [兼家—親春]

一冊 B 六

古系図追加 [親春迄]

一冊 B 七

(大久保氏系図) [鎌倉以後・親善并親明系譜]

一冊 B 六

家譜追加 [歷代妻生家家系・親類親族書]

一冊 B 元

(大久保親脩年譜) [寛政七年迄]

一冊 B 三

御達之簡目取調案 大久保親正 土浦藩庁宛
明治四年一〇月

一通 B 四

(大久保親正経歴書) 大久保親正 明治九年五月

一通 B 四

(大久保親正履歴書) 大久保親正 明治一六年一月

一通 B 四

大久保家靈位 [滿親以後] 嘉永三年二月改

一冊 B 三

(大久保家古過古帳) [家勝以後] (天保)

一帖 B 三

(過去帳下書)

一通 B 元

土屋泰直自筆親脩名書 天明八年二月八日

一通 B 三

(小俣氏略系図)

一通 B 元

関家略伝 [思恭—雪江]

一冊 B 六

景德院武田家始法号 大久保親正

一冊 D 三

泰心院殿遺書写

一冊 B 四

家事・家政

此度要江戸表引越ニ付諸色入用之扣 天保一五年三月

一冊 D 元

(新道一番地地所家作御松下願一件書類)
明治四年九月

一冊 D 元

(地所松下ゲ代金納入命令書) 租税寮出仕大久保親正宛 明治四年十一月

一通 B 元

(同居人並ニ家從ニ付届願書扣) 司法権少判事大久保親正 土浦県宛 (明治五年) 八月

一通 B 元

(監察司大佑大久保要家米勝藏出頭命令書)
東京府 大蔵省宛 明治四年八月二日

一通 B 三

(町費出金ニ付東京府達書写) 明治五年七月

一通 B 元

大久保正婦歎願書 大久保親正外宛 明治七年五月一六日

一通 B 元

日本セメント株式会社技師長大久保親誠履歴書
明治三二年三月九日

一通 D 三

(日本セメント株式会社技師長大久保親誠婦朝歓迎之祝辞) 同社事務員總代谷口一心 明治三一年三月七日

一通 D 三

故工学士大久保親誠君遺族弔慰金募集趣意書
東京下谷区住緒方三郎外 明治三五年二月

(故大久保親誠遺族弔慰金募金報告書) 親正
礼状共 内海三郎外 明治三六年二月

武 芸

(自鏡流居合并兵法免許書) 山村司昌茂
近藤臥牛跋 大保金十郎宛 安永一〇年一月

甲陽古法三啓之卷 竹中茂村 大久保要宛
文政八年二月

甲陽古伝循環之卷 竹中茂村 大久保要宛 文政
九年一月

甲陽古伝印可之卷 竹中茂村 大久保要宛 文政
九年三月

(甲州流兵学免許書) 竹中茂村 大久保要宛
文政九年四月

八条流手綱目錄 小田切亀之助 大久保邦之助宛
安政元年二月

諸道具記・目錄

所持之武具馬具其外諸道具入記 寛政八年二月

諸道具入記 寛政八年七月

千十郎江遺物品々 荒木左一郎 寛政一一年
一月

(望月茂史料借用書) 伊藤すゑ宛 昭和一七
年八月

日 記

貞享三寅年ヨリ親安日記書拔
元文五申年マテ

印一通 B 三

印一通 B 二

一卷 B 四

三卷 B 四

一卷 B 三

一卷 B 三

一卷 B 四

一通 D 三〇

一冊 B 五

一冊 B 三

一冊 B 二

二通 B 三

一冊 B 三

大久保親脩日記

美・半

一五冊 D 三

1. 天明七年八月一五日―十二月三〇日

2. 天明八年一月一日―二月二九日

3. 天明八年三月一日―四月二九日

4. 天明八年五月一日―六月二九日

5. 天明八年七月一日―八月三〇日

6. 天明八年九月一日―一〇月三〇日

7. 天明八年十一月一日―十二月三〇日

8. 天明九(寛政元)年一月一日―二月三〇日

〇日

9. 寛政元年三月一日―四月三〇日

10. 寛政元年五月一日―六月三〇日

11. 寛政元年閏六月一日―七月二六日

12. 寛政元年八月一日―九月二九日

13. 寛政元年一〇月一日―十二月三〇日

14. 寛政二年一月一日―二月二九日

15. 寛政二年三月一日―四月三〇日

天保四癸巳孟春日記

書 状

横長半

一冊 D 六

〇親脩(清左衛門)宛

土屋泰直直書 寛政元年閏三月一八日

小俣吉右衛門書状 二月二七日

二通 B 三

一通 D 六

大塩知見院書狀

大久保要書狀 一二月二日

○親春（要・靖斉・斉・黙之介）宛

水野国^カ之助書狀〔勝手向周旋への返礼〕（嘉永元年^カ）一〇月二日

横手極書狀 四月四日

関思亮書狀 二月一七日・三月二八日・五月八日

関弘道書狀

市川三千書狀 三月四日

□貞書狀 八月一七日

○親正（要・拙翁）宛

土屋寅直書狀 明治二七年

岸良兼養書狀

岸良兼善書狀 八月二日

岸良兼吉書狀 伊地知書狀共

糸井宗順書狀

野中完一書狀 九月二日

輝彦^カ書狀 六月二〇日

安村重脩書狀 二月二〇日

天□書狀

一寿書狀 五月二三日

関貞書狀 二月四日

隆案^カ書狀 七月二二日

一通 B 三

一通 B 七

一通 B 三

一通 B 四

三通 B 七

一通 B 六

一通 B 六

一通 B 六

七通 D 二五

一四通 B 元

一通 B 三

二通 B 三

一通 B 三

一通 B 三

一通 B 三

一通 B 三

一通 B 三

一通 B 三

一通 B 三

一通 B 三

某書狀

石川万亀書狀 大久保御兄様（親正^カ）・御姉様宛

波多野悦書狀 三月四日

伊地知某書狀 岸良宛

○親脩・要その他

清左衛門書狀 母宛 八月二六日

大久保要書狀 某宛

要書狀 大久保野助宛

其章^カ書狀 常治宛 八月二六日

女文 二月三日外

（埋堂口上書） 七月二〇日

詠草・記録その他

淡水府君自詠和歌集稿 春葉院（大久保親善）

大久保親脩編

（十三夜愛蘭諸家詠草稿） 大久保要外

庚午御発会詠集 竹廻舎享 明治三年

（諸家文藻写） 大久保親正

座右読書抄録并拙考（大久保氏）

（諸家詠草綴）

秘伝武功吟味集 全 大久保親修 天明七年五月

元禄三年十二月 光圀公御致仕御帰国之上御意

五日ヨリ三日間 之趣覚書

一通 B 三

一通 B 二〇

一通 B 二

一通 B 五

一通 B 四

一通 B 三

一通 B 二〇

一通 B 二〇

一通 B 二〇

二通 B 二七

一通 B 二七

一冊 B 三

一冊 B 三

一冊 D 二

一冊 B 二

一冊 D 二

一括 D 五

一冊 B 元

一冊 D 三

(明良浜範・続武家閑談拔書)

武家 泰平年表 忍屋隠士編
必學

復古政事問答 (天保一五年榮樹園写カ)

徳川氏初代之記録

○
亀城会会則

(鶴岡八幡宮御守札)

極札

(林子平筆銘文写)

(卓子献立)

(佐野英山編 錢貨図録出版案内) 大正二年

(大久保氏関係雜綴)

親春(要) 関係

履歴・政論

(大久保親仁年譜) (年々御用部屋の御書付写共) (寛政一〇年—安政五年)

親春君年譜草稿 (文化一三年—天保一五年)

大久保親春履歴及行状 逐加別記 明治三三年一〇月

(故大久保要へ特旨ヲ以テ位記追贈ニ付宮内省達書) 明治二十四年二月一七日

一通 D 三

一冊 D 二

一冊 D 二

一冊 D 二

印一枚 B 三

二枚 D 二

四枚 D 二

一枚 D 二

二枚 D 二

印一枚 B 三
(三枚)

一括 D 二

大久保要贈從四位位記 明治二十四年二月一七日

(旧臣中山高明上申書写) 明治三十四年一〇月

○

陳情書 (要幽閉中カ)

文武合弁建議

心学乱王道説 大久保親 原田賢宛

親春君甲州行之記 大久保要

平山誌

靖斉君壯時出府之記

大坂城代公用人中記録

(浦賀表へ異国船渡来一件雜綴) (嘉永六年) 六月

嘉永癸丑春江戸にて板行に成い書付写 嘉永六年

(異国船内海江入い時警衛方ニ付大目付宛老中御書附書拔写) (安政元年カ) 正月

(駿府大地震ニ付久能山惣御門番神原越中守照永御届書并富永孫六郎言上書写) (安政元年カ) 十一月四日・十一月九日

石河徳五郎書状 (江戸地震・藩情) 大久保要宛 (安政元年) 一〇月

藤森大雅書状 (江戸・下田地震事情) 大久保老台宛 (安政)

(卯六月中江戸表へ申来ル諸事留) (安政二年カ)

一通 B 三

一冊 D 二

一綴 D 二

一冊 B 三

一冊 B 三

一冊 B 三

一冊 B 三

一冊 D 二

一綴 D 二

一綴 D 二

一通 D 二

一綴 D 二

一通 B 三

一通 B 三

一通 B 三

一綴 D 二

(西洋流小筒鑄立方ニ付大筒鑄立掛リ宛阿部伊勢守御書附写) 御鉄砲奉行杉山新左衛門・大岡治右衛門差出諸向并遠国渡方御鉄砲員教書共 (安政二年) 六月二〇日

一通 D 二五

(御座間役替并諸司押領物覺) [八月九日—二二日] (安政二年)

仮一綴 D 二六

老中御書附写 (大坂諸司宛達書写共) [異船測量申出シ際ヘノ対策] 土屋采女正宛 (安政二年) 八月二三日

一通 D 二七

(八月十三日付於江戸表異船測量願書并附屬条約帳面四通京都二面御達觸願書) 安政二年八月一三日

一通 D 二七
ノ三

(比度水戸中納言殿御政務筋ノ為登城ニ付阿部伊勢守御書附写) 大目付并目付宛 安政二年八月一四日

一通 D 二七
ノ二

(長崎表御用船派遣ニ付浦触写) (安政二年) 八月二〇日

一通 D 二六

行軍之体并馬揃上覽日割 (安政二年) 八月

一通 D 二六

(魯人護送一件ニ付下田表極内申来い写) (安政二年) 八月

一通 D 二七
ノ一

楊答異聞卯十月之部 [江戸来状留] (安政二年) 一〇月

仮一冊 D 二八

(仙台藩蝦夷地御固人数御繰出之次第書写) (安政二年)

一通 D 二五

(水隠土書状写) [大坂台場築立模様・下田奉行異人扱方外] 土屋寅直宛 安政四年六月晦日

一通 B 二四

(攘夷勅諭一件ニ関スル江戸城中風聞来状留) (四月二十五日—五月二日) (安政五年) 四月

仮一綴 D 二六

(四月二十五日堀田備中守宅江アメリカ使節参上之節掛リ役々對話之趣書拔写) 安政五年四月

仮一綴 D 二六

御藏奉行松田四郎左衛門御役宅明地ニ而鉄炮稽古仕儀申上い書付写 町奉行久須美佐渡守・在番戸田伊豆守 (安政四年) 五月二二日

一通 D 二二

老中御書附写 別紙被仰出書共 [神奈川条約調印後ノ武備強化] 土屋采女正宛 (安政五年) 六月二二日

仮一冊 D 二七

藩土源七書状写 [江戸城中風聞] 又藏宛 (安政五年) 七月二〇日

一通 B 二四

(江戸来状写) [城中風聞] (安政五年) 八月

一通 B 二四

千八百四十八年 嘉永元年 別段風説書 和蘭貿易都督レイワン 嘉永元年

仮一綴 D 二七

老中御書附写 [大坂海岸筋警衛] 土屋采女正宛 七月四日

一通 B 二四

(異国船祝砲発いニ付浦触被仰出い儀石河美濃守宛松平利泉守御用状) (前欠) 正月二十四日

一通 D 二六

石川宰造書状写 別紙風聞書共 [浦賀・神奈川宿異人動靜] 正月一八日

一通 D 二六

(帶在船將士官ノ聴取セシ諸国事情書留) (安政四年)

仮一冊 D 二八

(長崎より来ル魯西亜船見分覺書) 七月三日

仮一冊 D 二六

(長崎日記拔書) [四月六日—一八日]

仮一綴 D 二五

四月八日江戸来状書拔写 [英米本国模様等]

一通 D 二五

外山書状 かなめ宛

一通 B 二四

屋代増之助書状 (前欠) [異国船一条] 藤田勇等宛 六月九日

一通 B 二六

(異国船打払之儀御尋ニ付申上い覺案)

一通 D 二七

国事缺掌中書類

(水戸藩土藤田主膳等一件評定書留写)
(弘化元年四月)

鵜飼吉左衛門書状写 大久保要宛 (安政二年) 一〇月

鵜飼吉左衛門書状写 (藤田等一件・川路氏動靜) 大久保要宛 (安政四年^カ) 五月六日・五月九日

梅田源次郎書状写 (吉田寅次郎・彦根云々) 大久保要宛 (安政五年) 七月

正道書状 (井伊内奏以後) 拙堂先生宛 (安政五年) 八月二二日

某書状 (勅諭前後江戸事情) 大久保要宛 (安政五年) 八月一七日・八月二四日

某書状 (勅諭一件前後動靜) 大久保要宛 (安政五年^カ) 八月一九日

鵜飼吉左衛門書状写 (勅諭前後京都事情) 大久保要宛 (安政五年) 八月二一日

某書状 大久保要宛 (安政五年) 八月二四日

(勅諭写) 添書共 (前欠) (安政五年) 八月

横井平四郎書状写 (前欠) (水戸赦免・御救恤一件) 大久保要宛 正月一五日

津久井飄齋書状 大久保要宛 四月二二日

広瀬□形書状 (前欠) 大久保要宛 五月二〇日

大原三位書状 (下坂ノ罪赦免云々) 七月五日

桜田源二郎書状写 (尾水二侯ニ直宣旨降下) 大久保要宛 八月八日

五通 B 宛

一通 B 四〇

二通 B 四三

一綴 B 四四 (五通)

一通 B 四〇

二通 B 五

一通 B 五

一通 B 五

一通 B 四

二通 B 五

一通 B 五

一通 D 四

一通 B 三

一通 B 五

一通 B 六

村尾源右衛門正請書状 大久保要宛 一〇月二〇日

関奥右衛門書状 大久保親春宛

(某書状) (前後欠) 大久保要宛

大久保要書状写 (引籠中^カ) 長谷川誓宛 一一月二五日 (大久保親正写^カ)

(大久保要書状下書^カ) 大原重徳宛

大久保要手簡 藤田勇宛^カ

(神発流習業ニ付水戸老公被仰出書写) 安政三年六月

(藤田東湖改名披露状)

(肥前聞書)

下田話

(世上流行歌)

尾藩深田氏筆記之弁 天保一〇年二月大久保親実写

親正公職勤務中書類

(権大参事大久保親正病氣ニ付免本官願) 弁官宛 明治二年八月

任土浦藩権大参事太政官達書 大久保要宛 明治二年九月

一通 B 二

三通 B 六

一通 B 三

一通 B 六

一通 B 六

一通 D 四

一通 B 六

板一通 B 六

一冊 B 三

板一綴 D 三

板一綴 D 五

一冊 D 三

一通 B 三

一通 B 四

(弁官役所出頭命令書) (明治二年^カ) 一〇月二日
大久保要寄宿被申付集議院申達書 土浦藩知事宛 明治二年一〇月
(大久保要免議長辭令) (明治三年九月)
(土浦藩庁出庁命令書) 明治三年閏一〇月一四日
任大藏監督權大佑准席大藏省辭令 大久保要宛 明治四年四月
任租稅寮十二等出仕大藏省辭令 大久保要宛 明治四年七月
式部寮出頭命令書写 元土浦県庁 大久保要宛 明治四年一二月五日
任司法省七等出仕太政官辭令 大久保要人宛 明治四年一二月七日
(任司法省出仕辭令御請書控) 兒島惟謙共式部寮宛 明治四年一二月七日
(履歴表提出スベキ司法省指令書) 權少判事大久保親正宛 (明治六年^カ) 五月一〇日
(科刑違ニ付譴責処分書) 司法卿大木喬任等判事大久保親正宛 明治一〇年四月一四日
(御詞令廻達ニ付西岡判事公用狀) 大久保親正宛 明治一五年六月二六日
(判事大久保親正病氣療養願) 大木司法卿宛 明治一六年四月一九日
(帰京猶予指令書送付ニ付尾崎判事添狀) 大久保判事宛 明治一六年四月二六日

一通 B 益
一通 B 吾
一通 B 三
一通 B 三
一通 B 吾
一通 B 丑
一通 B 丑
一通 B 癸
一通 B 癸
一通 B 癸
一通 B 癸
一通 B 癸
一通 B 癸
一通 B 癸

(參官指令書) 内閣書記官 大久保親正宛 明治一七年・同二〇年

二通 B 丑

(此度叙勲ニ付諸書類作成ノ件進達書) 出浦司法書記官 大町治安裁判所判事大久保親正宛 明治二二年六月一九日

一通 B 七

(叙勲ニ付御札并吹聴申述書下書) 治安裁判所判事大久保親正 山田司法大臣・伴始審裁判所宛 明治二二年六月二二日

一通 B 七

免大町区裁判所判事辭令 司法省 大久保親正宛 明治二六年七月二〇日

一通 B 癸

(松岡判事公用狀) 大久保判事宛 一月三十一日

一通 B 丑

(豐田織江免職願)

一通 B 丑

大久保氏雜文書

一通 B 丑

婚禮記 天明八年

一通 B 丑

袋 天保四年

一通 B 丑

〔参考〕大久保正氏所藏史料 (電子複写史料)

1. 大久保系図写

一通 B 丑

2. (古過去帳写)

一通 B 丑

3. 兵学許可書写 天保二年一〇月二三日

一通 B 丑

秋元家
中家
福井家
文書
目錄

秋元家
中 福井家文書目録目次

福井家……………三

福井氏家系、消息

福井氏勤役……………四

勤役一般、川越在番、山形在番、館
林在番、組支配

記録……………五

軍書、実録、幕末風聞、詩文・随想
その他

藩主秋元家……………七

秋元氏家系、藩主言行、国替・入部、
幕法、公儀勤役、江戸城御門番役、
家中

秋元家 福井家文書目錄

(文書記号 29C)

福井家

福井氏家系

福井家由緒〔源藏―助右衛門〕 江戸下谷横田助右衛門

一通 二六

福井氏先祖繫図

1. 小笠原家内福井十郎右衛門書狀 源次兵衛宛 正月七日

一通 二六

2. 戸田家内福井甚五兵衛書狀〔煎海鼠答礼〕 源次兵衛宛 正月二六日

一通 二六

3. 戸田家内福井源太左衛門書狀 源次兵衛宛 享和二年二月二八日

一通 二六

4. 戸田家内福井源太左衛門書狀 源次兵衛宛

一通 二六

5. 福井紋太左衛門先祖書

一通 二六

十郎右衛門返書狀〔源助頼重代教之事〕 福井源次兵衛宛 三月一九日

一通 二六

宇田因幡守内福井与五左衛門定章書狀 福井源次兵衛宛 二月一六日

一通 二六

小笠原相模守内同姓十郎右衛門書狀 福井源次兵衛宛

一通 二六

1. 福井十郎右衛門貴武返書狀 七月二三日

一通 二六

2. (福井家由緒書) 一〇月一三日

一通 二六

3. 福井十郎右衛門書狀 二月一五日 一通
4. 福井十郎右衛門書狀 一〇月一三日 一通
土井能登守内皆藤矢柄返書狀〔消息及系譜之事〕 四月一八日 二通

消 息

福井十郎右衛門貴武返書狀 福井源次兵衛宛 二月一五日 一通

木呂子源太右衛門書狀〔軍事・劍術之事〕 福井源次兵衛宛 正月一〇日・二月一九日 二通

多(カ)いそに書狀 福井市郎兵衛宛 八月一六日 一通

なかさわ理玄内書狀 福井多門宛 永井伊賀守内小嶋庄九郎書狀 永井飛騨守内山藤五郎左衛門宛 七月二九日 一通

小嶋庄九郎(可休カ)書狀 福井市郎兵衛宛 七月二二日・七月二九日 五通

山藤五郎左衛門書狀 岡宗左衛門宛 八月二日 一通

上(カ)壯九郎書狀 市郎兵衛宛 五月一五日 一通

百庵書狀 市郎兵衛宛 八月六日 一通

皆藤弥太夫返書狀〔弥惣八退役・路用工面之事〕 福井源次兵衛宛 正月六日 一通

山藤五郎左衛門書狀〔脚氣療治之事〕 福井源次兵衛宛 九月四日 一通

山藤五郎左衛門書狀 宗左衛門宛 九月六日 一通

福井十郎右衛門貴武書狀 福井源次兵衛宛
正月七日

一通 三七

福井十郎右衛門貴武返書狀〔変名之事〕
福井源次兵衛宛 一〇月二三日

一通 二六

福井甚五兵衛母詮書狀 福井市郎兵衛宛 一〇月六日

一通 二五

某書狀 正月一〇日

一通 二五

女文〔年始狀〕

一通 二四

福井氏勤役

勤役一般

*秋元喬知直書 福井市郎兵衛清行外宛

二 繼四卷 二四

御近習役召出一件・御近習役勤向申合

一冊 二

御使役申合当用記 福井秀比

一冊 六

*加役心得集 福井秀比

三冊 六

福井重衛一代覚書〔嘉永三年—慶応二年〕

一冊 六

川越在番

取次役在番勤之覚〔享保二年—宝暦四年〕

一冊 四

早稲方小検見之節郷中諸事留帳 延享二年九月

一冊 四

郷中御用諸事留帳 延享二年九月

一冊 四

山形在番〔「國替・入部」〕

前拋集〔明和—文化〕

一冊 四

1. 在番 飛脚 都而遠方〔明和二年—安永六年〕

一冊 四

2. 頭申合 頭加役 組用雜記〔明和—文化九年〕

一冊

3. 御中陰 諸固メ 頭道中〔安永—寛政〕

一冊

4. 昇進 称美 組抱 御入人 諸書出シ 看抱〔明和—寛政〕

一冊

5. 小頭

一冊

6. 家族 拜借 久離 組之者身分 組厄 介 御捨扶持 都テ勤向江不抱ヲ出ス

一冊

7. 口留 津留 諸番所 太鼓櫓〔明和—享和〕

一冊

8. 弓鉄炮 武術

一冊

*御広間年中行事・御寺詰心得書・勤向申合帳〔安永—文化〕

横美半

一冊

御取締方吟味掛飯目付勤書〔寛政元年—四年〕

横美半

一冊

寺社奉行準繩

横美半

一冊

1. 秘聞集〔山形藩ヨリ幕府宛伺書并御附札 写 寛政一一年—文化八年写〕 評定所御書留写〔文化一〇年写〕

一冊

2. 寺社奉行年中行事 寺院面附〔神職 共〕 祈禱料覚書その他寺社方勤覚書〔文化六年再写〕

一冊

3. 公儀御振之写 石川衛士之助 文化七年一月

一冊

寺社万年中行事 福井源次兵衛

10×9

一冊

寺社勤方

10×9

一冊

〔盗賊下男藤吉并罕拔太助一件調書綴〕 〔天保一〇年—同一二年〕

半

一冊

館林在番

三

寺社年中定式之覚 福井清成 弘化三年(安政二年)亨 横長半 一冊 五

寺社年中行司覚 福井清成 弘化三年七月(安政二年)亨 横長半 一冊 云

寺社月番日記扣 福井清成 (安政二年六月一日(一八日)) 横長半 一冊 七

寺社方日記扣 福井清成 (安政二年九月一日(二七日)) 横長半 一冊 六

組支配

組用日記集 (正徳五年—延享年間) 美 三

1. 御当家御者頭始之事 附古米ヨリ者頭役之事 江戸川越諸番所条目之事 小頭役神文并組之者出役神文之事 小頭并組之者御切米之事 一冊

2. 地方火之番仙波番之事 弓鉄炮稽古之事 御用ニ付江戸増人之事 小頭并組之者 御用ニ出役事 小頭組之者類焼拝借之事 組之者遠慮并不時之變之事 一冊

3. 被仰出之事 附組抜立身之事 小頭江申渡之事 附在郷并地廻り出入之事 江戸川越同役申合之事 附定番願済之事 一冊

手組明細專要書 全 (元文—明和) 一冊

(組御用勤方書拔) 宝曆六年亨 美 半 三

1. 定番一件 遠慮閉門 病人病死 足輕抱一件 郷抱一件 在番一件 御用ニ付江戸増人 御飛脚一件 遠使中使 一冊

2. 弓鉄炮稽古并褒美 穀切米加増 切米渡方 御褒美 頭ヨリ亭物 贈答 小頭勤方 小頭取扱 諸頭一件 一冊

記録

3. 新役物頭引渡之節一件 一冊

4. 御入部御帰城 水川祭礼 仙波御用御巡見御蔵改 寺院江御朱印渡一件 天神開帳 一冊

御者頭役被仰付手組引渡迄一件 附組引渡抜書・新役心得 (安永—文化) 文政一〇年堀内重定亨 半 一冊 五

(組勤番覚) (仙波火之番 地方火之番 夜廻一件 郷中捕物 右類 古例 不時御用 役用申合 月番覚 組用申合) 半小 一冊 七

軍書

増益鏡三図鏡鈔 全 美 半 一冊 七

(軍装考証書類)

1. 馬上甲 臙当 一冊

2. 騎練甲 臙当 一冊

3. 太鼓 全 一冊

4. 各術時練 手先甲并各板手鎧 一冊

5. 時精術 時戰の具 一冊

6. 時練胄 袖 一冊

7. 練術各 実甲之披うす鉄胴 一冊

8. 九弄口伝 一冊

9. 神胄各 小具足 一冊

10. 歩行各 臙当 一冊

11.	弓各精 半首	一冊		4.	十七 船軍 十八 夜軍	一冊	
12.	六具精術 毛引の法	一冊		5.	十九 地戰 廿 軍旅	一冊	
13.	六具巧術 客つくりの法	一冊			清伝志書	一冊	七
14.	変弓各 喉輪 高義末風	一冊			武門要鑑抄 全二〇卷	三冊	八
15.	変弓各 喉輪 中祖の精	一冊			武門要鑑抄伝記 全	一冊	九
16.	神精術 面具	一冊			要鑑抄聞書 寛保二年夏写	一冊	六
17.	時精胄 小具足	一冊			国政伝	一冊	六
18.	各術 手先甲	一冊			武者帶覚書 (三冊之内当式) 戸部先生	二冊	六
19.	各法術 手先甲	一冊			軍礼覚書 (延享二年写)	一冊	三
20.	精左各 面各	一冊			術法	一冊	四
21.	精意各 実甲術	一冊			戦格異同 延享四年岡村英登写	一冊	五
22.	精術各 実甲	一冊			忍緒七種口決 全	一冊	六
23.	各練甲 時各甲 前弓	一冊			祈禱鳴絃	一冊	七
24.	古精各 輪帽子	一冊			要門城矩之卷 [城取秘伝書]	一冊	六
25.	精備甲 時精術 三弓	一冊			軍配宝鑑真銚卷	一冊	九
26.	精各甲 時練術 三弓	一冊			軍礼祭礼之卷	一冊	八
27.	精正各 釣順	一冊			要門別条鑑 (延享四年福井隆兼写)	一冊	二
	首実検之卷	一冊	美 半小・横半半		要門武者帯	一冊	三
	要門聞書 (寛保元年二月)	一冊	美 半小・横半半		要鑑綱目 全 (延享四年小允明字義寛写)	一冊	三
1.	武侯伝 号令(カ)伝 手組伝 内試伝	一冊			倭漢奇正軍律独士分簡	一冊	四
2.	三司令伝 四卒令伝	一冊			小筒打方五十箇条	一冊	五
3.	十一陣取 十二城取	一冊			甲陽一騎受用卷 上・下 全	一冊	六

武者行膝 全 景実 延宝七年一月

馬拾ヶ面并目光図 付馬形之書

備伝鈔 全 高松次五右衛門

要門雛形抄 天・地・人

翻白紙誓約 (雛形)

平法ヤワラ之誓紙之文言写 宇佐美彦助宛
元禄一三年七月

実録

東照宮御遺状御宝蔵入百箇条

水戸黄門光圀卿に家臣条令 (元禄三年)

武野燭談 卷十一十五

遺老 介石記 津山高任 正徳元年九月

大久保義勇伝

白川侯御心得 附田沼山城守殺害一件 水戸治
保撰 慶応二年福井重衡写

集本之写 全 (白川侍従定信公御家中江被仰渡一
件 寛政元年・寛永元年日光山御造宮従公儀相渡
候御書附并御定目)

大坂奉行組与力大塩平八郎落文大坂珍事

附 上州大戸於御関所国定村忠次郎礫相成り捨
札之写 薩州并琉球国江異人共軍船漕入合戦
之始末書上相成り書付写

幕末風聞

(相州浦賀表江北重墨利加合衆国書翰ヲ日本
帝殿下ニ呈シ度渡来之砌模様之写并風聞)
全 (嘉永六年一同八年)

(桜田一件聞書) (万延元年閏三月三日)

下座見書上・御沙汰書写 風説書写共 文久二
年

水府 筑波 諸浪士主意書 (元治一慶応二年)

元治元甲子年京師一件 (文久三以降)

詩文・随想その他

穀音集 上・下 蘭翁編

(塵塚) 高松仲炳集 延享二年写

当世殿中加文字法式 永井義淳・井上忠直

嫁取婿入之書 小笠原貞慶

和漢香之記

藩主秋元家

秋元氏家系

(秋元家系譜) (元景以降) 寛政二年八月

(秋元氏歴代覚)

秋錦録 (深秘録) 新井正信 天保三年三月

藩主言行

濟川院様御遺訓 正徳四年八月八元治元年福井
重衡写

(濟川院様御遺訓写) 享保一三年五月八元文三
年写

若殿様御額直御式 御小納戸御覺役勤方共 文化四年九月一六日	半	一冊	三	寺町勘秘問集	半	一冊	七
若殿様御額直御当日御略式	半	一冊	壹	1. 自卷之一至卷之五〔天明二年―同八年〕		一冊	
*秋元喬知直書 福井市郎兵衛清行外宛	二	繼四卷	四	2. 自卷之六至卷之十〔寛政元年〕		一冊	
*御広間年中行事・御寺詰心得書・勤向申合覚 帳〔安永―文化〕	横美半	一冊	六	3. 自卷之十一至卷之十四〔寛政元年―同三年〕		一冊	
○				4. 自卷之十五至卷之十六〔寛政三年―同四年〕		一冊	
天保十一年南千束原追鳥狩之記	美	一冊	三	5. 自卷之十七至卷之二十〔寛政五年―同六年〕		一冊	
国替・入部				6. 卷之二十三〔寛政二年〕		一冊	
久朝公御隠居 御触留 天保一〇年正月 志朝公御家督 御触留	横半半	一冊	元	7. 卷之二十四〔寛政二年〕		一冊	
御入部御規式并御流頂戴之覚 安永四年二月 二七日―二八日	半	一冊	元	8. 〔享和二年〕		一冊	
山形御城請取方一件覚〔明和五年カ〕	美	一冊	四	公儀御振合之写	半	一冊	一四
幕法				寺社取扱秘問集	半	一冊	三〇
御定書 全〔享保七年―同一三年〕	半小	一冊	四	寺院取扱方退院追院等之仕方 阿部駿河守内 玉井左兵衛伺 安永九年五月	半	一冊	四
規矩元録 元・貞	美	二冊	三	公政秘証 完〔寛政三年―同六年〕	半	一冊	三
御定書 全 水野対馬守・石川土佐守・牧野越中 守 寛保二年三月改	半	一冊	九	町奉行御手鑑書拔 完 寛政二年 福井重憲写	横美半	一冊	元
御定書百ヶ条 寛保二年三月二七日	美	一冊	〇	公儀勤役			
御沙汰書書状并町触写	美	一冊	二	*秋元喬知直書 福井市郎兵衛外宛	二	繼四卷	一四
1. 自天保一二年四月至同一二月				越後国高田城請取日記〔天和元年〕	半	一冊	四
2. 自天保一三年正月至同年一二月				宝永六年五月カ九月迄秋元但馬守入洛御滯京 中之記 宝永六年九月八享保六年八月写	美	一冊	五
3. 自天保一四年正月至同年一二月				〔仙波御宮正遷宮二付御名代大友近江守様御 参詣記〕五月	美	一冊	六
				御勤書 全〔明和六年―安永九年〕	横半半	一冊	六

一通 二八

美

横長半

横長半

横長半

 10×9

(西丸大手御門番持場絵図面)

橫美半

横美半

1. 壳
元禄十五年 同十六年 宝永
元年 同二年 同三年 同四年

2. 式

宝永五年	同六年	同七年	正
徳元年	同二年	同三年	同

3. 参

4. 四
 十年 享保七年 同八年 同九年 同
 同十一年

5. 五
享保十二年 同十三年 同十四年
同十五年 同十六年 同十七年

6. 六
享保十六年 同十七年 同十八年 同十九年 同二十年

一冊

冊

冊

— 冊

一冊

4. 明和元年 同二年 同三年 同

明和五年 司
六年 司
七年 司

6. 1935年

拾七 安永四年 同五年 同六年

19. 拾九
天明元年 同二年 同三年 同四年

20. 貳拾 天明五年 同六年 同七年 同

廿七	寬政元年	同二年	同三年
----	------	-----	-----

廿三 寛政七年 同八年 同九年

24.	廿四	寛政十年	同十一年	同十二年	一冊
25.	廿五	享和元年	同二年	同三年	一冊
26.	廿六	文化元年	同二年	同三年	一冊
27.	廿七	文化四年	同五年	同六年 同七年	一冊
28.	廿八	文化八年	同九年	同十年	一冊
29.	廿九	文化十一年	同十二年	同十三年 同十四年	一冊
30.	三十	文政元年	同二年	同三年	一冊
31.	三十一	文政四年	同五年	同六年	一冊
32.	三十二	文政七年	同八年	同九年	一冊
33.	三十三	文政十年			一冊
34.	三十四	文政十一年			一冊
35.	三十五	文政十二年			一冊
36.	三十六	文政十三年	(天保二年享)		一冊
37.	三十七	天保二年	同三年	同四年 同五年(天保九年享)	一冊
38.	三十八	天保六年	同七年	同八年 (天保九年享)	一冊
39.	三十九	天保九年	同十年		一冊
40.	四十	天保十年	同十二年		一冊
41.	四十一	天保十三年	同十四年		一冊

内桜田 松野幸右衛門・山形番頭方

1. 見出惣目録之内 御門出入一件并乗輿御供連 松野幸右衛門 天保七年九月

横美半

三

2.	見出惣目録之内 火事地震一件・御吉 凶御出仕・御能一件・水死一件 松野 幸右衛門 天保七年九月	一冊
3.	老 内桜田御門諸絵図	一冊
4.	式 諸絵図・御書付之写	一冊
5.	三 御書付写・御定書写・御口上御断 写	一冊
6.	四 元禄五年―宝永二年	一冊
7.	五 宝永五年―享保四年	一冊
8.	六 享保五年―十六年	一冊
9.	七 享保十七年―寛保三年	一冊
10.	八 寛保四年―宝暦五年	一冊
11.	九 宝暦六年―明和四年	一冊
12.	十 明和五年―安永八年	一冊
13.	十一 安永九年―十年閏五月廿五日	一冊
14.	十二 天明元年閏五月廿八日―六年	一冊
15.	十三 天明七年―寛政元年	一冊
16.	十四 寛政二年―同三年	一冊
17.	十五 寛政四年―同七年六月十一日	一冊
18.	十六 寛政七年六月十二日―同十二年	一冊
19.	十七 享和元年―文化二年	一冊
20.	十八 文化三年―同七年	一冊
21.	十九 文化八年―同十三年十二月廿一日	一冊

22.	二十	文化一四年—文政四年	一冊	八
23.	廿一	文政五年—同九年	一冊	
24.	廿二	文政十年—同十二年	一冊	
25.	二十三	文政十二年—天保四年六月十五日	一冊	
26.	廿四	天保四年六月十五日—同六年	一冊	
27.	廿五	天保七年—同八年	一冊	
内桜田御番所日記(後欠) 享保一五年正月三日—二日				
			一冊	六
内桜田西丸大手御番所御勤番中覺帳 [寛政二年以降] 書役方 寛政九年六月				
			一冊	五
西丸大手日記 秋元御番頭書役				
			一冊	七
1.	自文政九年六月十四日至十二月廿九日		一冊	
2.	自文政十一年六月十四日至十二月廿九日		一冊	
3.	自天保二年正月元日至三月八日		一冊	
4.	自天保十四年正月朔日至七月朔日		一冊	
5.	自天保十五年六月十一日至十二月晦日		一冊	
6.	自弘化二年正月一日至六月十三日		一冊	
7.	自嘉永五年正月元日至二月晦日		一冊	
8.	自安政四年九月十三日至五年二月廿二日		一冊	
内桜田日記 秋元番頭方				
			一冊	八
1.	自万延元年八月十四日至十二月晦日		一冊	
2.	自文久二年十一月廿一日至十二月廿九日		一冊	

下馬御作法固心得 文化一五年秋元番頭方嶋田良尚亨				
			三冊	五
(柳営図)				
			一鋪	二五
家中				
			一冊	四
返番小普請先例 一 御番頭				
			一冊	三
(秋元家譜代録)				
			一冊	四
從川越御供之者面附 文化四年二月				
			一冊	三
1.	堀内欽右衛門組		一冊	四
2.	黒子権太夫組		一冊	三
3.	福井三四郎組		一冊	三
4.	長山市郎左衛門組		一冊	三
5.	石川衛土之助組		一冊	三
6.	岡谷五左衛門組		一冊	三
7.	岡谷三太夫組		一冊	三
8.	石川保兵衛組		一冊	三
惣社以来御譜代潰家留写 文久二年八月福井清成亨				
			一冊	三
公儀 御名并從古来同役名寄 文化一三年(弘化五年改)				
			一冊	三
(物頭山藤権六親類書) 四月二日				
			一通	二〇
(高木恵介正純親類書) 蔭山弥次衛門宛 戊午四月七日				
			一通	二二
小島庄九郎親類書 六月				
			一通	二三

常陸国
土浦 土屋家文書目録解題

文書の伝来と特色

文書の 本文書は、昭和二九年と同三六年兩度に、茨城県土浦市小松月見台六一二 土屋^{ただ}尹直氏より、書店を通じて当館が譲渡を受けた伝 来 ものである。土屋氏のご教示によれば、右同地内に、土屋家「宝物殿」（あるいは「宝庫」とも称した）が昭和五年に建てられて、それまで東京市渋谷区穂田の東京屋敷にあった文書・記録類がここに移管されたという（正確な月日不明）。本文書のほとんどは、右の土屋家宝物殿に格納されていたものであるが、このほかに若干伝来を異にするものも含まれている。

一は、土屋氏と関係の深い土浦市三ツ輪銀行（のち常陽銀行に合併。なお後述）常務（当時）故武川忠作氏が趣味的に収集した土屋氏および土浦藩関係史料で、本文書中に数点、同銀行印もあるのが含まれているのはそれを示している。二は、土屋家中大久保氏作成・伝蔵と推定されるものである。この間の詳細な事情については、後の「大久保家文書」解題を参照してほしいが、その中心部分は、土屋寅直大坂城代勤務のころに公用人を勤めた大久保要が作成に関与したものである、幕末政情・外国事情・異船渡来および若干の大坂湾警備関係史料である。右の関係史料のうち、本来大久保氏作成・所蔵史料でありながら土屋家宝庫に移管・整理中に「土屋家文書」に混入してしまつたと推定されるものでも、あえてこれを「大久保家文書」に返戻せずにそのまま「土屋家文書」の一部として、後考にまつことにしたものである。目録本文で当該史料の整理番号上部に、「D」の記号を付してその伝来上の区別を明らかにした所以である。それらの史料

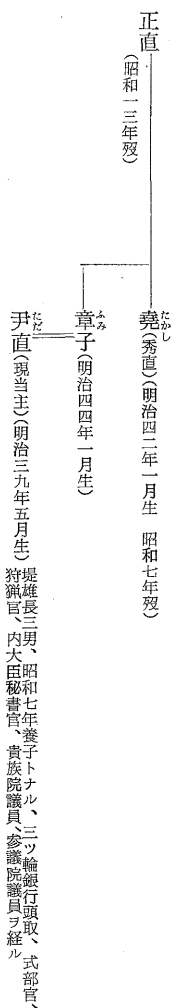
は、本来「大久保家文書」中の関係史料と一連のものであると思われるから、利用に当ってはこれを相互に関連させる配慮が必要である。

文書の特色 右に述べたごとく、本文書の本体は常陸国土浦に城地を持つ九万五千石の譜代大名土屋氏伝蔵の史料であるが、原蔵地が江戸Ⅱ東京であることから推定できるように、その主体は大名としての土屋氏の家に関するものであり、いわゆる藩政史料はきわめて少ない。しかし、旧大名家の史料が明治以後の公務・家政におよぶまで系統的に収録されたものとして、本文書の研究利用上の価値は高い。

つぎに、土屋家が徳川家譜代大名であるだけに、本文書には多数の幕府作成史料あるいは幕府との往復文書が収められ、その在りかたは、すでに本目録第四集・第十二集などに収録した阿波峰須賀家・陸奥津軽家等の外様大名家文書といちじるしく様相を異にしていることが指摘できる。さらにそのことと関連して、本文書には、土屋氏の公儀御役勤関係の史料——とくに奏者番・寺社奉行・大坂城代などに関するものがかなりまとまったかたちで収められていることも特記しておく必要がある。歴代藩主の自筆日記は、そのなかでも量・質ともに本文書の特質づけるものの一つといえよう。

以上本文書の特色を三点にわたって指摘したが、代表的な譜代大名家文書の一つとしてその研究利用上の価値は右三点に尽きないものであることはいうまでもない。なお後頁に掲げたのは、旧土浦藩公用人・権大参事を勤めた大久保親正の作成した土屋家略系表である。史料検索に至便なもので、一部補訂して掲げた。

史料の検索に直接必要でない範囲の土屋家系図・系譜の掲載は、これを省略した。正直以降の略系図は次のとおりである。



関連史料 前述のように、本文書の主体は土屋家に関する史料であり、いわゆる藩政史料はきわめて少ない。

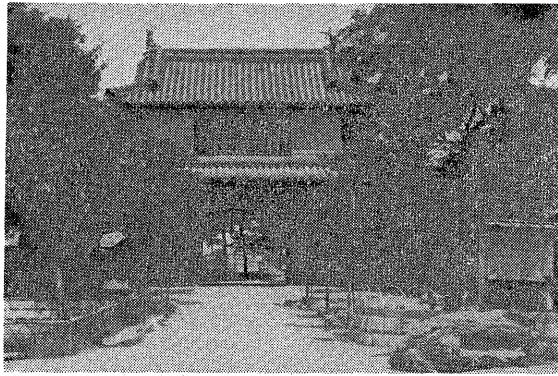
について 土浦藩は明治四年七月一日土浦県となり、同年十一月一日に新治県に統合され、さらに同八年五月に茨城県に吸収されるの

であるが、土浦藩政史料の主要なものは恐らく新治県に引継がれ、のちにさらに茨城県に引継がれたと推定される。「亀城会報」七号所載、

武川守蔵「旧土浦藩の制度其他に関する貴重の資料引継目録」によれば、明治五年二月付の元土浦県庁宛新治県諸書其外受取目録があった

ことがわかり、右目録全文が同誌に掲載されている。その内訳約一、〇四〇冊・六二袋・五〇通等で総点約一、二〇〇点に達している。これらの史料はその後茨城県庁に引継がれていたと推定されるが、昭和二〇〜二一年ごろに、他の多くの同種史料とともに茨城県庁において焼却処分されていて、今日その姿に接することはできない（茨城県史編纂室の調査による）。

なお煩を避けて本目録では一々註記しなかったが、『日記』関係の写し物、『御役儀』の書冊（写）等のかんりの部分には、「土浦記録方」の蔵書印が押されており、恐らく一部は幕末から、大部分明治初年の土浦藩政時代にかんりの筆写とその整理作業が進められていたのではないかと思われるが、土浦藩時代の記録に詳細が記載されていないので、この点の究明は後日にゆずりたい。また、若干の史料奥書には、「土浦大監察方」に現蔵されている史料を写したことを断わっているので、明治初年に土屋家において写を作成したことはまちがいないが、この事情もいま判明しない。この点も後考にまちたい。



土浦城太鼓門

次に、土屋尹直氏所蔵のものとしては、「系図」二巻、「御系譜」（美帳）一冊、「御系図」（半帳）一冊、「芙蓉之間絵図」一舗の合計五点の史料がある。このうち「御系譜」は正直の事蹟までの記事があり、とくに寅直以降の系譜としては最も詳細かつ正確なもので、本

〔常陸國土屋家略系表〕

旧土屋家中大久保親正作成
(大久保家文書 56)
一部補訂

凡例

1. 2. 4.3.

△内は補訂したことを示す。補訂は文書利用に
△必要は範囲にとどめた。
△原史料では「御隠居」は「御奥方」と「御逝去御寿」
の間に並べたが、ここでは印刷の都合上「御家督」
の次に並べて配した。
△官名最初の項は叙爵の年に同じ。
△加△は加役を示す。

御歴代	御父	御母	御誕生	御叙爵	御奥方	御逝去	御諡号
御次男 初定直	忠直公	正覚院殿	慶長十三戊申年 辰之助 采女 大和守△從五位下△ 但馬守△慶安元・十・ 侍從△寛永十・十二・二 十九	寛永元甲子 十二月廿八日△若 寛文二・二・二十二△ 元和五己未年始テ 大猶院殿 御附被 仰付	老 寛文五乙巳十二月 廿三日 雲松院殿 貞享三丙寅二月三日	延宝七己未四月三日 七十二歳	寛翁 融相院殿 道智
御長男	数直公	数直公	寛永十八辛巳二月五日 左門 能登守 相摸守△寛文五・十二 △侍從△四位下△ △貞享二・十・六△	万治元戊戌閏 十二月廿八日 延宝七己未五月十日 享保四己亥五月廿八日	老 貞享四丁卯十月十三 △奏延宝七・九・十三△ △詔延宝七・六・十五△ 所日 城貞享元甲子七月十日	享保七壬寅正月十六日 八十二歳	俊翁 徳相院殿 道耆
政直公	雲松院殿	政直公	元禄八乙亥 十二月十一日 左門 左京亮△從五位下△ 但馬守△享保八・二・ 十六△	宝永六己丑三月七日 享保四己亥五月廿八日	△奏 享保八・三・廿五一同十 三・二・一△ 類子 水野出羽守忠周女 獻寿院殿 享保六辛丑十月十九日 水野同上二女近子 法輪院殿 享保十五庚戌三月八日	享保十九甲寅 正月十六日 四十歳	頭庇 靈鷲院殿 瑞英
御次男	陳直公	陳直公	享保十七年壬子六月二 十日 左門 能登守	延享四丁卯 十二月廿九日 享保十九甲寅三月九日	奏 享保十庚申正月廿八日 寺△加△ 明和六丙子十月朔日	安永五丙申五月廿日 四十五歳	厳性 本覚院殿 道義
御長男	篤直公	篤直公	宝暦十一辛巳五月廿二日 辰之助 左京 相摸守△從五位下△	安永五丙申 十二月十六日 安永五丙申七月十六日	安永六丁酉三月六日	十七歳	彰善 俊良院殿 惟頭
壽直公	惠教院殿	勢智院殿 秋元臣和田氏					

御弟 泰直公	篤直公 御次男	千寿院殿 家臣 豊田氏	明和五戊子三月十三日 健次郎 能登守△從五位下△	天明三癸卯 十二月十八日 安永六丁酉九月十三日	奏 天明七丁未三月十二日	太田備中守資成女 正子 深心院殿 寛政二庚戌九月廿日	寛政二庚戌五月十二日 二十三歳	善 純徳院殿 義信
御弟 英直公	篤直公 御三男 深心院殿	△千寿院殿△	明和六己丑 十一月廿九日 保三郎 主税 但馬守△從五位下△	寛政二庚戌 十一月廿七日 同年 五月廿三日	奏 寛政十戊午六月十九日 △一孝和元十十一△	阿部伊勢守正倫女 定子(カ) 円光院殿七月二日 松平左兵衛督重村 女祥子 寿相院殿正月十日 天保七丙申	享和三癸亥八月十二日 三十五歳	助山 英哲院殿 義功
御長男 寛直公	英直公 寿相院殿		寛政七丁卯九月九日 保三郎 左門△稱文化六十二△ 五△	享和三癸亥十月四日		文化八辛未十月二日 享文化七庚午 十月十五日	十八歳	徳倫 祥善院殿 元良
御養子 彦直公	水戸 治保卿 御三男	専称院殿 △治保妾△石黒氏	寛政十戊午五月廿八日 治三郎 相摸守△從五位下△	文化九壬申 十二月十六日 同八辛巳十一月廿三日 天保九戊戌十二月七日	奏 文化十四丁丑九月十日 △太保六・五・二・八△ 寺△加△ 文政十一戊子十一月朔 日△一太保五十二・二 十二△	寛直公御養女実御 妹充子 充信院殿 弘化三丙午十二月三日	弘化四丁未七月廿三日 五十歳	道普洽山 賢相院殿 松翁
御長男 寅直公	彦直公 充信院殿		文政三庚辰二月廿四日 多仁丸 采女 采女正△從五位下△ △嘉永三從四位下、明 治十八正四位、同二十 四從三位△ 楊軒	天保八丁酉八月廿五日 同九戊戌十二月七日 明治元戊辰五月十六日 (六カ) 明治廿八年十一月廿日 正三位 (廿九カ)	奏 天保十四癸卯 十一月晦日 同元治元甲子九月十日 寺△加△嘉永元戊申正月 廿三日見置 △加△同年十月十八日 本役 元治元甲子九月十日再 城 嘉永三庚戌九月朔日△ 一安政五・十・廿六△	有馬女蕃頭頼徳女 竹子 竹窓院慈林妙照 明治卅一年三月廿八日	明治廿八年十一月廿九日 七十六歳	楊軒 太亀院殿 寅直
御養子 挙直公	水戸 斎昭卿 御十七男	貞芳 △仁科氏△	嘉永五壬子九月十九日 余七磨 相摸守△從五位下△	明治元戊辰五月十六日 同年五月六日	△宮内省・内務省 ・農商務省出仕△ 明治廿八年十月廿一日 東宮職出仕 明治四十年 月 式部官	大河内輝聡四女光 子 真機院殿 明治三十四年十二月	明治廿五年十月廿四日 四十一歳	貫山 高林院殿 挙直
正直公	挙直公		明治十四年 一月廿八日	明治廿五年 十一月廿六日		徳川達孝二女穀子 タネ		

文書に収められた系譜類の欠を補なつて充分なものがある。同氏のご好意によつて寅直時代について電子複写による複写本一部を作成し、参考のために本文書の末尾に収めたので利用されたい。

大阪市立図書館所蔵
大坂城代土屋氏御用留一覽

標 題	年 代	大 (縦×横cm)	丁 数
御 先 用 日 次	嘉永3年10月～4年正月	23×16	7 6
大坂城代被仰付江	" 3年11月～4年正月	"	4 7 4
戸出立迄之覚書	" 4年2月～ 4月	"	5 5 2
御 用 留	" 4年5月～ 8月	"	3 8 0
"	" 5年正月～ 閏2月	"	4 5 8
"	" 5年3月～ 5月	"	4 2 3
"	" 6年5月～ 8月	"	5 1 0
"	" 6年9月～ 12月	"	6 0 0
"	安政2年正月～ 3月	"	4 5 8
"	" 2年8月～ 10月	"	4 1 3
"	" 3年正月～ 4月	"	5 8 6
"	" 4年正月～ 3月	"	5 9 7
"	" 4年10月～ 12月	"	3 7 3

(大阪市立図書館 古西義磨氏の調査による)

次に、土浦市立図書館に、旧土浦町東崎問屋の関連史料として「内田甲子男氏旧蔵図書」が架蔵されており、藩政関係史料としては比較的まとまったものである。このなかには、明らかに土屋家旧蔵史料と思われる幕政関係のものが数点収められているが、内田家への伝来経由は明らかでない。また「土屋藩政資料」は、大部分土屋家および土浦藩作成・旧蔵と思われるものおよびその写本類約一一〇点を収めており、とくに幕末期の土屋氏の動向を窺いうる史料が多い。その大部分は土浦図書館において各方面から随時寄贈・譲渡を受けたものである。「望月茂氏旧蔵図書」約五〇点は、主として土浦関係の人物に関する記録を収め、「色川文庫」とともに貴重な研究資料を提供してくれる。

さらに、大阪市立図書館には、嘉永三年一〇月から安政四年一二月までの土屋寅直大坂城代期間中側日記が架蔵されて

いる。(前頁表参照)。本文書に欠けている期間がちょうどこれに該当しているわけであり、その利用上の価値はきわめて高いものである。(なお、同図書館に架蔵されるにいたった経路は、いま明瞭でない)。他の所蔵機関等の関連史料については、断片的でもありその記述を省略する。

文書の表題について

本文書に含まれる、主として幕府作成文書およびその関連史料の表題については、原則として原題あるいは慣例を尊重しつつも、整理・分類の便宜上、その表題呼称の統一を試みたものが若干あるので、以下主要なものについて説明を加えておきたい。(以下、本書収録文書の解題文中において、『』内はすべて目録本文の項目名を示す。このうち、大項目はゴチックで、また中項目は圏点「。」を、小項目は傍点「・」を付して区別した。)

老中返札 「返札」は『領知』・『御祝言上・献上』・『家系』等の項に最も多いもので、通例「御状令披見ゆ」に始まり「紙面之趣、可達上聞と奉書ゆ(あるいは可及言上ゆ、各一覽之事ゆ、令承知ゆ)」に終る老中(月番・筆頭、あるいは連名)の、花押・日付のある書状形式の文書

である。献上関係のもので「御状云々」の書出しがないものも、本来土屋家よりの披露頼状(使札)があるのが普通であるからこの中にすべて含めてある。「側用人返札」・「御側衆返札」・「若年寄返札」も同種形式のものである。目録本文では、すべて表題の下に「」を入れ、その中に土屋家差出し書状の用向の内容を摘記した。いちいち「――への返書」と記す煩を避けるためである。この点に留意されたい。

本目録で老中返札とした史料については、土屋家においてなされた文書整理の結果作成された包紙上ワ書、および歴代藩主「日記」においては、すべて「御奉書」と称しているが、ここでは「奉書」は、当面できるかぎり厳密な奉書形式をもつものに限ることにして、あえて

これをすべて「返札」とした。但し、城郭普請等に関するもので「上意如斯い」、あるいは「参府い様にと被仰出い、依之呈奉書い」などあって、その形式が奉書の性格に近いと思われる史料についてはしばらく「奉書」と呼称することにした。両形式の判別基準は、今後なお厳密に検討さるべきであろう。両形式とも折紙が通例で、初期のものは堅紙も使用することが多いが切紙は含まない。なお献上に対する奥向からの返札は、土屋家の整理表題を尊重してこれを「老女御奉文」と称した。

老中御書 附 土屋家の文書整理による包紙上書⁷には「老中御切紙」とあり、かつ藩主日記には「御奉書」と見える史料で、本目録では「老中御書附」と称したのも、数量がきわめて多い。(この場合の「御切紙」は、正しくは「御切紙之奉書」なのであろう。)

老中が大目付・奏者番・寺社奉行等の下役に対して役儀上発する、一般に御達・御触などと呼ばれているものもここでは「老中御書附」(ただし、この場合は写物が多いので「老中御書附写」と称した)の名称を冠したが、土屋氏に宛てた命令的文書で右の表題をとったものの数量が最も多い。これは、役儀に関わるものと、身分にかかわるものの二つに分けられる。本目録であえて「御切紙」の呼称を採らなかったのは、もっぱら、ここでの形態上の区別は史料検索上混乱を生ずると考えたためである。本文書は通常切紙で花押はなく、ときに本紙には差出人の名が記されないこともある。宛名は本紙右端か端裏に「殿」付けなしに書かれることもあり、本文末に置かれるとは限らない。

「老中御書附」のなかで最も多いのは登城召状である。このうち役儀御用召に関して嘉永三年の例をみると、御用番阿部伊勢守から、城中において御城坊主をもって渡される(包紙の連名順は伊勢守が筆頭、本紙は末尾)。嘉永三年寅直「自筆日記」(375)によれば、寛政度は日光御暇奉書は城中では渡されなかったが天保一三年には御城渡になったという。但し「身分之儀ニ付而之御奉書者於営中御渡ニ者不相成」とある。受け取った奉書は直ちに自宅へ「為持、掛寺社役之場ニ而用人兼藤田勇江書下ケを遣ス。御請伊勢守殿御宅江留守居使者を以差出ス」のが通例である。役儀関係のものには用向・刻限を具体的に記さないものも多いが、身分に関わるものは、参府・家督・婚礼・病

後御札などと具体的に内容を明示したものが多く、身分に関わるものは通常老中私宅渡しで、御内書渡も私宅で行なわれるが、御内書渡と奉書渡が同時に行なわれるときは、前者の場合は「老中御書附」（単記）が藩主宛に、後者の場合は老中家来名で「老中家来口上書」が土屋家来（留守居）宛に、各一通宛渡されることがある。後者の場合は、「一備中守申云々」のごとき表現をとる。

「老中御書附」のなかで次に多いのは、御門番任命に関するもので、折紙の形態も多い。一般的な形式を左に掲げる。

内様田御門番戸田因幡守代被仰付間、本多中務太輔被相談可在勤仕、已上

（連名）

六月十六日

土屋 但馬守殿

さて、以上のような内容をもつ「老中御書附」を、土屋家による文書整理の表題および歴代藩主日記さらには『目録・入記』所収の諸史料において、かなり多くの場合これを「御奉書」と称していることは前述のとおりである。老中自身においても「御奉書渡」なる呼称を使用しているだけでなく、当時かなり一般に、老中が大名宛てに発する公的・儀礼的文書に対して、御奉書の呼称があったことは否定できない。右のごとき文書をすべて御奉書と称する理由あるいはその背景については十分な考慮の価値があるうが、諸書を参看するにその形式・内容ともに多種多様であり、慣用的呼称の存在の事実を理由としては、ただちに文書整理上右の呼称を採用することは適当でない。本目録においては、当面右の理由から奉書の呼称範囲は極力狭くし、他日、近世文書について厳密な表題の基準が定められるまで、土屋家文書においても「奉書」と併用して使用されることの多い、「老中御書附」の呼称を採ることにしたものである。

使用例あるいは慣例があることのみをもって直ちにその表題を採らなかったのは、「老中下知状」に関する場合も同様である。『大坂城代』

の『例書』の項にある、寛文二年「網吉黒印状写」には、その本文末尾に「具載下知状者也」とあり、これをうけた老中連署の条目定書に「仍執達如件」とあって土屋家においてもこれを老中下知状と称しているし、大坂城代先役諸大名家の勤書類（例えば引継目録）においても下知状・奉書等の呼称は用いられている。既刊の編纂物等にも、必ずしも用例がないわけではない（例えば、石井良助編『近世法制史料叢書』所収「武家嚴制録」、「御当家令条」など）。しかし、ここでも、直ちに在来の古文書学上の用語として定型概念化された下知状（あるいは奉書）の名称を冠することは史料検索上混乱を招くと考え、他日適当な呼称が見出されるまで本目録ではしばらく「老中御条目」（あるいは「御書附」・「返札」等）と呼ぶことにしたのである。しかし右のように、江戸時代にその用例がかなり一般化し公式にも使用されていた事実是否定できないので、近い将来においてそれらの原題を採用して近世古文書学上の史料表題（呼称）を付することは当然必要になって来るであろう。以上の諸点については、この解題の性格上詳論は避けて今後の検討に譲りたい。

伺書御 土屋家が差出した伺書に、老中または勘定奉行・寺社奉行等が、命令・許可・意見等の内容を持った返答を附札として貼りつけ

附 札 た史料は、原則としてこれを「〔内巻ニ付伺書御附札〕」とし、下方の註記に作成者と宛名を示した。但し、老中が附札を作成している場合は通常作成者はこれを省略し、それ以外のときは、できるだけ勘定奉行某等と役名・人名をつけて老中作成のものとの相違を示すことにした。また、伺い者が土屋家家来である場合は、「〔内巻ニ付土屋家家来（人名）伺書御附札〕」とした。「土屋家家来」は省略した場合は多い。家来伺いであるが、老中が大名家の家来宛に直接返書を出すことは少ないので宛名の場所に置くことを避けたのであるが、この点は検討の余地があらう。本目録での一応の便法である。

さて、「伺書御附札」なる表題を採った所以は、かかる史料の、文書としての最終的効力＝機能は、幕府作成の公文書としての性格にもとづいて発揮されるところである。土屋家において、「伺書御附札」として整理していることも、この表題を採った理由の一つである。

「伺書 御附札済」では、伺書に重点が置かれるのでこの表題は採らなかった。なお、「願書御附札」も、同様理由でこの呼称を採った。伺書に対して、領内百姓の質地出入等の裁き方について「内慮伺」という表現で勘定奉行などに意見を求めたものは、本文に「御問合申い」とあって土屋家において「問合書」と呼び、附札も「一哉に被存い」とやや軽い意見を述べるという感じのもので、これは「問合書御附札」とした。なお同種のものに、供揃減少につき「御聞置可被下い」と老中宛に藩主が差出したものは、簡単な届出で了承を求めた程度のものであるが（切紙、花押なし）、土屋家の整理表題を尊重して「御聞置願書」とした。この場合の附札は、通常、「承置い」と書かれる。また『吉凶・仏事』の『葬儀』396の例のように水戸宰相通棺のさい城下土手門前で拝礼したいという伺書に対して別紙で発された許可書も、同様理由で、当面、「伺書御書取」とした。

その 以上挙げた諸例は、多くの場合、「書状」・「日記」等と同様、当面仮表題であってもとくに（ ）を付さずに表記したものである。その他、本目録ではとくに次のような表題を（ ）表記なしに採用している。主要な例を掲げる。

「老中御書附」をうけて奏者番・寺社奉行・大目付あるいは目付等が土屋家に宛てた文書は、随時、「御書附」・「御達」と称した。御法事奉行衆等が勤仕済みあるいは晨朝・万部経済み等の事項を老中に報告し、「御序之時分右之通可被仰上い」と結ぶ文書、寺社奉行が老中に宛てた出火届・（様子）報告の文書等は、「注進状」と称した。役儀上の上申・報告の「進達書」、非番者への当番からの「廻状」、同役・上役への「口上書」、役人としての勤務報告である「勤書」等は通常使用されるものであり、役儀上の先例書留類は、随時「例書」・「覚書」・「勤書」などと称した。明治以降のものについては、大部分慣用に従い、感謝状・辞令などにはとくに（ ）を付していないものもある。なお、「一献上御太刀馬代目録 裏書済」は、「伺書御附札」等を採用した趣旨と同じ立場に立てば「一目録御裏書」あるいは「一目録請取状」などとすべきであろうが、これについては慣用に従ったことを付記する。

文書の配列と概要

配列の 利用の便宜のために、本目録に分類項目をたてて史料を配列した。全体を六つの大項目（本文では一〇ポイントゴチック活字で示した）に分け、それぞれに中項目（九ポイントゴチック活字で示した）および小項目をおき、必要に応じて小項目に細項目をたてた。

分類の基準は原則として史料の内容に主眼をおき、いわゆる内容分類方式を採った。献上関係の例でいえば、一件について登城召老中御書附・献上目録裏書済・献上伺書（願書）附札・御内書渡御書附・同上老中家来口上書・御内書・奉書（本文書では老中返札）渡老中家来口上書・老中返札等の諸史料を一括して配列した如くである。項目名も、中項目以上においては原則としてその項目内に収められている史料内容を表わす表記にしたが、『領知』関係の中項目の大部分および『日記』・『目録』・『入記』等は止むをえず慣例的な史料名表記にせざるをえなかった。以下、順を追って配列上の細部の方針について説明を加え、あわせて主要史料について若干のべておきたい。（引用史料名は略記するか、多くの場合整理番号を示すにとどめた。）

『領知』 『朱印状・領知目録』では利用の便宜のために、朱印状・領知目録↓授受関係史料↓土屋家記録の順に配列した。諸史料を総合する

知』 ると朱印状（領知目録は省略する）発行状況は別表のとおりであるが、系譜等の土屋家記録類と現存の朱印状（写）とを比較するとその記載事項には合致しない部分があるので細部について注意してほしい。各年二通とも字体や字間・冠・杓寸法の朱書補訂があり、恐らく彦直代に整理されたものではないかと思われる形跡がある。

『郷村高帳』は、寛延元年から天明七年まで末尾新田改出高計を除きすべて同一内容で、寛延四年の村替えはあるが各郡内の村数に変動はない。658は延享四年四月の領知替のときの差出控である。661（天保四年）は、頭書および奥書によれば、諸国高改めの際公儀に差出

朱印状発行状況

●=代替 ○=加増 ×=村替

年 月 日	当 主	石 高	整理番号
寛文4.4.5(〃)	数 直	○10,000	589
〃 9.8.3(〃)	数 直	○45,000	〃
貞享元.11.25(11)	政 直	○65,000	〃
元禄7.5.25(27)	政 直	○75,000	〃
〃 12.2.25	政 直	×75,000	758
正徳2.4.11(19)	政 直	●85,000	589
享保2.8.11(9.11)	政 直	●85,000	〃
〃 5.12.15(〃)	陳 直	○95,000	〃
延享3.10.11(〃)	篤 直	●95,000	〃
寛延4.3.11(18)	篤 直	×95,000	〃
宝暦11.10.21(22)	篤 直	●95,000	〃
天明8.3.5(〃)	泰 直	●95,000	〃
天保10.3.5	寅 直	●95,000	749
安政2.3.5	寅 直	●95,000	750
〃 7.3.5	寅 直	●95,000	751

註・年月日欄(〃)は文書日付と授受日付の同一のもの、他の()内は授受日付を示す。

である。なお、「朱印状」・「領知目録」は、「御内書」・「御奉書」とともに歴代藩主の在城期間中に藩主がこれを改め封印していることは「日記」および「御風干目録」・「入記」等で判明するので、『日記』および『目録・入記』の諸史料を参照して使用されたい。

『版籍奉還・廃藩置県』は『藩政』の『維新後藩政改革』と対照させる必要があるが、ここではその領主権の継続の側面を示すためにここに配列した。665では、江戸時代と支配領域が変化しているので注意してほしい。『土浦領内図』の一部は、恐らく後の巡見図の一部と関連して作成されたと思われるものであるが、一応分離してここに置いた。

したところ、同書朱書分は届出無用と差図がありその部分は届書には省いたが後の見合わせのためにこの控帳に書留めたとあり、同九年改めのときにこの部分をはじめて本文に書出している。しかしもちろん662、663の高辻帳は簡単な記載しかなく、一カ村ごとの込高・改出新田高および改出年・相給の有無・朱印地除地寺社領等の有無その他細部の事実をまとめてみるには天保四年「郷村高帳」が最も利用に便利である。なお寛政二年以前の貢租関係の記述は、669.(宝暦一二年)などでも判明するが、それ以後の史実は664.(明治三年)以外に詳細はわからない。これらについては、のちの『藩財政』で若干の補充が可能な程度

『土屋家』

本文書の中心部分に当る史料を収めている。『家系』の『系図』・『系譜』は、大体記載内容年代の始期に従って配列した。大部分は、幕府への書上の下書・案・控・写等であろう。「系譜」あるいは「系図」とあっても、実際は両者の内容を併記したものもあるが、一応原題を尊重して配列したものが多い。『同族系譜』は、官位・役儀などに関わるものも含めて、便宜上土屋氏一族に関するものをすべてここに収めた。『相統』の大部分は献上に関するもので、ほかに登城召状があるだけで手続・法令に関するものは少ない。なお、『仮養子』は、『参勤交替』に配列した。1718の領知差上の史料は、外に関連する日記その他の記録はない。『官位』の『叙任』は年代順に配列した。挙直以降は一部変更したところもある。ここでは、利用の便宜上、「御書附」・「返札」や献上関係のものは後にまとめて配列した。『授爵』・『正直授勲』は、『明治後官職』の史料と対照させて利用すべきものである。とくに寅直神道教導職時代の動向が、後の自筆日記および『家政一般』の書状類で把握できるのでこれと関連させて見る必要がある。

『日記』の大部分は、奏者番および寺社奉行の御役日記であるが、なかに私的行状および在城中記事なども含まれるので、「日記」の性格・形態上これを截然と御役儀関係と別けることは不可能であるし、しかもこのうちかなりの部分は藩主自筆原本であることから、便宜上この位置に配列したものである。全般的には御役儀関係史料および藩政史料として利用範囲はきわめて広い。

1.~323. は大部分自筆原本で、数年分ごとに疊紙に包まれて整理されている。但し、篤直加役以後の日記である36.以降の「月番中手留及日記」は、月番と非番の月を別々に写して作成したもので、両者を合してはじめて一年間の日記が完結すると思われるが、原本はいま存在しない。142.~147. 泰直日記は、原本から後年に書拔写しを作成したものであるが、筆写年代は不明である。328.以降の寅直「本加日記」および328.以降の英直「御役中日記」も写しで、ともに原本はない。但し、明治以降の寅直・挙直日記はともに自筆原本であることはもちろんである。以下、二、三の特記すべきことに触れておく。

一般に、「勤向日記」、「公私日記」、「本加日記」等と表題は違つても、内容・体裁上の大きな相違はない。「雁之間席日記」もほぼ同様である。本役ニ奏者番記事は御役以外にも城内の動靜・法令などを細大洩らさず書留めたものであるが、加役ニ寺社奉行以後には、事件ごとに評定・裁決の経過やその関連法令を収め、とくにこの関係のものでは寅直のものが最も詳しい。とくに寅直の再役後（大坂城代御免以後）日記は、各冊に日記見出し（但し元治元年一月分および慶応二年四月分はない）があり、当番役々書出しとともに利用にきわめて便利である。なお、寅直大坂城代期間中日記は本文書では欠けており、この部分は大阪市立図書館所蔵日記で補充しなければならないことは既述したとおりである。

泰直奏者番日記は寛政三年一二月迄しかないが、146.は写しであるものの二年一月〜三月三日まで記載がある。寅直日記は、寛政六年ごろ以後は月の半分以上しか記載はないが、この真意は不明である。「公私之日記」の初見もこの代からであるが、内容が身辺のリラックスした記事にわたることが多くなるのが特長といえよう。寅直日記では、慶応年間の、政情不安を反映した江戸城中の動向がかなり克明に綴られている。

在城中記事も、藩政史料として貴重なものが多い。通常在城中は、恒例礼受、本丸および二の丸検分、朱印状・領知目録御内書等改め、領内検分、家中武術稽古観閲、役替えなどの政務に関するほか、講書・墓参・遠乗りをすることが多い。この点、寅直在城中日記は内容が最も豊富で、廻村時の村々の様子・武術観閲時の家臣一人づつの成績など前代にはない克明さをもっている。

『武術・学芸』は、土屋氏に関するものに限った。『土屋邸御成一件』は、元禄七年四月一〇日、將軍綱吉が、当時老中であつた政直の屋敷を訪問した前後の記録である。右屋敷は、前年一二月四日、和田倉門前酒井鞆負佐屋敷であつたものに、金一万両が下賜されて修復を加えた御成御殿であり、同七年正月には近辺添地も与えられている。右関係記事は、510.および515.の系譜に詳し。

『明治後家政』の『家政一般』は、寅直教導職時代書状、財産・家政関係のものを配した。677.「相談役書類」は、相談役諮問要目規定・辞令・相談役記事・奉答書などが三六年まで記載されている。D118.「財産目録」は、世襲財産・三ッ輪店財産・農場財産・手許財産に分けて述べられ、678.「諮問書」は、歳入出予算書・普請・財産処分等につき諮問案および答申を綴ったものでいずれも明治年間の華族財産の実態を克明に物語る史料であろう。「家扶日誌」は、この項全体に関連する記事があつて利用に至便なものである。

土浦市には、明治三四年三月に土屋正直を行主とする、資本金一〇万円の個人銀行である土浦三輪銀行が同地方最初の銀行として設けられ、のち、これは昭和六年に資本金一〇〇万円の株式会社三ッ輪銀行に改められて以来、今次大戦中に常陽銀行に合併されるまで同地方の金融に大きな役割を果たして来たが、本項の「三ッ輪店」はその前身をなすものである。すなわち、明治四年に土屋家が、米穀水産物から日用品を含む物産売買と金銭貸付を兼ねた「三ッ輪店」（あるいは三ッ輪商社）を開業し、旧藩士中の經理に明かるい者をして業務を管理せしめたのを濫觴とし、明治九年には新国立銀行条例制定の影響を受けて物産売買は廃止し、金銭貸附・預金を主とする銀行類似会社に転身して来るのである（以上、詳しくは、『常陽銀行二十年史』および市村壮雄一「三津輪銀行の今昔」―「亀城会報」一九号所収―を参照）。本項所収史料は、この期間に関するものである。地所・米雜穀・株券・証書等の抵当貸、預金、貸附金等の項目に分けて年々の収支決算を報告したものである。

『寄附・献納』は、教育・社会事業諸団体等への寄附や加盟に対する感謝状・証明書類、救恤関係のものを収めた。この中には土浦関係のものも含まれているので注意されたい。『目録・入記』は『領知』において述べたとおりであるが、土屋家における文書・記録の整理過程を知るにも参考になるものが多い。

『勤』

役』

本項には、一部、後の『御役儀』にも関係すると思われる史料も含まれている（出仕・日光勤番・御法事および拝領御札等に関する

る史料)が、可能なかぎり両者を別立てとした。『在着御礼・献上』や『御代替』・『参勤』の献上関係史料は、土屋家独自の勤役に関するものなので、先の『相統』と同様に献上一般とは別立てにしたものである。『在着御礼・献上』に関しては、天保一一年の例でみると、「在着付而為御礼以使者干鯛一箱進上」したのに対して「逐披露い処一段之仕合云々」の文面で、本丸老中・西丸老中・大納言様附老中がそれぞれ連名(大納言様附のみ単記)で、ついで若年寄・御側衆は「為御礼老中迄以上使就被相達い趣令承知云々」の文面をもって連名で各三通、合計九通が一年間(一回)に返札が発せられている。文面の形式には二〜三通りがあるが用例は省略する。(なおこの点については、本目録に収めた「福井家文書」の関係史料が参考になろう)。「立固」は、御成跡・御葬儀跡・御婚礼跡固が多い。

『御祝言上・献上』は、見るとおり、儀礼的・形式的な將軍家(城中)御祝儀に関する御内書・老中返札および献上伺書附札・献上目録・御書附類である。(これらの諸文例は省略する)。「定式御祝儀」は、年始・八朔・歳暮および五節句等を収めた。配列原則としては、馬代

太刀目録(折紙)―献上伺書御附札―御内書渡御書附―御内書―奉書渡口上書―奉書(返札)の順序である。「御内書」は、篤直宛家治御内書まで(836.~838.)は、寛政元年に泰直が整理に当り自封しているのでこの原形を尊重し、それ以後は、ほぼ年代順に配列したが必ずしも原則どおりの配列ではない。なお、土屋家の「時献上」品は、正月御盃台・五筭・土用鮮鯛・月栗・月銀杏・寒雁・月十二白鳥である。

なおこれらの項に多い老中返札・御書附等においては、差出人名は多く省略し、年月日も煩を避けて適宜省略することにした。儀礼的な性格のものが多くからである。「」内も随時必要に応じて掲げたし、宛名も官名が必要なものは掲げてその名乗を()内に示したり、名乗・官名的一方だけを掲げたものもある。

『見舞』・『悔』は、將軍家に差出した書状への老中返札類を収めたものである。『御用召状』は、御用召の内容が不明なものを一括しておいた。

『御役』 本項は、土屋家当主補任の例に従って、奏者番—寺社奉行—大坂城代—京都所司代の順に配列した。

儀』 『奏者番』『勤仕中書類』は、土屋家当主の勤仕中に役儀に関連して作成されたものうちとくに勤方一般に関するものを収めた。

『御鷹野』以下はまとまった史料があるのでとくに項を立てたものである。『日光御名代』は奏者番役儀として勤めるもので、ここに収めた。『勤方例書』は、法令・先役勤覚書写・御続帳・絵図等多様なものを含む。大部分は先役諸大名の勤覚書を借用して土屋家において写し取ったもので、いわゆる引継書類ではない。奏者番勤役中の掌中手帳として作成されたと思われるものが多い。410.~412.は項目索引・目次が附されていて便利である。427.、465.~467.は内容上大同小異であるが、これをはるかに詳細にしたものであり、D87.は奏者番勤方手鑑であり至便な参考資料である。638.―631.は、頭書によれば、ほかに「社人并遠国町人之部参上御礼期月之進達」・「寺社御礼之部足袋用ひ定諸礼服」の二冊があったはずであるが、現存しない。本項には先役脇坂安董の作成史料が多い。635.跋文に

楓山及両山之御成その規格の盛なる尤巖然なりといへとも、時に臨てかならず随宜の計ひなからんはあらず、古にいふ事前定則不因これ余か夙志にして此巻を編纂する所以也、編成りて素他観を需るにあらず、巻而懷之竊に随宜の亀鑑に備る而已、今や縁山の部漸成りて三山全く備る、因之共成功を誌んことしかり

とあり、639.には「諸宗衣鉢階級次第、是迄耽といたしひ書面無之ニ付、今度諸能書江申付、則帳面差出之ひ、依而以後為見合月番筆簡江入置者也」とあることが、こうした先役覚書等の性格・成立事情を物語るものであろう。つまり、本来はいわゆる役儀上引継書類ではなく、私的留書・心覚等として作成され自家の筐底に秘しておかれたものを後役が個人的に借用して筆写するのが通例であったと思われる。後期に至って、こうした不便さに対して、次第に公務上必要な書類が公的な引継・保存を目的として作成されて来るのであろう。『寺社奉行』についてもほぼ同様な観点から史料を配列した。（なお、両者の関係史料として最も整備されたものの一つとしては、群馬県館林市立図書館所

蔵「秋元家文書」があることを付記する。

『大坂城代』の大部分は寅直時代のものである。政直に関するものは『転任』・『勤役中書類』・『例書』に若干の史料がある。寛文・貞享の大坂城代等に対する「家綱黒印状」および「老中御条目」（原題は「下知状」）は著名なものであるが、いずれも写である。『例書』のうち寅直時代の大部分のものには「土浦記録方」の朱印が押されている。これも先役諸大名の勤書・覚書類が克明に写されたものである。なお、『例書』437. には大坂城代引継目録（文書・記録・鍵、その他武具・御道具類）があつて勤務内容の一端を示してくれる。寅直自身の勤方の内容を伝える史料はあまり多くない。先述のように、これらの点は大阪市立図書館所蔵「日記」に拠らなければならぬであろう。D25. がわずかに、大坂表御警衛・諸家御固場所・御台場・物価引下方・市中取締等について、後役の問合わせへの返答書写としてその一部を伝えてくれる。685. 1342. もその関連史料であろう。外交・海防関係史料は、ほぼ年代順に配列した。大部分は『大日本古文書 幕末外国関係文書』に収められているものであるが、部分的には開港前後の大坂城代以下地役人に至る役人層内部の動向を伝える史料も含まれている。「大久保家文書」の『親春（要）関係』のうち『大坂城代公用人中記録』も関連させて利用してほしい。『大坂城代以後・公用人記録』の史料の性格については、この解説冒頭に触れたので再説しない。史料は便宜上、年代順に配列した。これも、「大久保家文書」の『国事・執掌中書類』と併用しなければならないものである。末尾に政直の『京都所司代』時代関係史料を置いた。

『藩政』『藩法』585. — 587. は、文化・文政年間の家臣団統制や郡奉行勤方に関するもの、617. 618. が時期的には天明以降の記

政』事があつて天保に及び、範囲はやや広い。554. 「雑書 地」の「文武・賞罰・御勝手・着服」には「七・八・九・十」の頭註朱書があり、また「被仰出之内不取用分天保十亥年追々朱点ヲ掛け事」と朱書があつて、藩政改革の政策項目にかかわっていることを推定させる。745. 「泰直直書」は、36 D 34. および 43 B 1. 7. (いずれも「大久保家文書」と同文同趣のものである。『藩財政』では、591. 「一ヶ

年入用積」のほかに、この時期の全容を窺い知る手がかりはない。『御手伝普請』・『土屋邸御成一件』、および『勘定所伺』の『勝手方』に関連史料が含まれている。『維新後藩制改革』の制度関係史料のうち、610、611、614はほぼ608と同じであるが、若干改革の時間的推移がある。禄制関係史料はのちにまわした。『戸口』の内容を知る手がかりは、明治初年の調査になるものしかない。本文指示記号の該当箇所にとってほしい。『寺社』は領内寺社の仕置に関するものを掲げた。公儀寺社奉行への伺書・問合書（附札）が多い。

『領内見分』は、土屋家当主在城中に領内見分をする際に他領止宿する場合の伺書である。老中からの附札が多い。『巡見図』は、ほとんど大部分が慶応元年・二年のもので、土屋尹直氏蔵「御系譜」の慶応元年二月九日条に、浮浪取り締まりのために余七磨（挙直）を巡見させたいとの願書を出したとあり、二年八月二五日条に「為名代孝直岩間領巡見九月二日 巡見済」とあることから、ほぼこれに関連して村々等から書上げさせたものと推定される。村絵図一枚ごとに作成に関与した村役人の名が見えている。

『勘定所伺』に配した史料は、本文書の特色を示すものの一つであろう。（これを『公事方』と『勝手方』に分けたが、土屋氏領内行政上の独自の案件に関するものも入っている。この区別は一応の便宜的措置である）。例えば、102は、享保一六年開発の吉岡新田百姓三〇軒ほどを、困窮のため本村移住させて耕作させることについて、「駅場村ニハ無之故表立御届」必要がないにもかかわらず一応伺うという趣旨のものである。領内質地出入の処置など、この種の内意伺書がかなり多いのが目立つ。688は仁井田村との三ツ目段論地出入に関する史料である。『勝手方』1007は、泉州・作州・江州領合計三万五千石のうち一七五石余を大坂蔵へ納め、残りは土浦蔵へ納めたいという伺書であるが、詳細な事情はわからない。1025は、天明二年に野州真岡町次郎兵衛休株を相州足柄郡中村原弥右衛門が譲り受けて常州筑波郡東城村で綿実絞りに当り、その後江戸深川大和屋へ譲渡していたが、焼失後の再願不許可に対してこの度替屋稼業願が出されたことに対する土屋家の伺書である。勘定奉行が許可を与えているが、この史料も土屋家の伺書の性格を考えさせるものである。

『家[。]中』の『席[。]順』のうち557.は、大坂住居の者も記入があり、寅直大坂城代中の記録かと思われるがはっきりしない。『諸[。]士[。]年[。]譜[。]・分[。]限[。]帳』は大体297.―307., 308.―322., 338.―347., 348.―350.の順に詳しく、ほぼ同文である。後二者のうち、前者の朱書あるいは書込みなどが後者本文に組入れられた形跡があるが、これらの作成事情は本史料からは判明しない。なお、イ・ロ・ハ等見出に一部重複するものがあるのは知行取と扶持米取の差かとも思われるが断定できない。326.―336.は土屋欽以下七等下席までの格席および長柄格ほかの役職ごとに勤功調・旧高を記し、この上に新禄米高を貼紙したものである。禄制改革の調査に作成されたものと思われる。『知[。]行[。]・禄[。]制』については前述した。

◎ 「土屋家文書目録」の中で、請求番号の前に、Dの記号がある場合には、記号を必ず記入してください。

(土屋家文書目録解題 終)

土屋家
中大久保家文書目録解題

文書の特色と伝来

大久保 本文書は、常陸国土浦土屋家の家臣大久保家の原蔵にかかるものである。

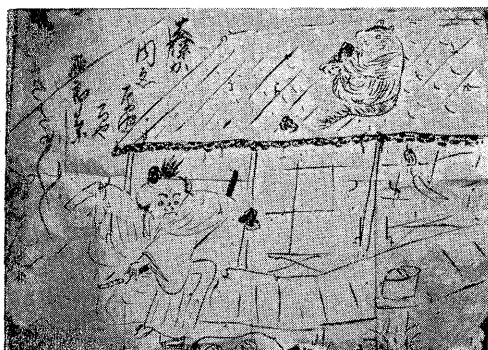
保家 家伝によれば、大久保家の祖親信は、はじめ武州男衾在赤浜に居住して小田原北条氏に従い、親家のとき水野長勝（のち、石見守）の麾下に入り、その子満親が土屋数直に召出され、親安以後代々禄高三百石をもつて土屋家に仕えている（略系図参照）。親安が御用人・番頭・家老に任命されているのをはじめ、代々御用人に列した者が多いが、なかでも大坂城代を勤めた土屋寅直（上士）に仕え、その公用人として在勤中およびその前後に、水戸藩勤皇派と連なつて国事艱掌に活躍したため幕府の譴責を受けて永蟄居の身となり、安政六年藩邸内に幽閉中六二歳で病死した親春（要）が同家歴代中著名である。

文書の 本文書のうち、主として享保以降歴代当主の勤役関係史料は、藩政史料のきわめて少ない譜代藩としての土屋家の文書の闕落部
特色 分を補ない、かつ「土屋家文書」と相関係の深い稀少史料の一つであるし、家関係史料もまた譜代大名家における上級家臣の形成と展開の一端を示すものであろう。一方、親春（要）関係史料は、とくに「土屋家文書」中の関係部分とあい補ないつつ、幕末政情、とくに主君寅直大坂城代時代の国内政情および外交事情の一端を知る手がかりとなるべきものであり、とくに後述の如く、嫡子親正の整理・補註が加えられた、現存の要関係史料としては最もまとまりかつ良質のものといえるであらう

「土屋家文書」

との関係

本文書は、昭和三六年と四三年の両度に分かれて当館に収蔵されたものである。三六年度のものは、旧土浦藩士の組織である亀城会発行「亀城会会報」二三号（昭和十九年）所収望月茂「大久保要と密勅降下運動」によれば、故大久保親正未亡人たき子（以下、本文においては故人の敬称を略す）の意志により望月茂が斡旋して、大久保家伝来文書を土屋家宝庫（現土浦市小松月見台六二一に昭和五年に建設されたもの）に移されたという。この場合の所有権の帰属関係ははっきりしないが同宝庫内に保管されていた期間に、土屋家伝来文書との間に若干の混入・移動があったものと推定される。当館においては、昭和三六年に土屋家宝庫内にあった文書を書

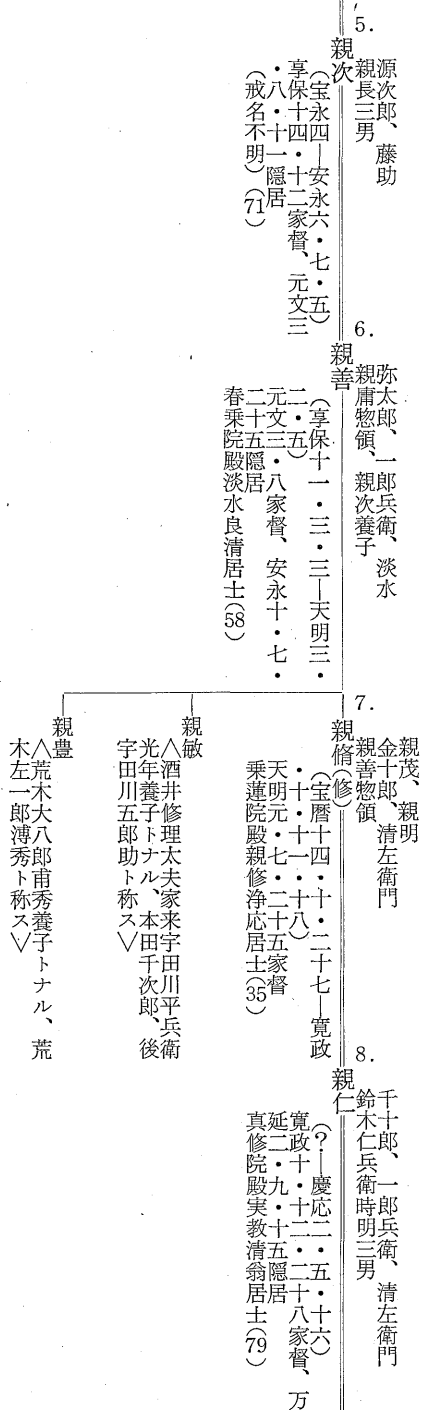
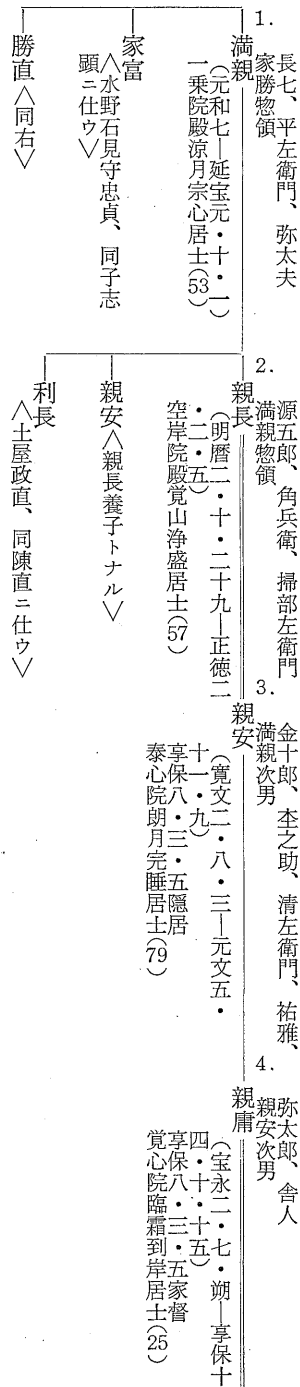


（大久保氏ヲ諷刺セル戯画）〔大久保家文書 30.〕

「土屋家文書」に混入されていた場合は、

店を通じて譲渡を受けたさいに、前記事情によると推定される本文書と「土屋家文書」（昭和二九年収納済み）との間の混入・錯乱が確認されつつも、事情不鮮明のままひとまず「36 D 土屋家文書 追加」として処理し今日に至ったのであるが、今回の目録作成に当ってはこの事実に鑑みて、可能なかぎり両者の関係を明確ならしめることに努めた。すなわち、本来明らかに「土屋家文書」の一部をなしていたと思われる史料は、36 Dの函架記号はそのままとしてこれを「土屋家文書」に返戻しその中に配列した（例Ⅱ「土屋家文書」の『勤役』『御手伝普請』 36 DⅡ「関東川々御普請御手伝一件留 一・二・三」。また断定はできないが本来「土屋家文書」に含まれるべきであると思われる史料も数点、可能なかぎりこれを同文書に返戻配列してある（例Ⅱ『御役儀』『奏者番』『勤仕中書類』の項、36 DⅢ、36 DⅣ等）。但し、反対に、本来「大久保家文書」に入るべきもの、すなわち大久保家作成・伝来史料であったと推定しうるものがあえてこれを「大久保家文書」に返戻配列していないことは、前記「土屋家文書」解題（一〇三

〔土屋家 中 大久保家歴代略系図〕



9. 親、親賢
李之助、黙之助、要
親脩惣領
親春
(寛政十・六・十一 安政六・十
二・十三)
誠姓院殿親春鶴翁居士(62)
10. 常松、邦之助、律之介、要
親正
親春次男
(天保七・三・二十五 大正五・
一一・二八)
11. 親誠
親正長男
(文久三・十二 明治三十五・九
・十七)
12. 親正長女
すゞ
(40)
13. 正(現当主)
すゞ長男

凡 例

1. 人名右肩のアラビア数字は歴代当主の代数を便宜上示したものである。
2. Ⅱは養子を示す。
3. 当主人名右脇一行目は父との続柄、二行目は幼名・通称・雅号等、三行目は名乗異称を示し、左脇は一行目から順に(生年月日―没年月日)、家督および隠居年月日、法名(没年令)を示す。
4. 次男以下は△▽内に略歴を摘記した。
5. 本系図は主とし、大久保家文書に収められている諸系図・系譜類により、あわせて大久保正氏のご教示を得て作成した。

頁参照)に述べた如くである。両文書の利用に当っては、この二つの事実にとくに留意されることがのぞましい。

「大久保家文書」の名称 次に四三年度のものは、前者が大久保家から土屋家に移された後に、その一部をなす文書類が、大久保親正長女伊藤すゞ氏(現当主大久保正氏母堂)の手許に所蔵管理されていたもので、昭和四三年に現当主正氏(東京都文京区千駄木二丁目四の

一)のご好意によって当館が譲渡を受けたものである。43 Bの記号を付したものがこれである。本文書は、この36 Dと43 Bを合体してこれを「大久保家文書」と名付けたものである。右の事実によってみるに、本文書は、大久保家歴代によって作成・保管されて来た伝来所蔵文書であることは明らかである。前記「土屋家文書」およびこの「大久保家文書」の両目録において43 B・36 D・29 D等の区別を明らかにしたのは、あえて受入時の形態を尊重して後日考証の余地を残そうとしたからである。この点、諒とされたい。但し、両系統の文書のうち、目録本文では伝来経過の明瞭である43 Bを本体とし、36 Dを管理・閲覧利用の便宜上これを区別して配列した。本文中記号のないものは43 Bである。関連史料 なお、本文書原蔵者大久保家には、現在、「大久保系図」一卷、「(古過去帳)」一帖、「天保二年十月二十三日、兵学許可書」の所在 一卷(要親春宛カ)のほか、土屋彦直・川路・市川・関氏らの墨蹟若干のほか大久保家歴代当主使用旗差物数本が残されている。前記三点については、同家のご好意により電子複写による複製を作り、参考のために本文書の末尾に収めた。このほか土浦市立図書館所蔵郷土資料に「望月茂氏旧蔵図書」が収められ、大久保要詠草稿類、往復書状等写類が数点含まれていることを付記する。

文書の配列と概要

つぎに、収録史料について若干の説明を加え、検索の便宜に供したい。

本文書は、全体を『藩主土屋家』ほか四つの大項目をたててその関係史料を配列してある。文書名からすれば、このうち『大久保家』が冒頭に配されるべきであるが、先述のように、本文書と「土屋家文書」との関連を重視して『藩主土屋家』を冒頭におくことにした。（以下本文においては、史料名は略記する）。

『藩主』 本項は主として大久保氏の作成した土屋家関係史料を配列したもので、つぎの『藩政』とともに「土屋家文書」と相互に関連・土屋家」補充しあうものが多い。『系図・系譜』のなかではD27.「中田誠之允上書」が寅直嫡子数之助死去後の継嗣問題についての藩

内の動向の一端を伝えるものである。『城郭・屋敷』D28.「中田上書」も城郭普請のほか町割・藩士土着策など幕末期の藩政改革の動向をうかがわせるものである。『御道具』・『御具足召』は、親善の御小納戸掛、親脩の御小納戸役・上座御道具役、親仁の御用人勤仕中の記録であり、「土屋家文書」にはこの関係史料が欠けている。『祖霊社』中の各史料も本文書特有のものであり、「土屋家文書」の『家扶日誌』とつきあわせることによって明治中期の旧藩士の動向と構成を知りうる。

『藩政』 本項には藩政の動向を大久保家歴代の勤仕中書類を通して知りうるものを配列した。『藩政一般』では、まず在来の御小納戸・御

政』道具役から寛政元年一〇月一五日に御近習目付・吟味見習に任命された親脩が、藩主泰直から藩政・藩士動向探索の密命を受けて行なった監察報告関係史料を収めた。D3.「親脩日記」および「土屋家文書」14.「純徳院様」在邑中日記」・同25.と対照利用の必要があるものである。つぎに主として親仁の御用人・年寄役当時Ⅱほぼ天保―安政年間の御用関係記録も、藩財政・家臣団統制・規式の様相を示す唯一のものであり、とくに藩財政関係史料は「土屋家文書」の欠を補なっている。『操練』は親仁以降三代の物頭役や馬廻御番入あるいは目付・吟味役としての記録と思われ、『大久保家』『武芸』とも関連させて利用されたい。『親正公用人中記録』は土浦藩政の公的経過を示すものを収め、親正個人の動向を示すものは『親正公職勤務中書類』に配列したので注意されたい。なお25.「親安日記」は便宜上

『大久保家』に配列してあるが、中期藩政の動向を知るには「親脩日記」と並んで利用さるべきものである。

『大久保家』では23.「(略系表)」が「土屋家略系表」と同型式で便利であり、ついで16. 17. が親春までの最も要を得た系譜である。親正については『家事・家政』および『親正』の項にも関連史料を配列してある。『書状』は主として消息に類するものおよび家に関するものを置き、とくに親春関係のものは若干消息に類するものであっても『親春』の項に抜き出して配列したものもある。『詠草・記録類その他』には、親春関係のもので本来『親春』の項に入るべきものも、便宜上ここに配列したので、その項『履歴・政論』の史料と関連させて利用してほしい。

『親春(要)』 親春一代の年譜は前項『家』から分離してとくにここに置いた。大部分、親正の関与・作成になるものである。30. 関 係』 「(大久保氏ヲ諷刺セル戯画)」は親春・親仁のいずれかに関連するものと推定されるが断定できないので、しばらく前項の『藩政一般』においた。『政論』には、必ずしもその思想究明に充分な手がかりを与える史料があるとはいえない。『大坂城代公用人中記録』には、大体藩主寅直在役中までのものを収め、その前後のものは『国事軼掌中書類』に入れた。

『土屋家文書目録』 解題の本文にも触れたように、この両項目の史料は、大部分親春Ⅱ要が主として大坂在勤中に、江戸・長崎その他にいる藩役人・同志からの公用状や私的書状および水戸藩関係者や勤皇派の同志からの報告書・風聞等を半紙に写し纏めて仮綴じしておいたと思われるものを、恐らく嫡子親正が朱書・補訂をして整理を加えておいたものと推定され、本来内容あるいは年代ごとに仮冊子形式で整理されていたものであるが、当館受入れ以前に甚しい錯乱があって復元は不可能なので、紙綴で綴られたものはほぼそのままとし、他のほとんど大部分は一通ごとに独立させて整理した。従って内容・差出人・宛名・年代ともに、省略あるいは闕落しているものも多いので、ここでは一応の年代推定を行なって、ほぼ年代順に配列してある。再述するまでもなく、ここでの史料は「土屋家文書」の『大坂城代』諸項

目に配列した史料と本来同系統・同種のもものが多く、その一部のもがこの項目に配列されているといってもよいので、この点に留意して利用されたい。

『親正公職勤
務中書類』

本項では、親正の土浦藩権大参事以来、政府出仕に始まり明治二六年七月の長野県大町区裁判所判事退職までの書類を収めた。

末尾に、東京都文京区千駄木二丁目四の一大久保正氏所蔵文書・記録のうちから、家系に関するもの三点の複写史料を掲げた。

- ◎ 「大久保家文書」は、この目録に収められている「常陸国土浦土屋家文書」の中にも含まれているので、併せて確認して下さい。(土屋家と区別をするため、大久保家文書には、Dの記号がついている)
- ◎ 「大久保家文書目録」を請求する場合は、請求番号の前にあるB、またはDの記号を必ず入力してください。

(大久保家文書目録解題 終)

秋元家
中 福井家文書目録解題

文書の伝来と性格

成立経由 本文書は、昭和二九年に、旧上野国館林秋元家中福井氏の子孫小林^{ただし}淳氏（現在、群馬県館林市大手町十二番二十号に在住）

と福井氏 から、書店を経由して当館が譲渡を受けたものである。小林氏は、旧館林藩士福井多門（重衡）の子乙矢^{おとや}（故人の敬称略、以下同）の二男で小林家に入籍されたものであるが、現在にいたるまで永く、弘化三年山形より移住以来の福井家邸に居住して同家伝来史料の保存・管理に当たって来られたものである（略系図参照）。

本文書のうち秋元氏勤役関係史料の数冊（とくに幕末関係のもの）には、福井乙矢蔵書のうち合計八冊が借用された意味の符箋が付されているから、おそらく明治―大正の交に某機関がこれらの史料を利用していることがわかるが、それがどの機関であるか、目下のところ確定できない。

福井氏に関する詳細な経歴は明らかでないが、館林市立図書館所蔵「山形旧家取調帳」によれば、初代市郎兵衛は三州田原戸田因幡守の家来で、戸田忠昌の子喬知（済川院）が秋元富朝の養子になった折りにこれに従い、以後禄高三五〇石をもって歴代秋元家に仕えたものである。従って代々近習召出に始まり、取次役（一時期家老か）を勤めたようであるが、史料上最も多くあらわれるのは者（物）頭、ついで寺社奉行、町奉行に関するもので、恐らく要門（上杉氏流軍学）後裔を称する同家がこの関係の記録を多く所持したのも代々者頭役を継

〔秋元家
中 福井家略系図〕

1. 市郎兵衛
2. 市郎兵衛 隠居後、寿秀
初、伝左衛門
3. 市郎兵衛 初、源次兵衛
4. 源次兵衛
5. 市郎兵衛 又、源次兵衛
初、佐十郎

6. 源次兵衛
7. 佐十郎 初、伊織

湊 源次左衛門
清成
文化五・五・四—明治
十七・八・十四

多門 重衡
天保十一・二・二十六—慶応
三・八・十二 (31)

乙矢 重房
文久元・十一・二十五—
大正二・八・二十七

勝二 大正八没
文雄 勝二
昭和四三・七没
智房
淳 小林氏
静江

凡 例

- 一、人名右肩のアラビア数字は便宜上の歴代順、右下は初名、異称、隠居名等、△内は名乗、左脇は(生年月日—没年月日) (没年令)を示す。
- 二、本系図は主として「福井家文書」によったほか、館林市立図書館所蔵「山形旧家取調帳」、同「壬申戸籍」、館林市朝日町法輪寺の福井家代々位牌を参照し、小林淳氏、館林市立図書館長川島維知氏のご教示を得て作成した。

たこととつながりがあるのであろう。

文書の特 色 本文書は、大別して福井氏において作成し伝来されたものと、藩役人が作成し本来藩庁に帰属していたと思われるものの二種類の史料によって構成されている。

前者は、福井家系・家学、藩主家、藩主公儀御役、家中、組支配、在番勤役関係の諸分野にわたっている。右のうち、旧藩主秋元家所蔵史料は関東大震災によってその大部分が烏有に帰し、かつ川越・山形・館林等の旧領地における支配関係史料が極めて不足している現在、家中・組支配、とくに各地在番勤役中史料はそれらの欠を補なうものとして重要な位置を占めるものといえよう。これらの大部分には、寛政年間に寺社方・町方役人を勤めたと推定される源次兵衛重憲の所蔵署名・印があり、この時期に一応の整理が行なわれた形跡を認めることができる。なお、かなりの冊子に「福井源氏」なる蔵書印がある。

次に後者は、西丸大手門・内桜田門等の秋元氏江戸城御門番勤番に関する数種の日記であり、本文書の最大の特徴をなすものである。後に詳述するように、その範囲は元禄年間から幕末におよび、その内容は単なる御門警備記録に止まらず、諸法令などをおして各時代における幕政の動向、とくに江戸城内における幕府当局者・諸大名の動向を如実に窺わせる好史料である。幕末開港以降の桜田門勤番記録などはなかでも貴重なものといえよう。諸譜代大名家勤番記録写も詳細な分類・整理による見出項目が付され、利用に至便なものである。

本来これらの日記類は「秋元家番頭方」によって筆写・整理・書継ぎがなされ、藩庁において保存・管理されて来たものであろうが、恐らく福井源次左衛門清成の代に至って何等かの事情によって福井家によって保存・管理され、子重衡（多門）以降同家が継承し来ったものと推定される。なおまた、福井家において歴代藩主の公儀御役（とくに奏者番・寺社奉行）補佐に際して作成したと思われる幕政（法）関係の諸記録は、本集に収めた「土屋家文書」の公儀御役関係史料と関連させて利用できるものである。

以上のように、本文書はその収容数量は比較的少ないが、譜代藩政史料の一般に少ない現在、とくに秋元藩政を知る手がかりの一端を与え、かつ幕政の動向を窺い知るための史料を多く含むものとする事ができよう。

関連史料 の所在

本文書と系統を同じくし、その一連のものである史料で、現在小林淳氏所蔵の主なもののはほば次のとおりである。

1. 福井市郎兵衛清行宛秋元喬知直書 一括 [全七巻之内とあり本文書中の一部をなすものである。約二〇点。但し錯乱]
2. 秋錦録後編 枝紅葉 [秋元氏家臣系譜] 美 一冊
3. 山形福井源次兵衛組 [組士扶持] 半 二冊
4. 済川院様川越城請取之節江戸より□□□□ 宝永二年酉ノ二月十九日 半 一冊
5. [御定書] [幕法] 美 一冊
6. [家康公御文言写] 天保七年・安政六年重衡写 半 一冊
7. 日光表御在陣中非常井出火之節御行列帳 [御供御番頭手扣写 本文書29. 30. 35. と関連] 元治元年六月 横長半 一冊
8. 御領分寺院帳 [館林] 横美半 一冊
9. [武術・兵学免許書] 約二〇巻

このほか、若干の武具・書画類が残されている。なお『名将言行録』の著者で旧館林藩士岡谷繁実作成・編写にかかる写本「岡谷文書」が右小林氏によって保管されており、これには秋元氏旧館林藩政史料としても貴重なものが含まれている。

秋元氏関係史料は、秋元文庫委託図書・史料として公儀御役中史料等が館林市立図書館に整理・保管されており、その他おおむね同図書

館和書目録収載の郷土史関係史料が、惣社・農村・川越・山形・館林・山陵修補・戊辰・秋元家譜・図面・岡谷氏関係などにほぼ分類されて架蔵されている。(他の地方・機関に散在するものについては記述を省略したい)。

文書の配列と概要

本目録では、はじめに福井氏関係記録・文書をおき、秋元氏御門番役関係記録を後半に配列した。

『福井』 本項は『福井氏家系』・『消息』に分けたが、主に同族・親類よりの書状類をその主内容によって分類したもので相互に関連しているものが多い。先述のように家系を知る手がかりはきわめて少なく、現段階では、次項の『勤役一般』などの史料から部分的復原を行なう以外にない。(以下、史料名は略記する。)

『福井氏 勤役一般』のうち『喬知直書』は、寛文五年七月二日奏者番、天和元年十一月一九日寺社奉行加役、同二年若年寄に列し、のち元禄十一年一〇月六日に老中に進んだ主君秋元喬知の側近として、主として右公儀御役勤に関して受けた直書であり、宛

書は市郎兵衛(清行)のほか一、二名の連記となっているものが多い。藩政仕置に関するものも若干ある。はじめ七巻にして寛政二年三月源次兵衛重憲が整理して封印しておいたものであるが、現在四巻のみしか伝わっていない。他の三巻のうち断簡が小林氏のもとに所蔵されていることは先述した。各巻は短い書付を十数点あるいは数十点を継ぎ足したもので、巻ごとにとくに内容上の特色は認められない。直接初・中期の動向を知るものとしては、唯一のものである。以下の四種の史料は、福井家歴代当主の動向にかかる私的な記録である。「重衡覚書」は最も詳しい勤功書であるが、とくに近習役から大砲方に任命された藩政最末期の、軍備改革の一端を知り得る史料である。

『在番』の諸史料は、秋元氏の川越（宝永元年—明和四年）、山形（明和四年—弘化二年）、館林（弘化二年以降）領知時代にわけて配列した。このうち山形時代のものが最も多い。「前掲集」は組支配に関するものであるが、とくに山形時代の記事が中心なのでここに配列した。寺社方のものが多いが、「仮目付勤書」は城下町全般の統制にかかるものである。三時代の区別は一応の便宜的なものであるから、内容が相互に関連していることに留意してほしい。

『組支配』の諸史料は主として福井氏の者頭役としての手組支配に関するものが中心であるから、家臣団全体のかかわりあいでの組の構成・推移を把握するためには、本目録最後尾の『家中』の関連史料を見る必要がある。組士のみにかかわらず、秋元氏の家臣団統制の一端がこの兩種の史料で窺える。

『記』 本項には主に福井氏作成にかかる記録類を収めた。『軍書』は、例えば101「要門別条鑑」奥書に「要門末守福井隆兼享」とある

『録』 ように、上杉流軍学の末裔を自称する福井氏の筆写・蒐集した軍書が主である。『幕末風聞』は、大部分福井源次左衛門清成および文久三年藩主上洛に従った多門重衡の作成にかかるものと推定される。

『藩主秋元家』 本項は、前半に秋元氏歴代の領主としての史料を配し、後半に公儀御役勤・勤番に関するものを置いた。『家中』については既述。

秋元氏は、三代泰朝が甲斐郡内城代のとき（寛永一〇年）に、上野惣社から甲斐谷村一万八千石を領するに至り、ついで宝永元年、喬知のとき武蔵川越六万石、明和四年閏九月涼朝のとき出羽山形、そして弘化二年志朝のとき上野館林と転じているが、この間、喬知・涼朝とともに奏者番・寺社奉行・若年寄・老中に列しており、喬房・礼朝はいずれも奏者番を勤めている（略系図参照）。本項に収めた史料は大部分、この公儀御役勤および歴代の譜代大名としての勤番に関するものである。

〔秋元家略系図〕（家督年月日）
 〓は養子

元景^{もとかげ}（天正一五・一一・一二没）――長朝^{ながとも}（元和八年）――泰朝^{やすとも}（寛永一九・二〇・二三没）――富朝^{とみとも}（寛永一九・一二・一四）――喬知^{たかとも}（明曆三・一一・二四没）

喬房^{たかふさ}（正徳四・九・二九）――喬求^{たかもと}（元文三・一〇・二八）――涼朝^{すむとも}（寛保二・四・三四）――永朝^{つねとも}（明和五・五・二四）――久朝^{ひさとも}（文化七・八・二九）

志朝^{ゆきとも}（天保一〇・四・二三）――礼朝^{ひろとも}（元治元・一〇・二七）――興朝――春朝――順朝――和朝（現当主）

〔岡谷繁実編『秋元家譜』および『寛政重修諸家譜』による。年月日は『秋元家譜』に従った。〕

『幕法』の諸史料は「科条類典」・「御定書」等既に属するものに多く抛り、「寺町秘問集」・「公政秘鑑」等は諸藩より幕府評定所への諸伺願届書とその指令写が多い。いずれも藩主の御役勤に関して作成されたものと推定される。『公儀勤役』は勤番に関するものを収めた。宝永六年「滞京中之記」は、喬知上洛中の動向を老中が探索させた報告書の写であろう。○「御勤書」は山形領仕置の史料としても利用できる。

最後に『江戸城御門番役』に関する史料について触れておこう。

まず「西九大手置帳写」は全四一冊、各冊平均三〇四年分を収める。本文は月日の下に当番大名の名が記され、次いで記事（大名・旗本・公家・町人その他定式・臨時一切の出入者、事件、老中および目付よりの指示等が書込まれている）がある。各巻頭に収載年ごとにいず

れも十項目（初期のものは若干異同がある）の分類項目があり、それがさらに事件と月日付を付した細かい見出項目にわけられている。この十項目はおおよそ次のとおりである。

御成一件 御門出入開閉御供連一件 火事地震一件 御制法御目付御見廻一件 雑事一件 御普請御破損松草鵜繩一件

御吉凶御出仕御能献上一件 水死人浮物御堀持場一件 諸品出入御門縫一件 忌服故障一件 下馬固一件

但し「御定式御成之外日限定りゆ分目録ニ除」いている。

さて本史料の典拠となったものは、例えば享保二年正月朔日（当番小笠原佐渡守）付の記事に接して、朱書をもって「此頃置帳認振當時之姿とハ違ひ而御門開之儀其外正月之式之儀も不相見申、右ニケ条之様成儀斗認有之、入用ニも無之ゆ得共為見合式ケ条認置ゆ（下略）」とあって置帳なるものであったと思われる。置帳の実体は不明であるが、本文中にしばしば、「御門出入之古帳、御引替新御帳、右冊被遣之受取、御帳箱へ入置申ゆ」などのごとく公的帳面が番所に備え付けられていたことを推察せしめる。従ってこの場合、勤番大名家の私的記録ではなく、当番中に引継いで記録していった公的帳面が置帳であろうか。この点は次の「内桜田」でより詳しく述べたい。本史料は、右置帳を各冊二〜六名の調人（書足人とも）をもって抄写し、全体にわたり主として小林玄一郎が目録・見出を付け、秋元（または山形）番頭として作成・管理していったものと思われる。その目的はもちろん当面勤番時の参考に資することであつたし、置帳認振の参考にも供されたのかもしれない。

つぎに「内桜田」について触れておく。

3. 「内桜田」計二七冊は、まず見出惣目録二冊は天保七年九月松野幸右衛門の作成になるが、他の二五冊の成立事情の考察には次の記事が手がかりとなる。

まず第十五冊奥書に次の記事が見える。

比拾五冊ハ内桜田御門勤番之為長者重宝之書なり、其始^{○印朱、以下同}諸絵図[○]御書付[○]御定書[○]御口上御断之写三冊之内并一番より八番までの八冊は丹波笹山^{（く）}彦の藩士二木又右衛門某正業認置秘蔵する所の書なり、終四冊は安中左近忠善書繼所ニして元禄五申年より寛政七卯年まで百四年の間の置附帳面之内要用の所の抜書なり、猶諸絵図并御書付御口上御断等の書繼あらは古例古格を尋るに容易にして速なるへし

寛政九巳年

五月

中野弥一兵衛

重温^{（花押）}
（印）

次に第十九冊奥書に

右内桜田御門置附予一手を以寛政七卯年六月十二日ヨ文化十三子年十一月十八日迄廿二ヶ年書拔、浄書ハ老眼不任心大沼優之助長谷川健次郎助筆早、只筆紙を費といへとも後役之一助ニ備ふ

文政十年亥十二月

大沼角右衛門忠賢^{（印）}

とあり、さらに続けて翌十一年三月付で大沼が「内桜田御門必要書目」として、先の中野奥書に記されたものを含めて計十九冊の説明を加えている。それによれば、四より十一までは中野と安中の共同筆写であり、十二より十五までは安中の書拔に大沼が目録を補助したものであることがわかる。

なお二十奥書によると、「文政十二丑年四月西丸大手御門ニ而六十九翁大沼角右衛門忠賢認之」とあるので、推測するにこの置帳は御門詰所からの持出しを禁じられていたために勤番中に逐次これを抄写して行ったものであろうか。二十一以降は天保三〇四年に、恐らく置帳と思われるものを数人で分担筆写したものである。

以上の事実からみると、本史料は寛政九年から天保五年までの間に数人の手によって諸書から抜書きしたものを、恐らく天保七年に松野幸右衛門によって最終的に補筆訂正が行なわれ渋紙によって表装されて「内桜田」二七冊として成立したものである。その成立年代・作成者は、それぞれ見出惣目録Ⅱ天保七年松野幸右衛門、一―十五Ⅱ寛政九年中野弥一兵衛・安中左近（但し十二以降の見出目録は大沼）、十六―二十Ⅱ文政十年―十二年大沼角右衛門、二十一―二十五Ⅱ天保三年―六年松野等数名、である。

右に述べた「見出惣目録 一」の項目は次のとおりである。

御門出入并開閉

●公家衆宮御門跡御三家様御登城之部

御老若様御登城御退出之事

諸家登城

●昼夜御門出入之部

●乗輿御供連之部

また「同 二」は

●御門開閉之部

●御制法事紛者道違

●琉球人

●御吉凶御用出入諸品

●馬牛象犬之部

●出入雑事

火事地震一件

●地震之節勤方之部

●火事注進之部

●火事御注進狀御門繼之部

●火事地震御門出入之部

●出火之節御門開閉之部

御吉凶出仕御能献上一件

●薨御御逝去之部

●御着帶御誕生日之部

●將軍宣下御代替之部

●御移徙御移替之部

●御転任御昇進之部

●若君様御祝儀之部

●来聘之部

●山王御宮參之部

●御袖留御元服之部

●出火ニ付御上り御詰之部

●出火ニ付御防人数御城入之部

●出火ニ付伺御機嫌御出仕之部

●火事着服之部

●火事雜事之部

●蹴鞠管弦舞樂上覽之部

●阿蘭陀人登城之部

●正迂宮勤方之部

●御挙羈御料理被下之事(マ)

●御庖瘡其外御酒湯濟御出仕并献上勤方之部

●御法事相濟御出仕并御能之部

●年号改元之部

●御縁組御婚礼勤方之部

●京都御吉凶之部

●御吉凶雑事之部

●水死之部

●紅葉山八構之事

の項目にわたっている。つぎに各冊は巻頭にいずれも

- | | | | | | |
|--------|-------------|--------|---------|---------------|--------|
| 一 御成一件 | 一 御門出入并開閉一件 | 一 火事一件 | 一 御制法一件 | 一 御吉凶御出仕并献上一件 | 一 浮物并水 |
| 死一件 | 一 忌服故障一件 | 一 異変一件 | 一 雑事一件 | | |

の各項を掲げ、さらに各項ごとに関係記事と月日の見出しをつけており、利用にはこの三重の見出しが極めて便利である。

さて、右のうち冒頭八冊は丹波篠山藩士二木又右衛門秘藏書に拠った、とあるが、その真相はどうであろうか。いま、秋元家番頭の勤番日記Ⅱ秋元家の私的記録である享保十五年「内桜田御番所日記」と本史料の各該当部分を比較して示すと次のとおりである。

△本史料▽

享保十五年

正月三日

秋元但馬守

一戌刻前水野和泉守様様挑灯持御中間御橋先左之方御堀江落いニ付早速人出引上、尤紀伊守様御家来中も立会被申和泉守様押之者へ相渡遣之、何之怪我も無之い、出役之御徒目付立会事済申い、

△御番所日記▽

今夜戌刻前水野和泉守様御家来挑灯物鵜首左方御堀江落い所早々人出し引上ケ押者江相渡遣い、尤何之けがも無之、其節出役ニ而御徒目付大滝平七殿木原五左衛門殿立合被申い事済申い

両帳は内容はほぼ同様ながら、記載形式は明瞭に異なっている。従って二木氏所蔵本も秋元家の勤番中私日記ではなく、明らかに公的引継日記Ⅱ置帳に類するものであったことが推定できよう。本史料が二木氏所蔵本にまったく手を加えていないかどうかは明らかでないが、ともかく「内桜田西丸大手御番所中御勤番覚帳」のごとく、私日記は、秋元家が書役をして自家の覚書として作成されたものであり、それは御番所備付けの公用日記とは別に存在したものであることはほぼ明らかである。「覚帳」の勤番引継事項の一つに「諸帳面請取云々」とし、しばみえるのも、これらのことを指すのであろう。秋元家において番頭と共に任命される書役は、「覚帳」とともに「置帳」の記録にもたずさわるものであろうか。

他の部分についても、その典拠はほぼ、右の置帳であることは明らかである。江戸幕府における江戸城諸門警備の記録である「置帳」そのものの全貌が明らかでない現在、元禄以降幕末にいたる長期間にわたって、詳細な分類項目・見出索引の完備した、本史料の利用価値はきわめて高いものといえよう。

〔付記〕

本目録の作成には、鎌田永吉が当たった。作成に当っては、多くの関係者の方々からご教示とご協力を賜わったが、とくに左記の方々にたいへんお世話になった。末尾ながら、ここに芳名を記して、深甚の謝意を表する。

（順不同 敬称略）

土屋尹直 土浦市立図書館

土浦市史編纂委員会

茨城県史編纂室

古西義麿

大久保正

青木光行

小林 淳

館林市立図書館 川島維知

1159

史料館所藏史料目錄 第十五集

昭和四十四年三月三十日印刷

昭和四十四年三月三十日発行

東京都品川区豊町一丁目十六番十号

編輯者 史料館
発行者

印刷所 株式会社 依田東文堂

東京都江戸川区西小岩三ノ六ノ三
電話(六五九)〇一二一番(代表)